

[illegible]

シート No 220362

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

標準貫入試験

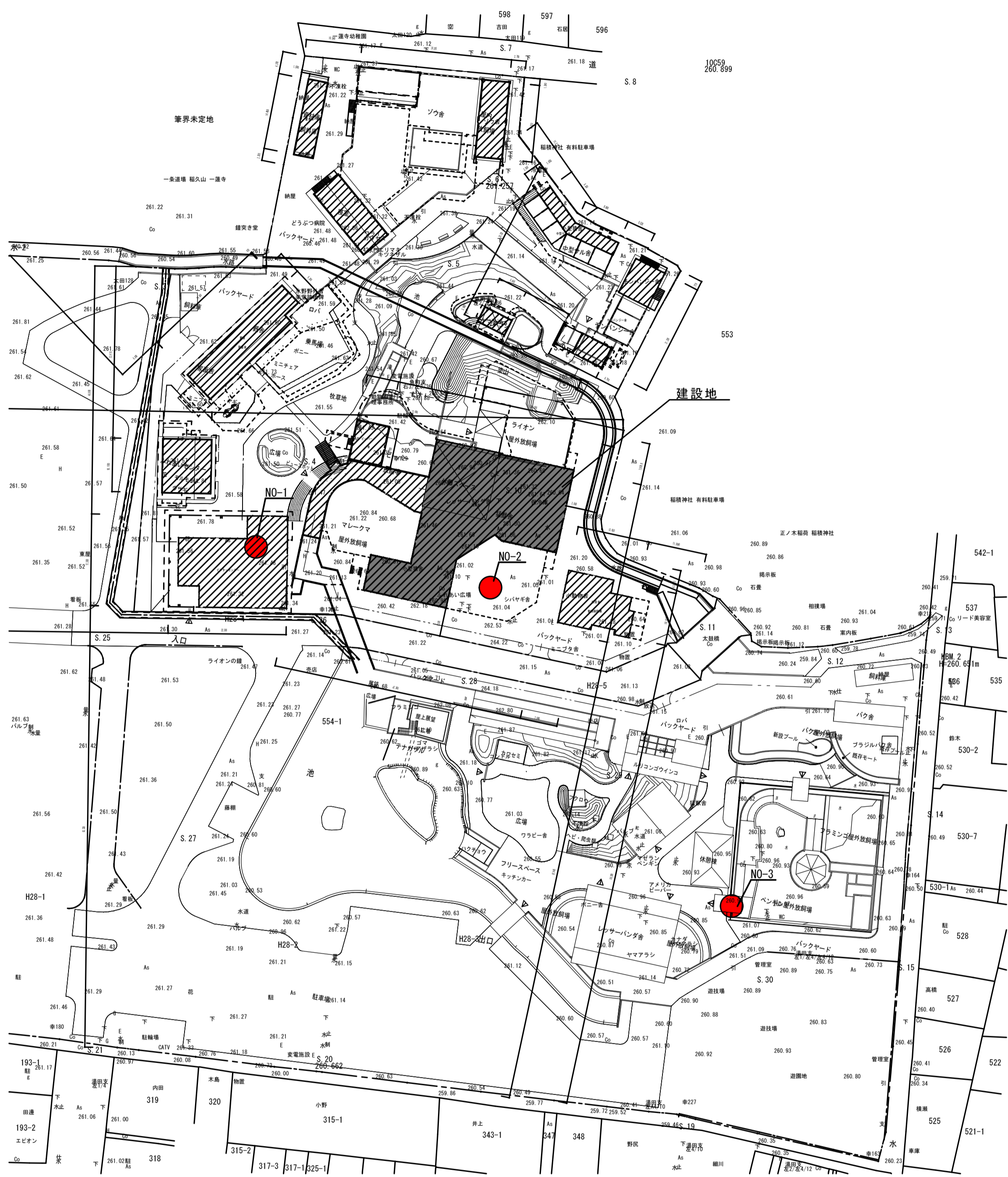
標準貫入試験

標準貫入試験

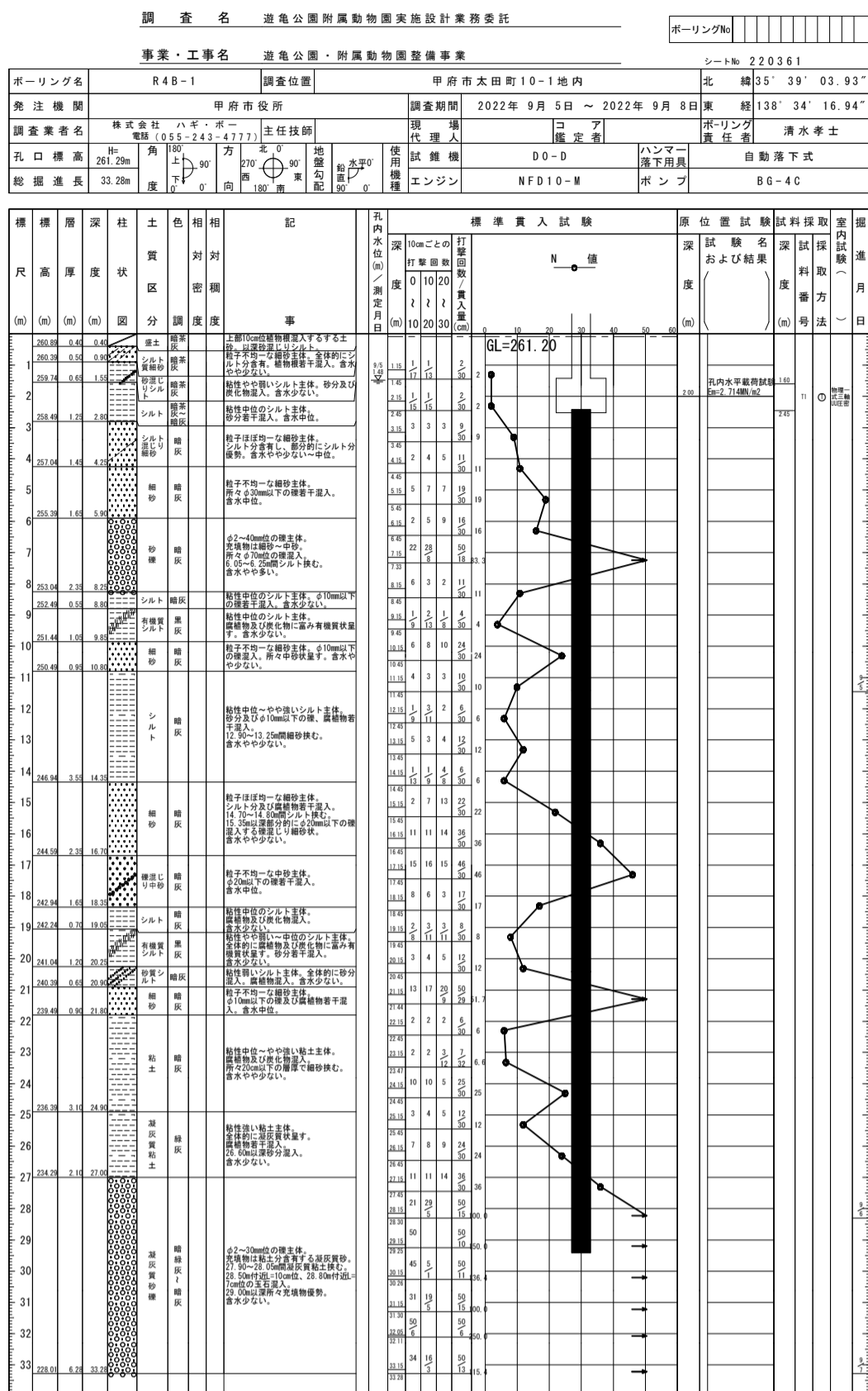
標準貫入試験

標準貫入試験

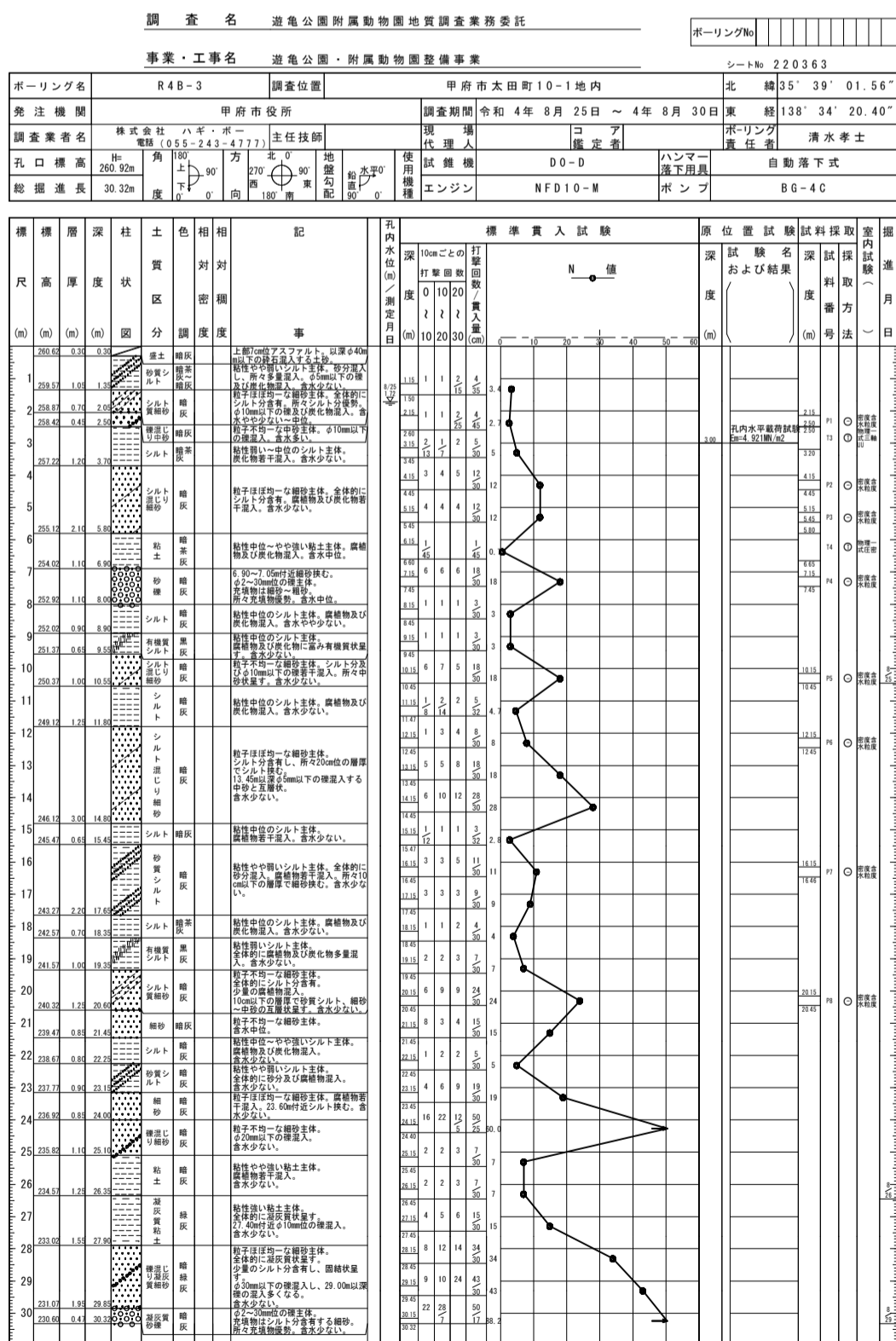
標準貫入試験



ボーリング位置図 1 / 600



NO - 3



ボーリング柱状図 1 / 1 0 0

構造設計特記仕様

適用は●印を記入する。

平成22年7月1日 発行 社団法人東京都建築士事務所協会 監修 東京都建築構造行政連絡会

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 遊亀公園付属動物園整備工事 (猛獣舎)  
建築場所 甲府市市田町10-1地内  
(2) 工事種別 ●新築 □増築 □増改築 □改築  
(3) 構造設計一級建築士の関与 ●必要 □必要としない  
□法第20条第一号(高さ60m超) □法第20条第二号(□RC造高さ20m超 □S造4階建以上 □木造高さ13m超 ●その他)  
注(3)構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書を参照して確認する。  
(4) 構造種別  
□木造(W) □補強コンクリートブロック造(CB) ●鉄骨造(S) ※補助部材  
●鉄筋コンクリート造(RC) □壁式鉄筋コンクリート造(WRC)  
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) □壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)  
□プレキャスト鉄筋コンクリート造(PCRC) □  
(5) 階数 地下 一階 地上 1階 塔屋 階  
(6) 主要用途 共同住宅  
(7) 屋上附属物 □高梁水槽 kN □キューピクル kN □広告塔 □煙突  
(8) 特別な荷重  
□エレベータ 9人乗(マンホールムレス ロープ式 油圧式) □リフト kN □ホイスト kN  
□倉庫積載床 kN/㎡ □受水槽 kN  
(9) 付帯工事  
□門塔 □擁壁 □駐輪場 □機械式駐輪場 □  
(10) 増築計画 有( ) 無( )  
(11) 構造計算ルート X方向 3 Y方向 1

2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

適用箇所	種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> =N <sub>cm</sub>	品質基準強度 F <sub>g</sub> =N <sub>cm</sub>	スランプ (cm)	備考
捨てコンクリート	●普通	18	18	18	
土間コンクリート	●普通	18	21~24	18	
躯体全て	●普通	24	27~30	18	
	□普通、□軽量				比重
	□普通、□軽量				比重
押えコンクリート	□普通、□軽量				比重
細骨材の種類	●砂	□山砂	□人工	□	
粗骨材の種類	●砂利	□砕石	□人工	□	
水の区分	●水道水	□地下水	□工業用水	□	
混和材料の種類(JIS )	□AE減水剤	□高性能AE減水剤	□躯体防水混和材ベトン		
呼び強度を保证する材料、養生	●材料 (●28日 □56日 □)		□		
	●養生 (●現場封かん □現場水中 □標準 □)				

- 単位水量は185kg/㎡以下、単位セメント量は270kg/㎡以上とする。  
●セメント比は5.0%以下とする。  
(2) コンクリートブロック (□JIS A 5406)  
□A種 □B種 □C種 厚□100 □120 □150 □190 使用箇所(□□)

種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋 (JIS G 3112)	●SD295A D10~D16 ●SD295B ●SD345 D19~D29 ●SD390 D32~	基礎ベ-ス・壁・床 ●ガス圧継手 D19以上 □溶接継手 □機械式継手	●重ね継手 D16以下 ●ガス圧継手 D19以上 □溶接継手 □機械式継手
高強度せん断補強筋	□材種		( ) 各継手の使用詳細については 本仕様5.(2)鉄筋の鉄筋 継手等の●にて表示すること。
丸鋼 (JIS G 3112)	●SR235		
溶接鋼筋 (JIS G 3551)	6φ	床	

種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号
●SS400 □SM400 ●SN400 B ●STKR400 □STKR490 ●STKN490	小梁・大梁	□有 ●無	JIS
●BCR295 □BCP235 □BCP325	柱	□有 ●無	大臣認定品
□SM490 A □SN490 B □SN490 C		□有 ●無	JIS
□SSC400 □		□有 ●無	JIS
□SN490C種鋼線		□有 ●無	大臣認定品
溶接材料 □JIS Z			

- (5) ボルト  
●高力ボルト  
●F10T (JIS B1186) ●S10T 認定番号( ) □F8T 認定番号( ) (●M16 ●M20 ●M22 ●M24)  
●ボルト (JIS B1180) M16 M ●4.8(4T)  
●アンカーボルト  
●SS490 M24 L=450 mm ナット(□シングル ●ダブル)  
□SD390 D22 L= mm ナット(□シングル □ダブル)  
M L= mm ナット(□シングル □ダブル)  
□頭付スタッドボルト φ= mm 使用箇所( )

材料	型式	厚	その他	使用箇所	使用工法
ALC (JIS A 5416)			厚	□壁 □床版	□スライド □ボルト止め
折版	H= 88	厚 0.8	□度板 □		
折版	H=	厚	□度板 □		
折版	H=	厚	□度板 □		
特殊デッキプレート (JIS G 3352)	型式	厚	□床版 □		
キーストンプレート (JIS G 3352)	型式	厚	□床版 □		
デッキプレート (JIS G 3352)	型式	厚	□床版 □		

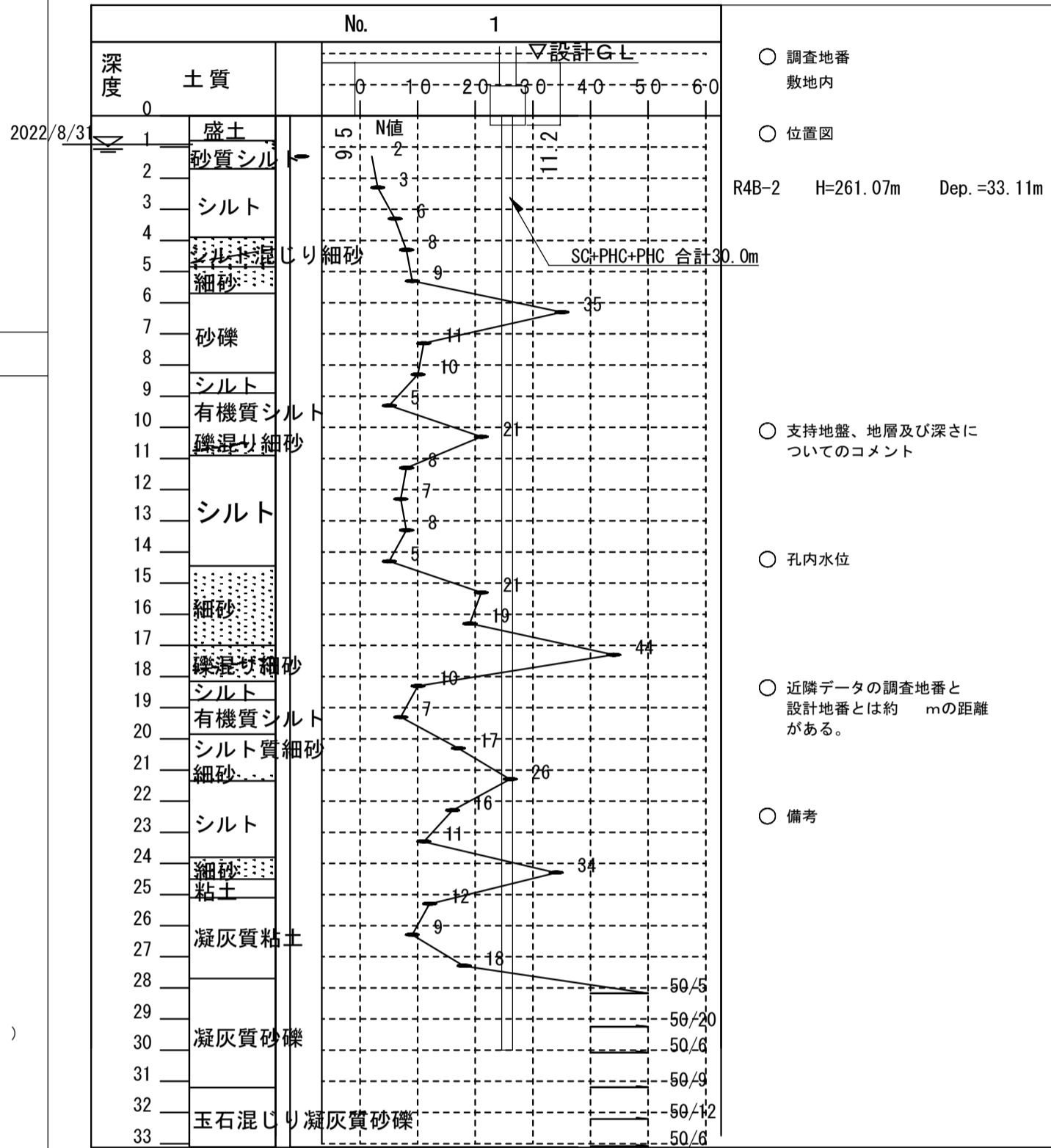
3. 地盤

(1) 地盤調査資料と調査計画

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	●		静的貫入試験			標準貫入試験	●	
水平地盤反力係数の測定	●		土質試験	●		物理探査		
試験掘(支持層の確認)			平板載荷試験			液状化判定	●	
スエーデン式サウンディング			現場透水試験			P S 検層		

注)上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○印を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎、杭、地盤改良の位置を明記すること)



4. 地業工事

(1) 直接基礎

- ベタ基礎 □布基礎 □独立基礎 試験掘 □有 □無  
深さ: 支持層: 地盤改良下砂礫層 長期(短期)許容支持力度 kN/㎡ 載荷試験 □有 □無

(2) 地盤改良

- 法層混合処理工法 □深層混合処理工法 □流動化処理工法 □エマルゲッドS工法  
深さ: 長期許容支持力度 kN/㎡ 載荷試験 □有 □無  
注)「建築物のための改良地盤設計及び品質管理指針:日本建築センター2002」を参考とする。

(3) 杭基礎

杭種	材料	施工法	備考
□RC □PRC ●PHC □H鋼 ●鋼管 □摩擦杭 ●SC杭	PC (□A種 □B種 □C種) PHC (●A種 □B種 □C種) 鋼材 □SS400 ●STK400	□打込み(オーガ併用) ●埋込み(MRX工法) ●杭頭補強(クラウンパイルアンカー)	評定品
□場所打ち コンクリート杭	コンクリート F <sub>c</sub> = 24 N <sub>cm</sub> スランプ F <sub>q</sub> = 1.8 cm以下 セメント量 単位水量	□オールケーシング □杭底杭 □リバースサーキュレーション □アースドリル □ミニアース □BH □深礎 □機械掘	認定 年 月 日

杭仕様 ●施工計画承認 ●杭施工結果報告書  
試験杭 (□)無 (□打込み)載荷 □孔壁測定 ) 本

杭径(mm)	設計支持力Q <sub>10</sub> (kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項
800	3,229(長期)	30.0	24	SC-10.0m + PHC-10.0m + PHC-10.0m

5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度(F<sub>c</sub>)が36N/mm<sup>2</sup>以下に適用し、鉄筋の材質はSD490以下に適用する。  
JASS5は2009年度版を採用する。

(1) コンクリート

- コンクリートはJIS A 5308(レディミクストコンクリート)に適合するJIS認証工場の製品とし、施工に  
関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS5による。  
打込み、締めめ方法、打継部の処理方法は7節に準拠する。養生方法・その他は8節に準拠する。  
●耐久設計基準強度 F<sub>d</sub> □短期 ●標準 □長期 □超長期  
●セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。  
●調査計画は、工事開始前に工事監督者の承認を得ること。  
●寒中・暑中・その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査・打込み・養生・管理方法など必要事項  
について、工事監督者の承認を得ること。  
●フレッシュコンクリートの塩化価測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定  
器を用いて行い、試験結果の記録および測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。  
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、  
その平均値を試験値とする。  
●構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法はJASS5 T-603によることとし、供試体は現場水中養生、  
又は現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと・打ち込み区ごととする。  
また、打ち込み量が150mをこえる場合は150mごとまたは、その端ごとに一回を標準とする。  
一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3本の運転車からその必要本数採取する。  
なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。  
●ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリート  
が分離しない範囲とする。  
ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または、同等以上の技能を有する者が従事すること。  
なお、打ち込み継続中における打ち遅れ時間間隔の取扱い、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は  
120分以内とする。  
●コンクリート打ち込み中及び打ち込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下らないようにする。  
●乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。  
●水セメント比は5.0%以下とする。

(2) 鉄筋

- 鉄筋はJIS G 3112の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除きコンクリートと同様に、  
JASS5による。  
□高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるD種1適合品とする。  
●鉄筋の加工寸法、形状・かぶり厚さ・鉄筋の継手位置・継手の重ね長さ・定着長さは、「鉄筋コンクリート構造配筋標準図  
(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。  
●鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級			鉄筋の径
	(1)引張力最小部位	(2)(1)以外の部位(注)	A級 B級 C級	
●重ね継手 ●40d □35d □( )d ●圧接継手 □告示1463号第2項各号 □溶接継手 □告示1463号第3項各号 □機械式継手 □告示1463号第4項各号	□	□	□	●D(16)以下 ●D(19)以上 ●D( )以上 ●D( )以上

注(1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築  
センター等の認定・評定等を取付した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準(建築物の構造関係技術  
基準解説書2007)」によって検討した部材の条件・仕様によること。  
●D19未満は、すべて重ね継手とする。  
●継手部分の施工要領は(社)日本建築継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式  
継手工事)による。  
継手部の検査方法: 外観検査: ●有 □無、 引張試験: □有 ●無、 超音波探傷試験: ●有 □無

- 柱の帯筋(Hoop)の加工方法は、●H型(タガ型) □W型(溶接型) □S型(スパイラル型)とする。  
□コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。  
試験・検査機関名 (都知事登録 号)  
代行業者名  
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者を言う。

(3) 型枠

種類 部位	せき板		支柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下	
セメントの種類	早強ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
コンクリートの圧縮強度	5.0N/㎡	設計基準強度の50%	8.5%	10.0%	10.0%	10.0%

- 注1) 片持ち・応・スパン9.0m以上のはり下は、工事監督者の指示による。  
注2) 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはり下の場合も原則として行わない。  
注3) 支柱の盛りかえは、必ず上層のコンクリート打ち後とする。  
注4) 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受け板、角材または、これに代わるものを置く。  
注5) 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。  
注6) 床スラブに著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱(大梁の支柱を除く)の盛りかえを行わないこと。  
注7) 支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。  
注8) 上表以外のセメントを使用する場合は工事監督者の指示による。  
注9) コンクリートの圧縮強度による場合は、標準仕様書に定める構造計算書を行う。

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

- 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」  
□(社)日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」  
□鉄骨製作管理技術者登録機構「実合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・精強マニュアル」

(2) 工事監督者の承認を必要とするもの

- 製作工場 ●製作要領書 ●工作図 ●施工計画書  
□認定または登録工場(大臣認定 S H M R J グレード 都登録 T1 T2 T3 ランク)  
●材料規格証明書\*、または試験成績書  
●鋼材 ●高力ボルト ●特殊ボルト □頭付スタッド  
\* (社)日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。  
●社内検査表 □

(3) 工事監督者が行う検査項目

- (□印以外の項目の検査結果については、工事監督者に報告すること)  
□現状検査 ●組立、開先検査 □製品検査 ●建方検査 □

(4) 接合部の溶接は下記によること

- 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロ  
□鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱(建築構造設計指針第12章)  
□日本建築学会「溶接工作規程、同解説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ」  
□日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」  
□東京都アーク溶接工事管理規程(建築構造設計指針第12章)

(5) 接合部の検査

- 溶接部の検査(検査結果は後日工事監督者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監督者	
●完全溶込み溶接部 (実合せ溶接)	外観検査	100 %	100 %	%	
□	超音波探傷試験	100 %	30 %	%	
□	内質検査 (注) □硬さ試験 □示温塗料塗布	個	個	個	
□	マクロ試験、その他				
□	外観検査				

第三者検査機関名 (都知事登録 号)  
第三者検査機関とは、建築主、工事監督者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

- 注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと  
注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

- 高力ボルトの検査(検査結果は後日工事監督者に報告すること)  
軸力導入試験 ●要 □否 高力ボルトすべり係数試験 □要 ●否  
●一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。  
●トルシヤ高力ボルトは二次締め後、ピンチで破断していることを確認する。  
●高力ボルトは「JIS B 1186の高力ボルト」を標準とする。  
摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト・グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に  
自然放置して発生した赤さび状態で、すべり係数が0.45以上確保できるものを標準とし目視により検査を行う。  
ただし、ショットブラスト・グリットブラストによる処理で、表面あらさが50μm R<sub>a</sub>以上である場合は、赤さびは発生  
しない状態のままでよい。  
●高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。  
また、締付けは原則として2段階とする。  
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

(6) 防錆塗装

- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。  
錆止めペイントは、●JIS K5621 □JIS K5625 □  
4つ星2回塗を標準とするが、実情に応じて決定すること。  
●現場における高力ボルト接合部及び接合部の錆地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、  
2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

7. 設備関係

- 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。  
●建築設備の支持構造部及び緊結金具には、錆止め等、防食のための有効な措置を講じること。  
●建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して  
構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。  
●煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。  
●設備配管は、地震時の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して構造耐力上安全であること。  
●エレベーターの駆動装置等は、構造体上に安全に緊結されていること。  
●特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。  
●床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚の1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。  
●設備機器の架台及び基礎については工事監督者の承認を得ること。  
●給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の挙動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。  
●満水時の質量が15.0kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成24年国土交通省告示  
第144号第5に規定する構造方法によること。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。  
●各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監督者に報告すること。  
●必要に応じて記録写真を適切に保管すること。



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮尺
			A1-N/S A3-N/S
			設計年月日 2023.03.31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事  
図面名称 構造設計特記仕様 (猛獣舎)

No. S-01

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

## 1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

### (2) 記号

d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D・・・部材の成 R・・・直径  
@・・・間隔 r・・・半径 C・・・中心線 Qo・・・部材間の内法距離 ho・・・部材間の内法高さ  
S T・・・あばら筋 HOOP・・・帯筋 S.HOOP・・・補強帯筋 φ・・・直径又は丸鋼

## 2. 鉄筋加工、かぶり

### (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度90°はスラブ筋 壁筋の末端部又はスラブと同時 に打ち込むT形およびL形梁の キャップタイにのみ用いる。 ※片持ちスラブ上端筋の先端
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	

折曲げ内法寸法Rは、SR235～SD345の径16およびD16以下は3d以上、SD295～SD345のD19～D38は4d以上、D41およびSD390は5d以上。スラブ筋、壁筋には丸鋼は使用しない。

### (2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所 による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ 内の寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235, SR295 SD295A・B, SD345	16φ以下 D16以下	3d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A・B SD345 SD390	D16以下 D19～D25 D29～D41	4d以上 6d以上 8d以上

### (3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

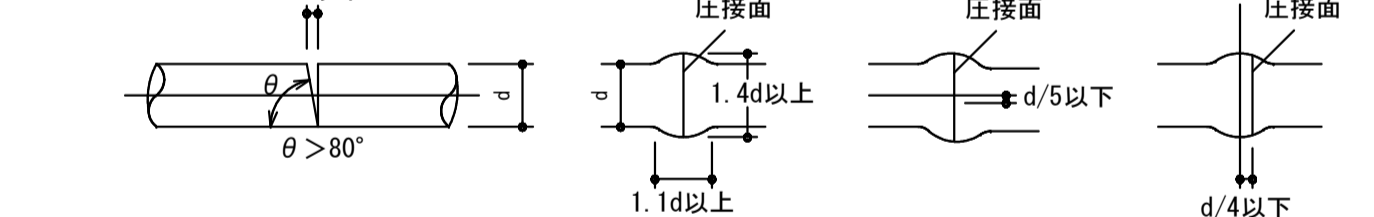
鉄筋の種類	普通、軽量コン クリートの設計 基準強度の範囲 (N/mm <sup>2</sup> )	定着長さ		特別の定着及び 重ね継手の長さ (L)
		一般 (L2)	下 ば 筋 (L3)	
SR235	21、24 18以下	35dフックつき 45dフックつき	小 梁 25dフック 付き	ス ラ ブ 150mmフック 付き
SD295A SD295B SD345	27～36 21、24 18以下	30dまたは20dフック付き 35dまたは25dフック付き 40dまたは30dフック付き	25dまたは 15dフック 付き	10dかつ 150mm以上
SD390	27～36 21、24	35dまたは25dフック付き 40dまたは30dフック付き		35dまたは25dフック付き 40dまたは30dフック付き 45dまたは35dフック付き

[注] 許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は40dとする

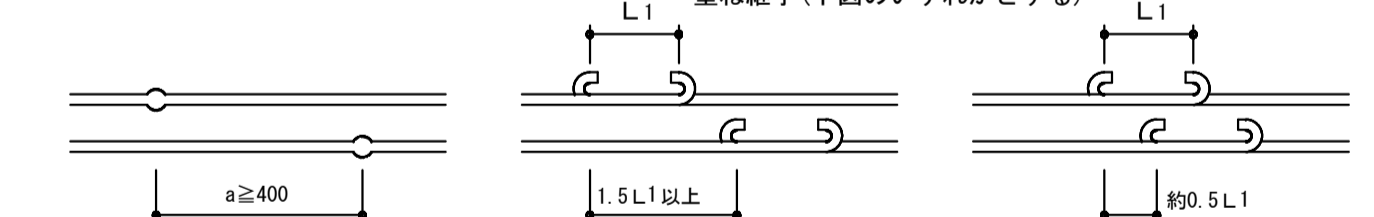
### 継 手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状 3mm以下

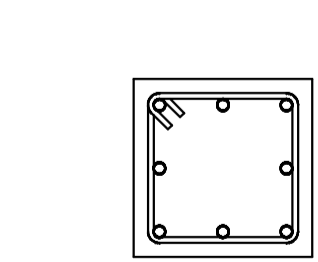


### 圧接継手



### (4) かぶり厚さ (単位: mm)

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。



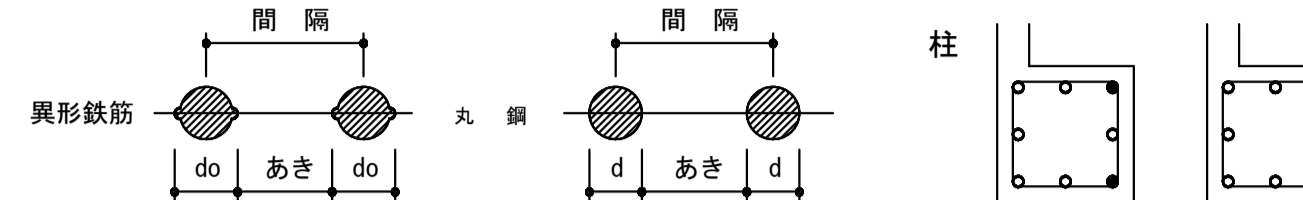
かぶり厚さ

部 位	設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ	30
	床スラブ	20
	非耐力壁	40 <sup>(1)</sup>
	耐力壁	40 <sup>(1)</sup> 30 <sup>(20)</sup>
土に接する部分	柱	40
	壁	50 <sup>(2)</sup> 40 <sup>(1)</sup> (30)
	柱・はり・床スラブ・耐力壁	50 <sup>(3)</sup> 40
	基礎・擁壁	70 60 <sup>(4)</sup>

[注] (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。  
(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
(3) コンクリートの品質および施工方法に依り、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
(4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。  
(5) ( )内は仕上げがある場合。  
(6) 土に接する部分のかぶりは増加する厚さを増打ちとする。

### (5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上  
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



### (6) 鉄筋のフック

(a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

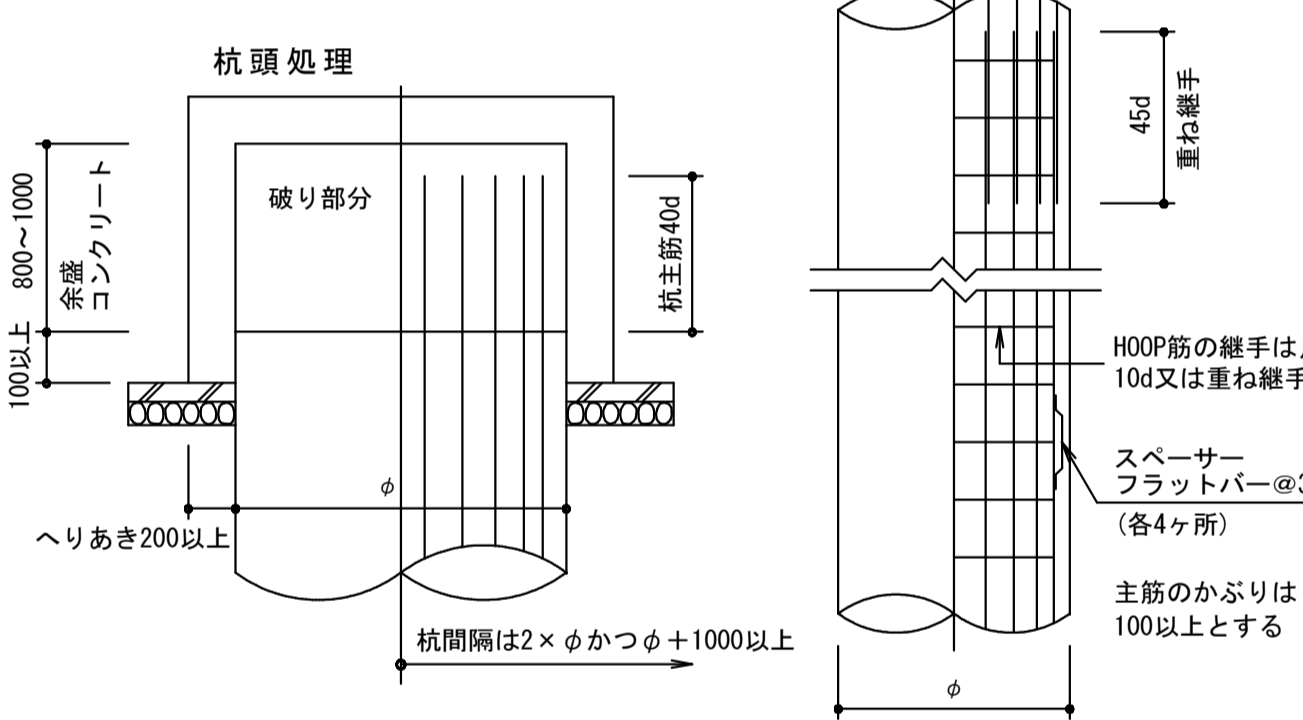
- a. 丸鋼
- b. あばら筋、帯筋
- c. 煙突の鉄筋
- d. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
- e. 単純梁の下端筋
- f. その他、本配筋標準に記載する箇所

## 3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

### (1) P C 杭、又は P H C 杭の全てに補強を行う

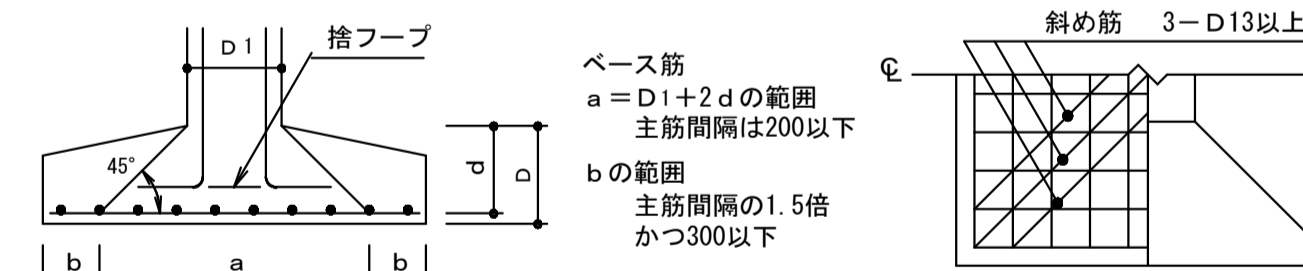
所定の位置に止まった場合		所定より低く止まった場合 (但し L ≤ φ の場合 (下げ止まりの影響をあらかじめ設計上考慮されている場合に限る。) L > φ の場合は工事監理者の指示による)		
杭 径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ
補 強 筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16
H O O P	D10-@150			

### (2) 現場打ちコンクリート杭

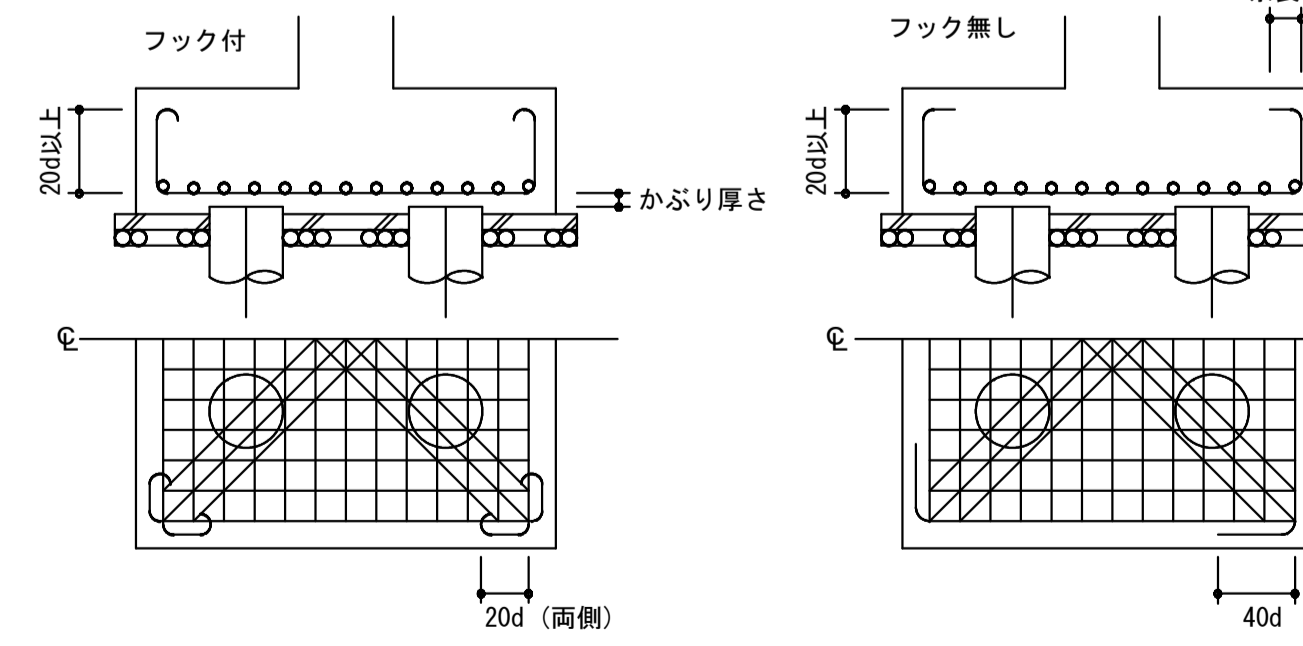


## 4. 基 礎

### (1) 直接基礎

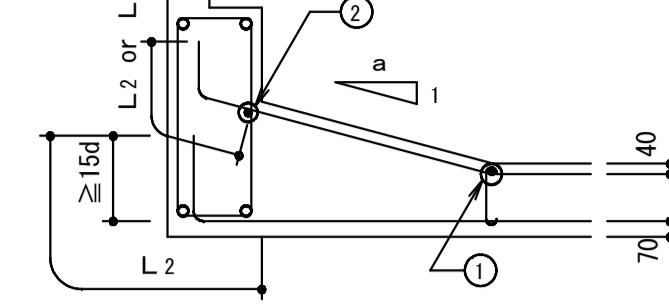


### (2) 杭 基 礎



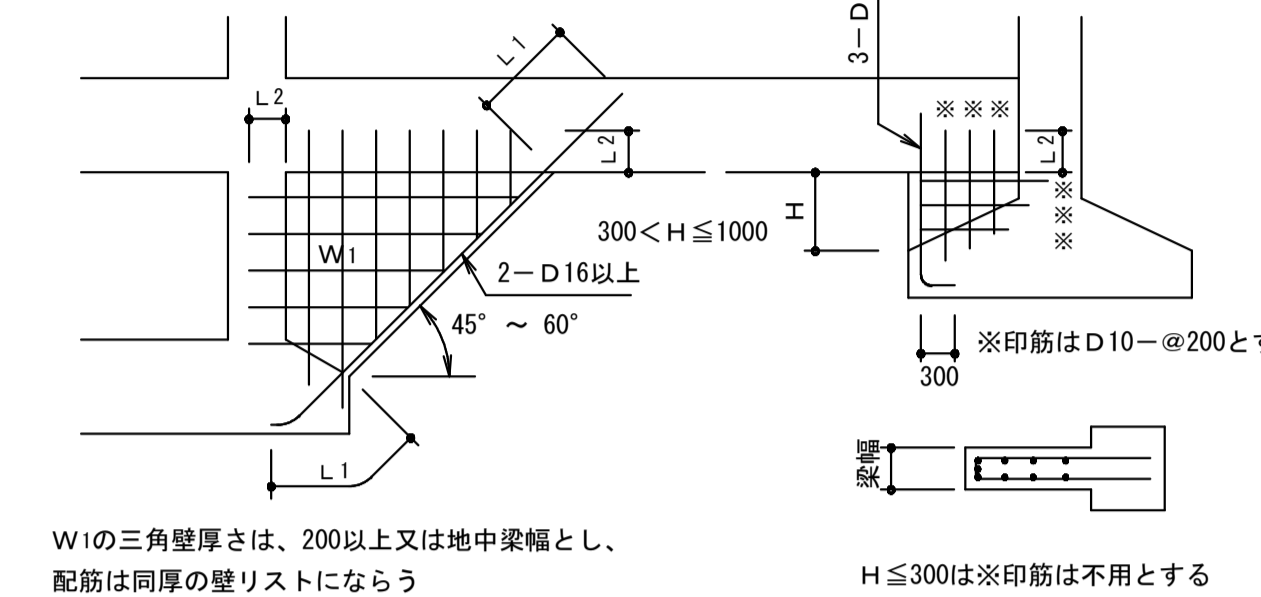
### (3) ベタ基礎

ハンチを付けた場合(a ≥ 3)



1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう  
但し上筋と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し土のある場合は40を70とする

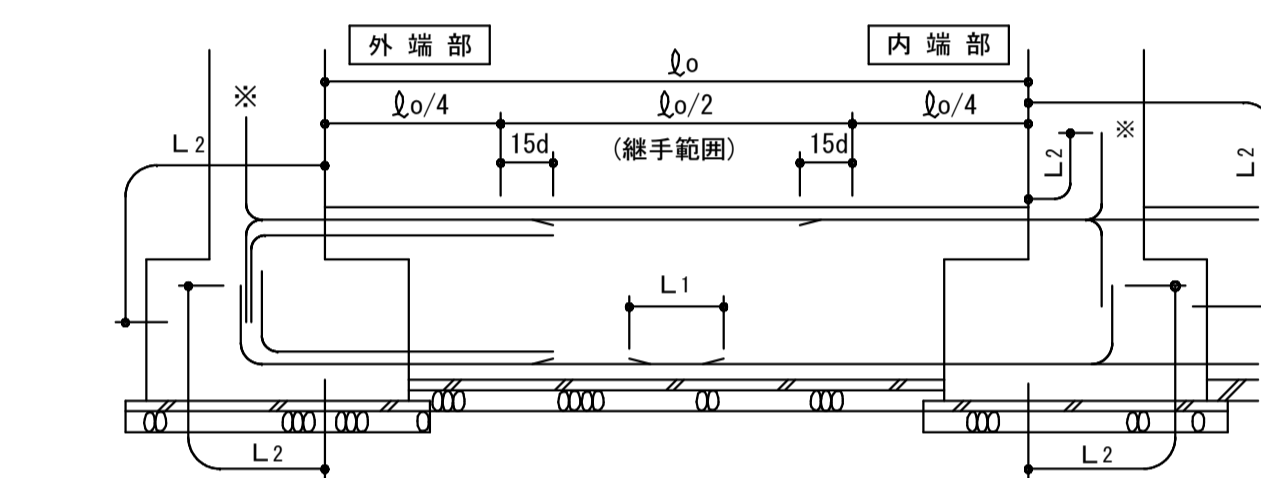
### (4) 基礎接合部の補強



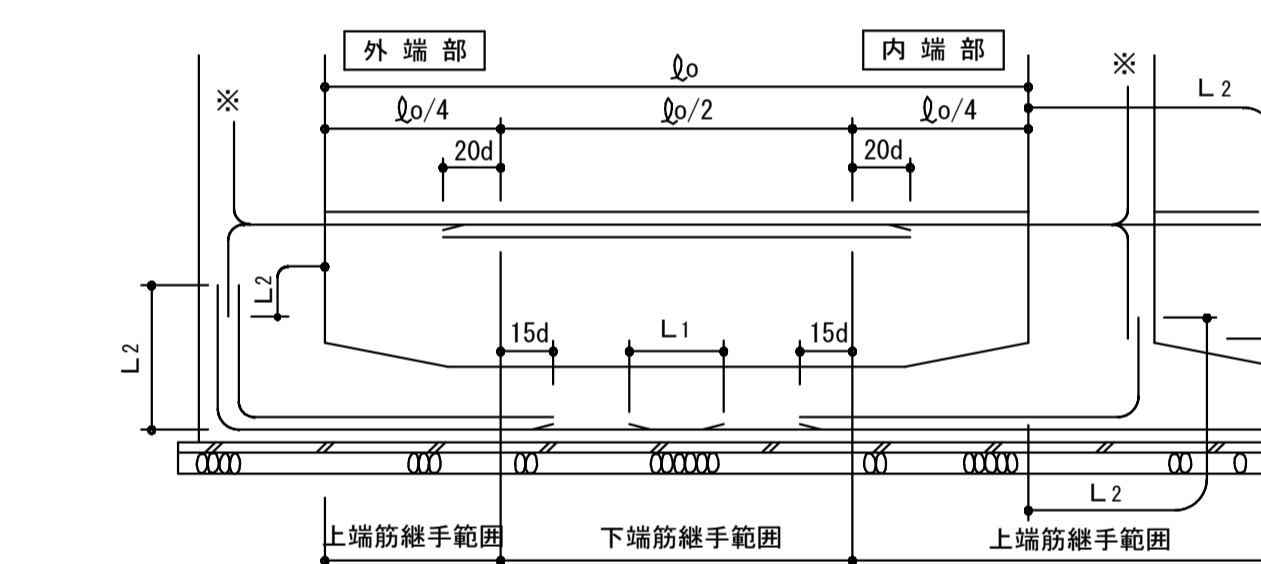
W10の三角壁厚さは、200以上又は地中梁横とし、  
配筋は同厚の壁リストにならう

## 5. 地中梁

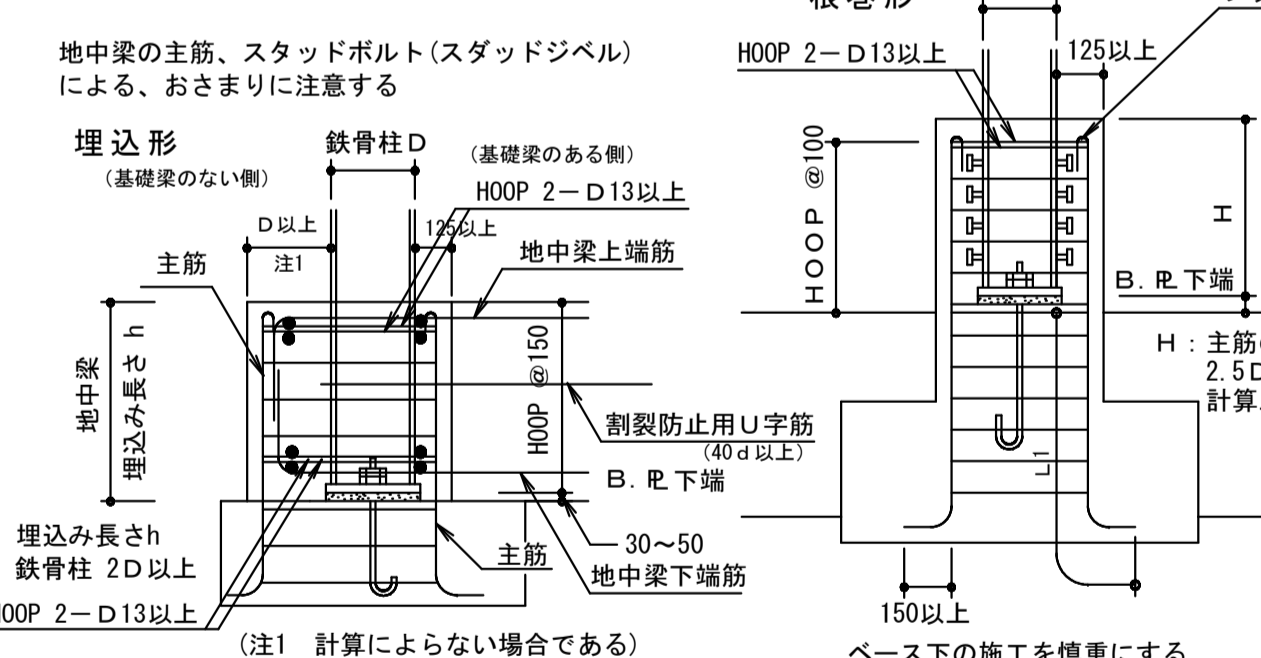
### (1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)



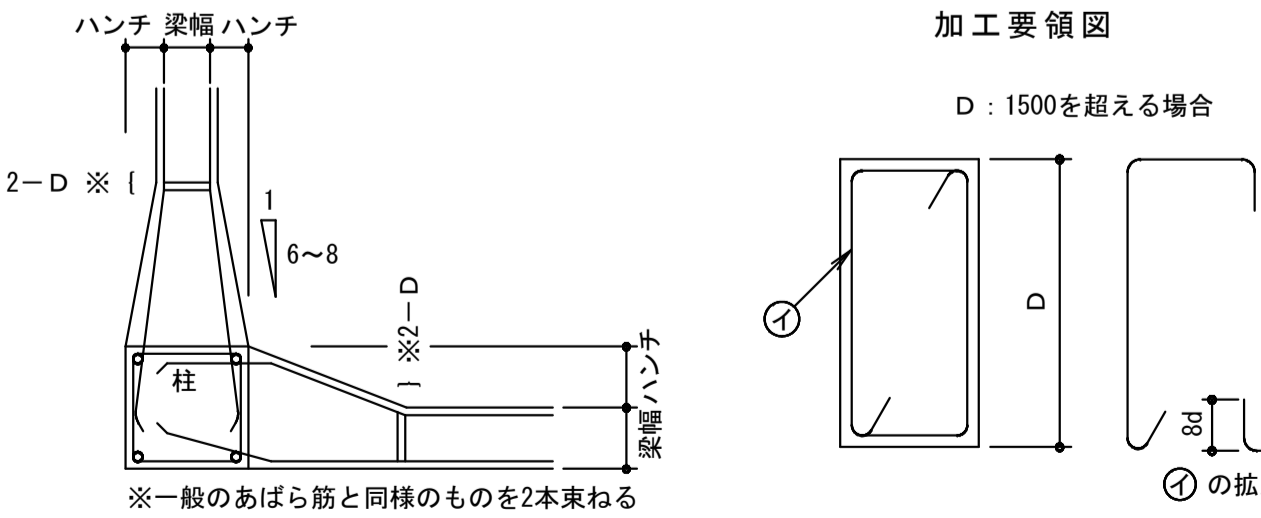
### (2) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)



### (3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

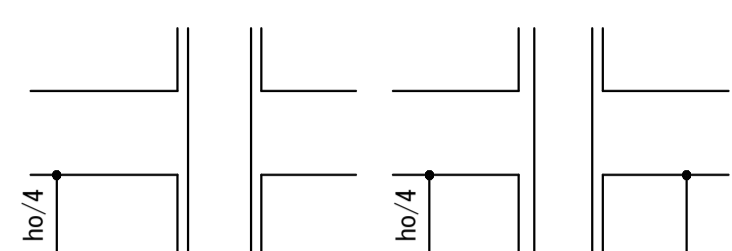


### (4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

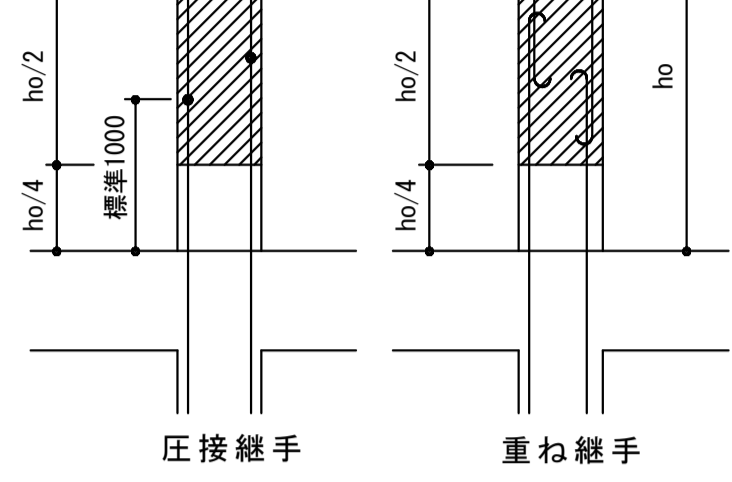
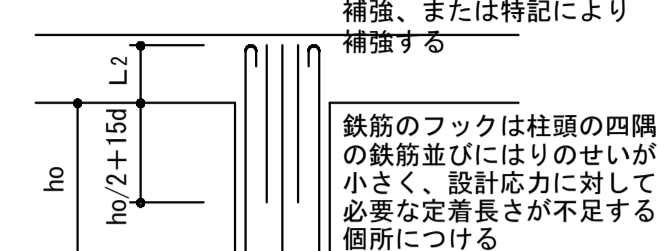


## 6. 柱

### (1) 柱主筋の継手

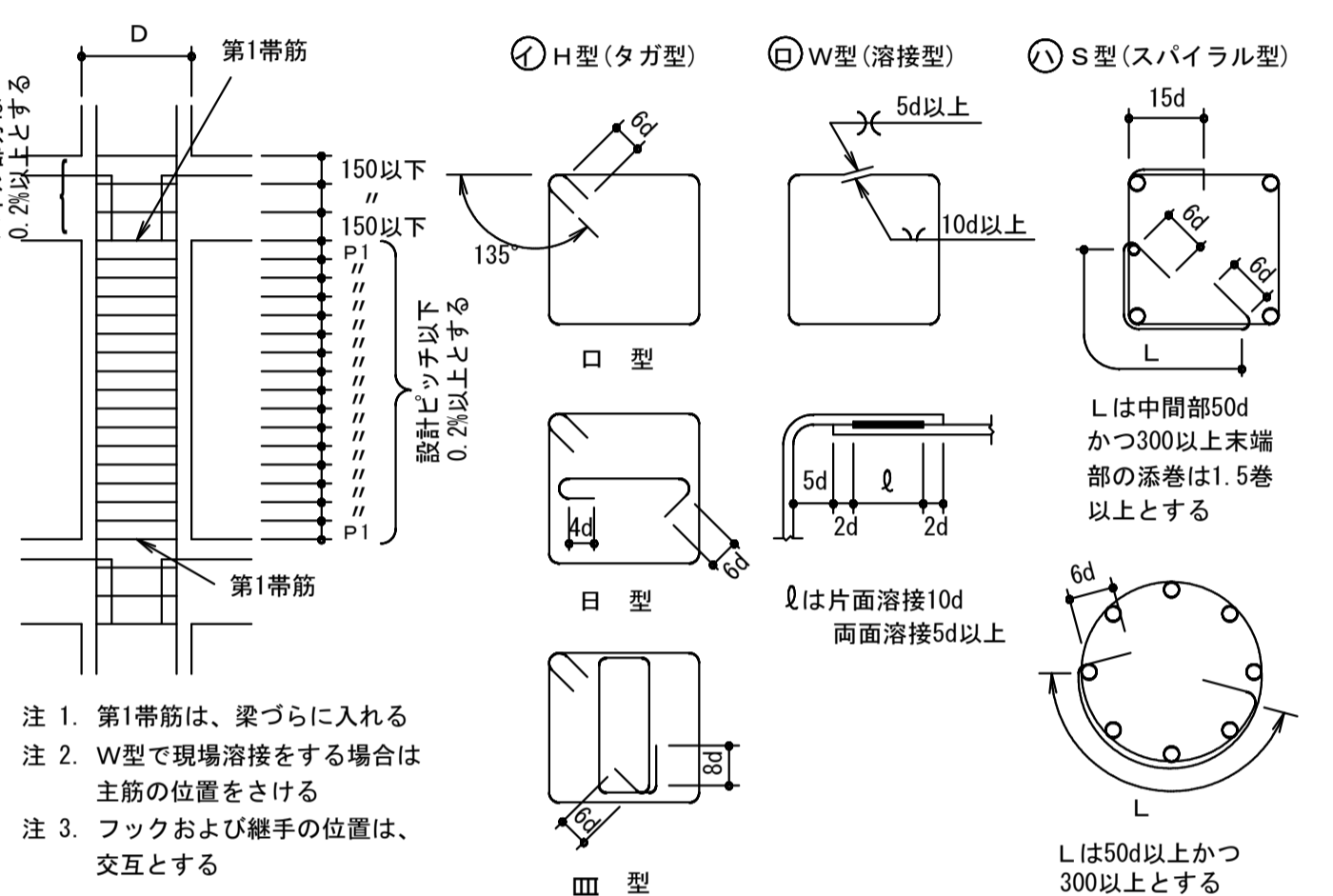


### (2) 柱主筋の定着

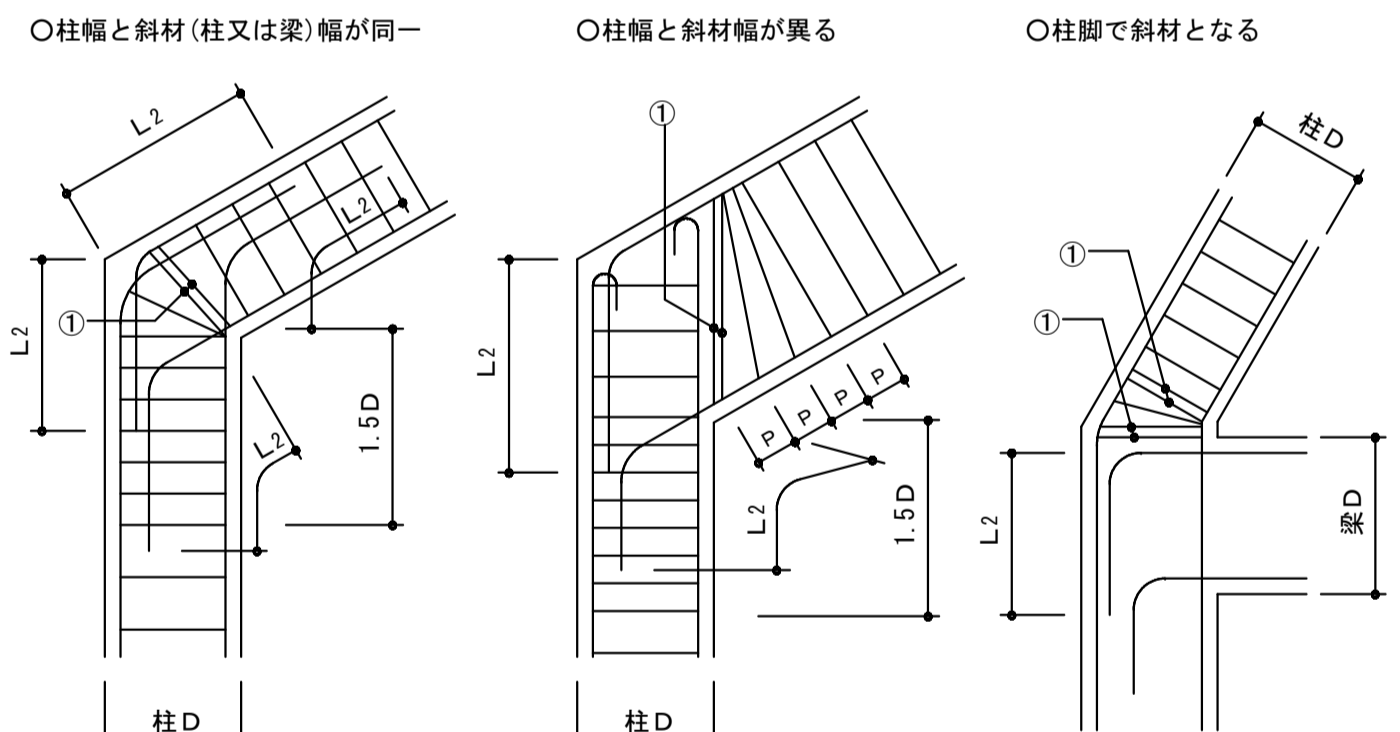


柱、梁の定着L2以上が確保  
されない場合はかご鉄筋で  
補強、または特記により  
補強する

### (3) 帯 筋

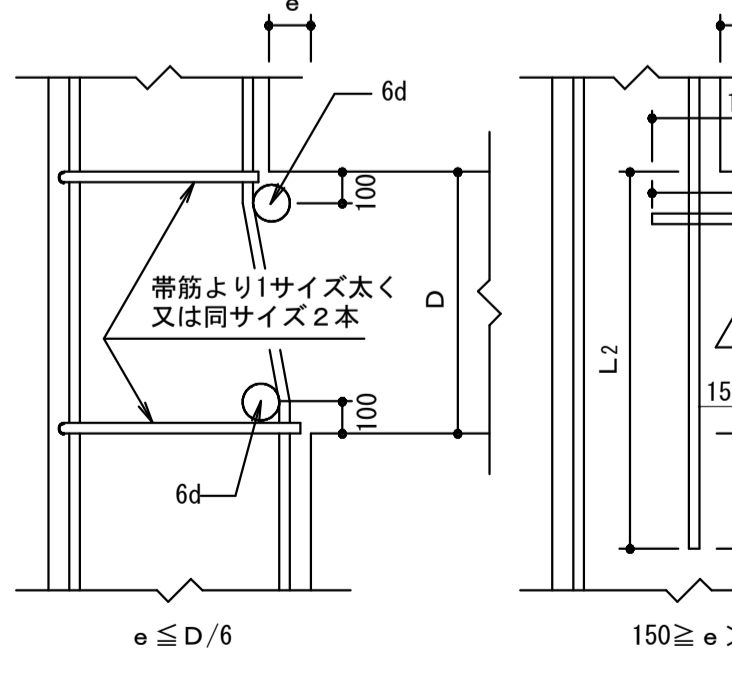


### (4) 斜め柱・斜め梁

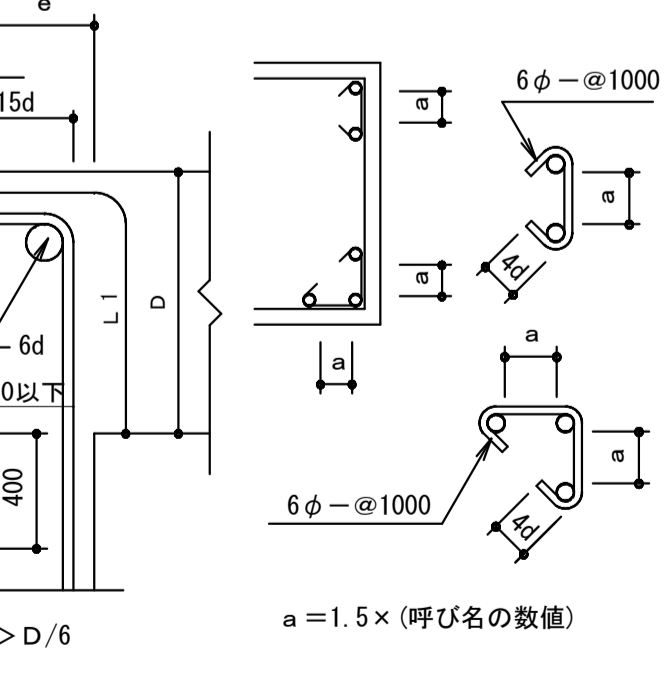


1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする
2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

### (5) 絞 り



### (6) 二段筋の保持



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮 尺
			A1→N/S A3→N/S
			設計年月日 2023.03.31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事

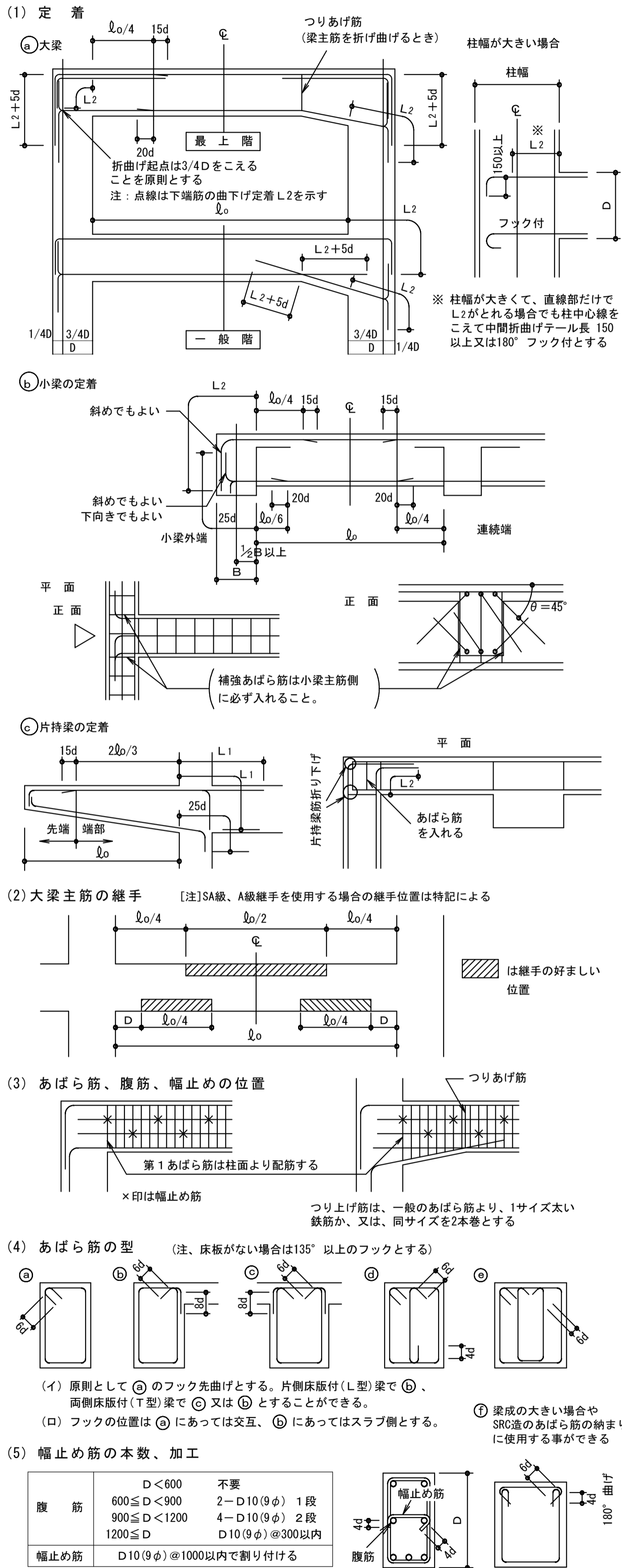
図面名称 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) (猛獣舎)

No. S-02

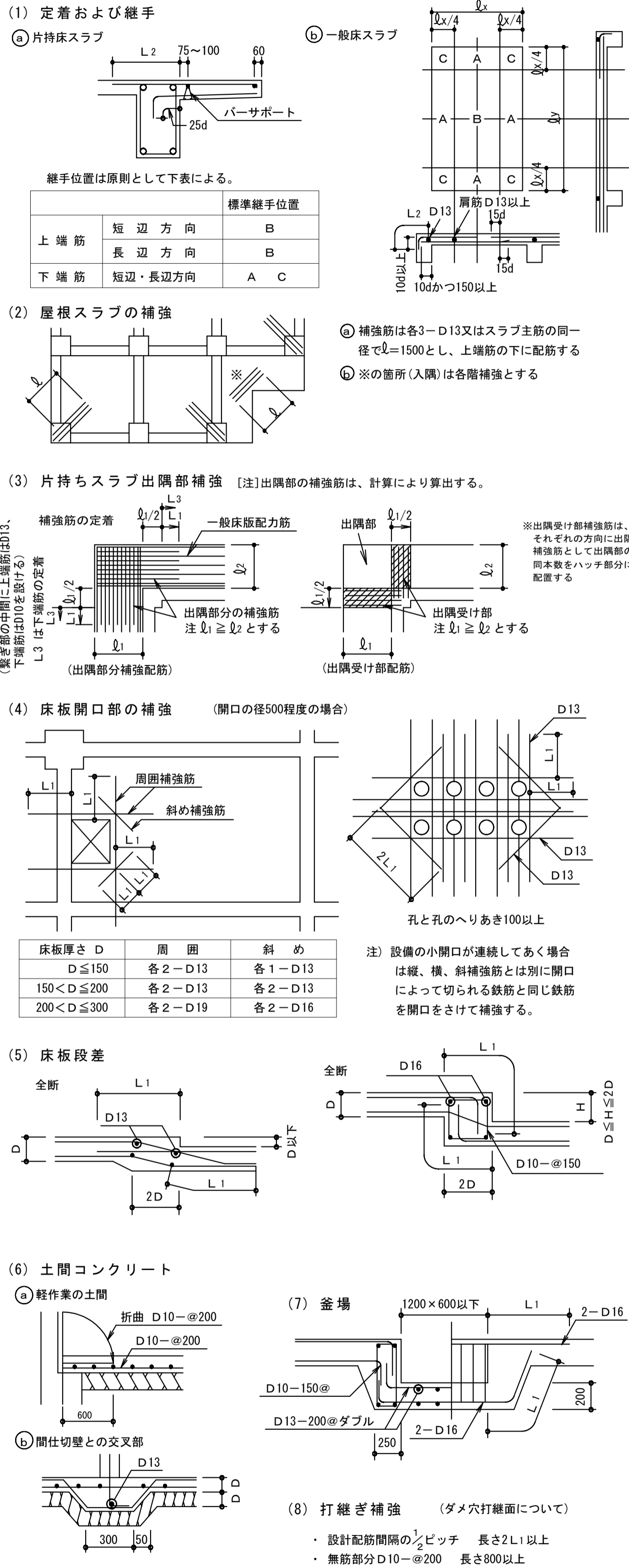
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

L＝鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2～(3)による。

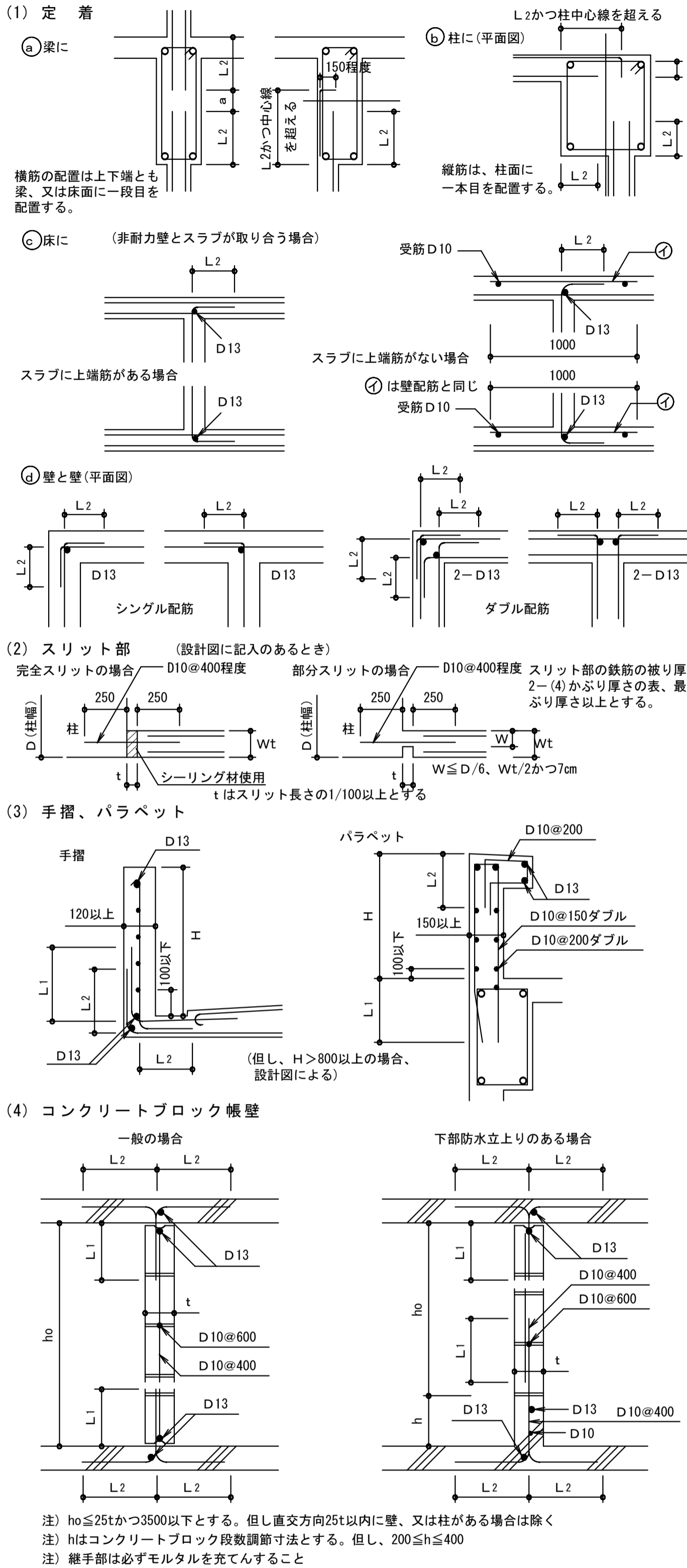
7. 大梁、小梁、片持梁



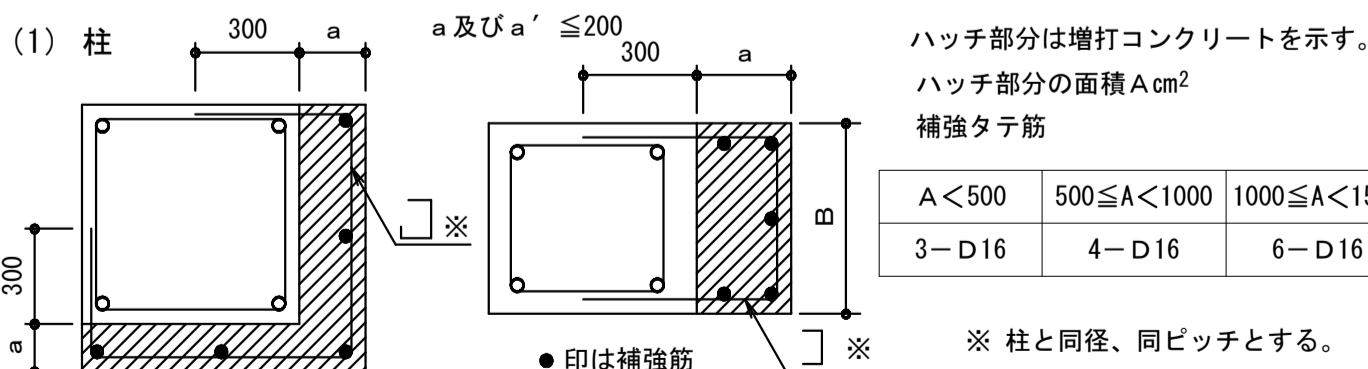
8. 床板



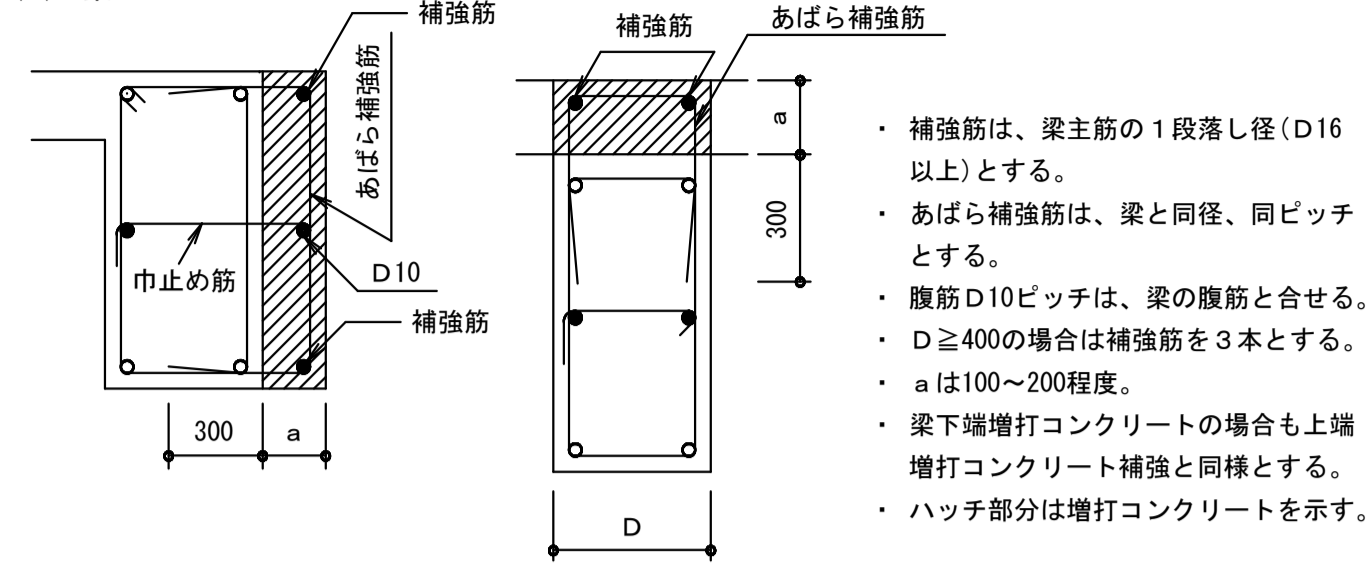
9. 壁



10. 柱、梁増打コンクリート補強

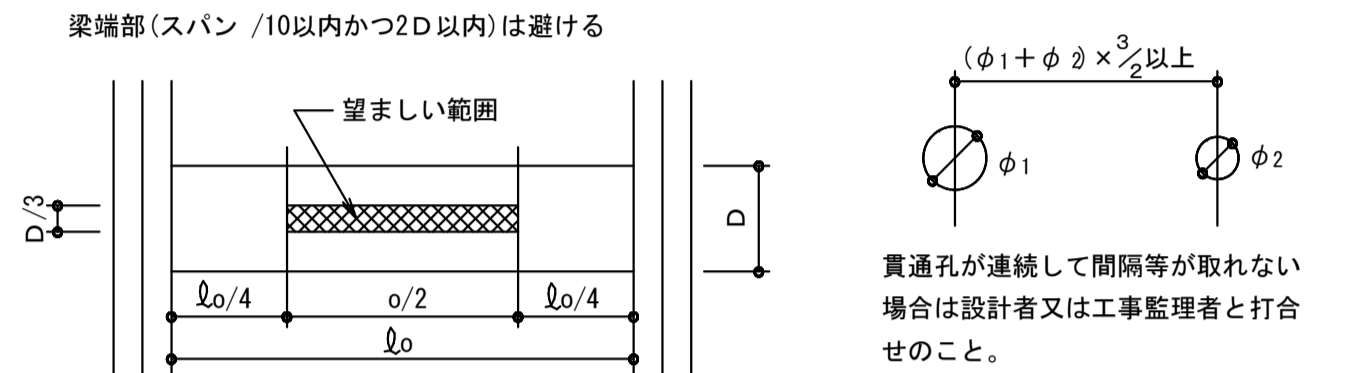


(2) 梁



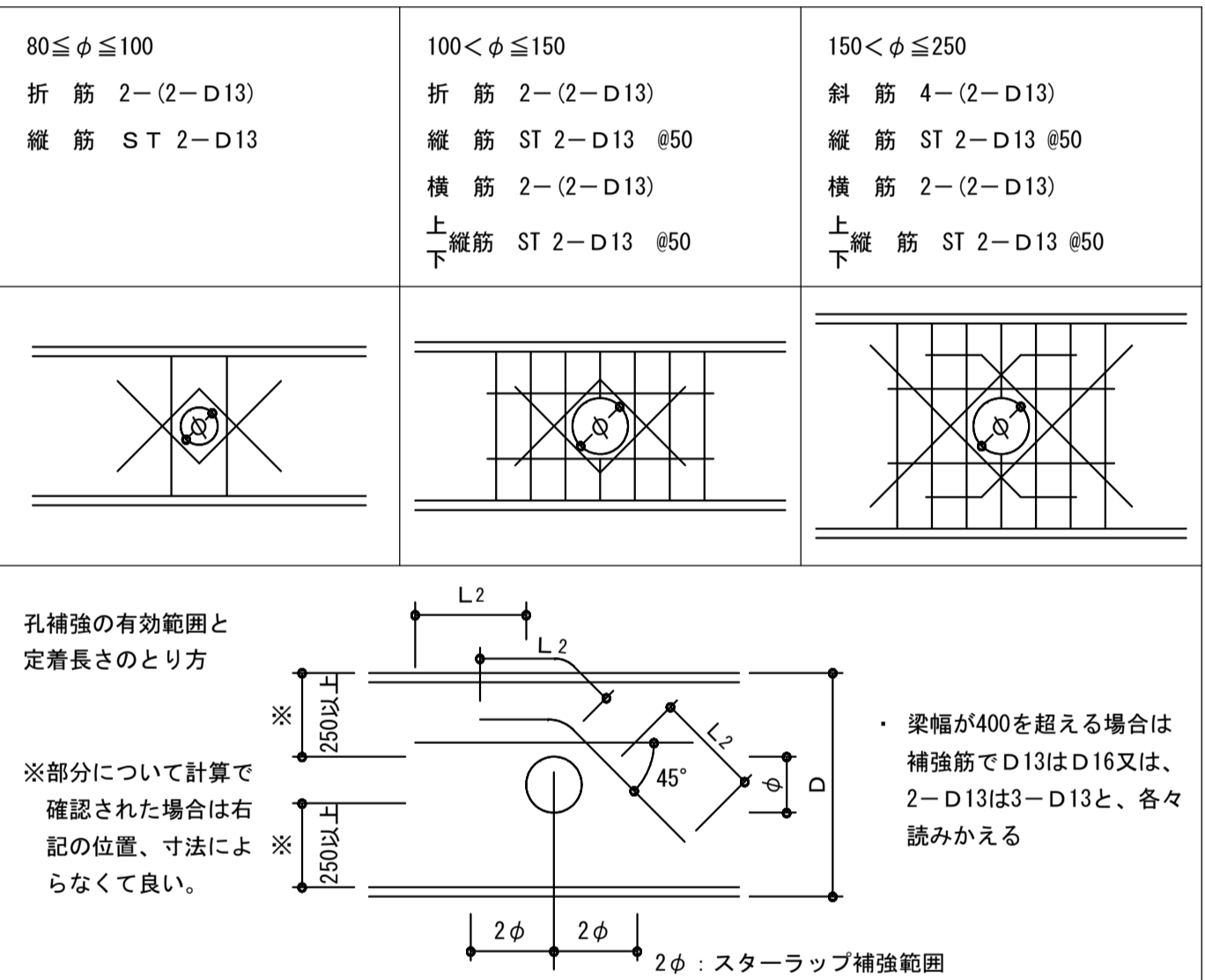
11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲



(2) 鉄筋標準配筋

但し  $\phi \leq D/3$  とする



(3) 既製品

ウェブレ、ダイヤレン等 日本建築センター評価取得品とする。

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

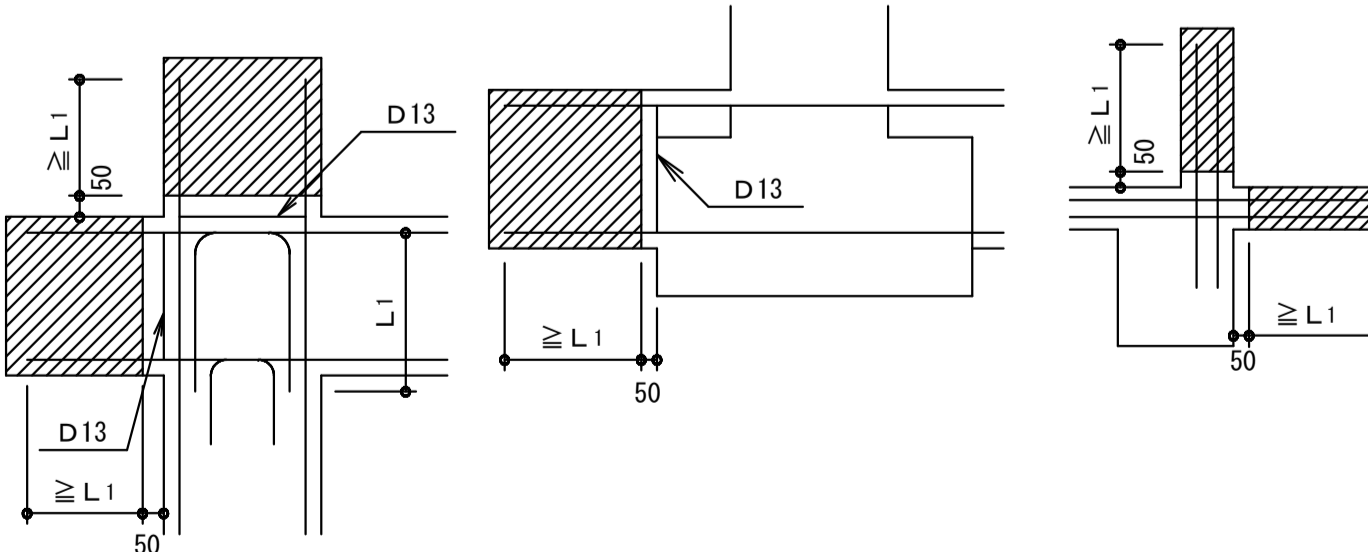
設計時に使用する評価取得品については計算書を提出すること。

□ リング型 □ バイブ型 □ 金網型 □ プレート型

12. 増築予定

将来増築予定のコンクリート増打ち部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して措置する。

(1) 柱、梁



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮尺
			A1→N/S A3→N/S
			設計年月日
			2023. 03. 31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事

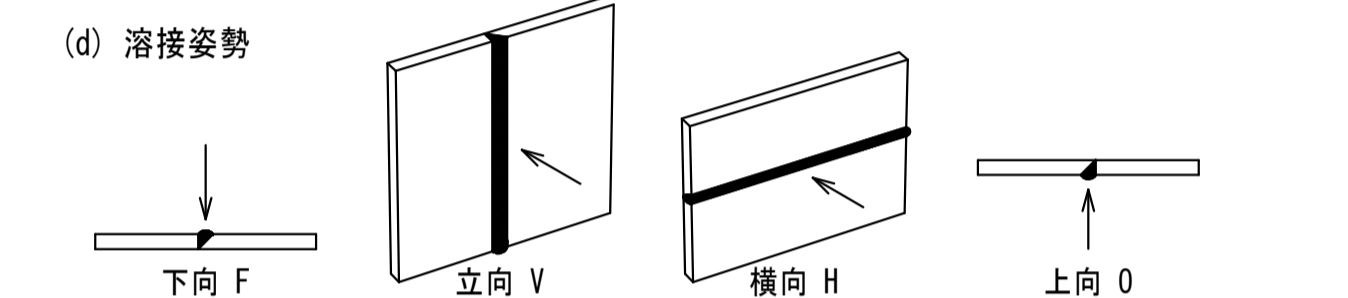
図面名称 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) (猛獣舎)

No. S-03

# 鉄骨構造標準図 (1)

## 1. 一般事項

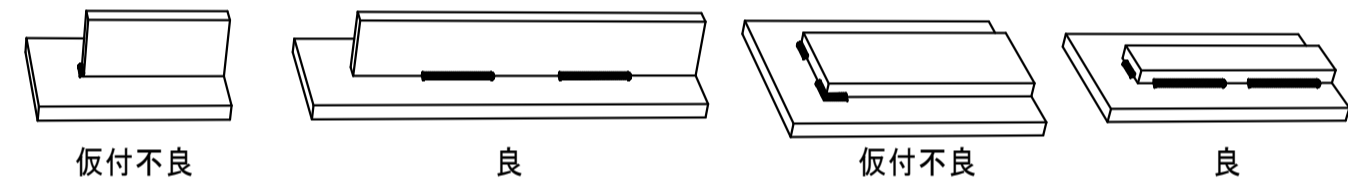
- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による
  - (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
  - (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 工作一般
- (a) 鉄骨製作及び施行に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
  - (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
  - (c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接技能者
- 溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
- (i) 交流アーク溶接機 300A～500A
  - (ii) アークエア－ガウジング機(直流)
  - (iii) サブマージアーク溶接機一式
- (c) 溶接方法
- (i) アーク手溶接(MC)
  - (ii) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
  - (iii) セルフ(ノガス)シールドアーク半自動溶接(NGC)
  - (iv) アークエア－ガウジング(AAG)



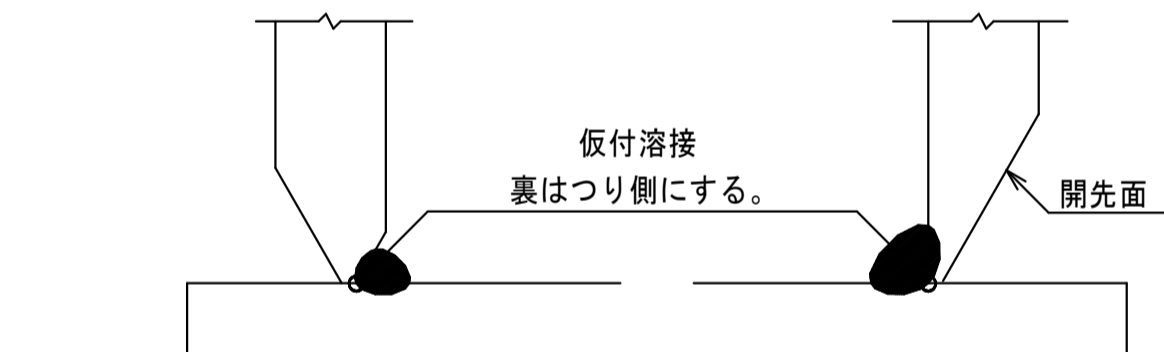
(e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う

(4) 仮付位置

組立て溶接は溶接の始、終端、変角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける

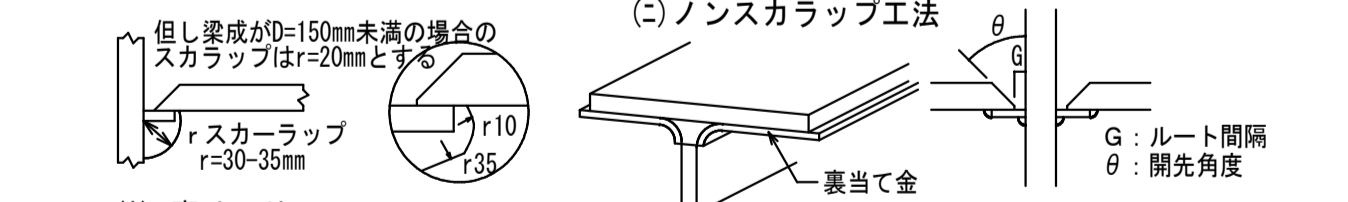


(d) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



## (f) 溶接施工

- (4) エンドタブ
- Ⅰ 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と厚度で同開先形状の  
エンドタブを取り付ける
- Ⅱ エンドタブの材質は、母材と同質とする
- Ⅲ エンドタブの長さは、NC: 35mm 以上  
NGC、GC: 40mm 以上とし特記のない場合は、  
溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、  
グラインダー仕上げとする
- Ⅳ プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者  
又は工事監理者の承認を得る
- (d) 裏あて金
- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (v) スクラップ半径は30～35mmと、10mmのダブルアールとする



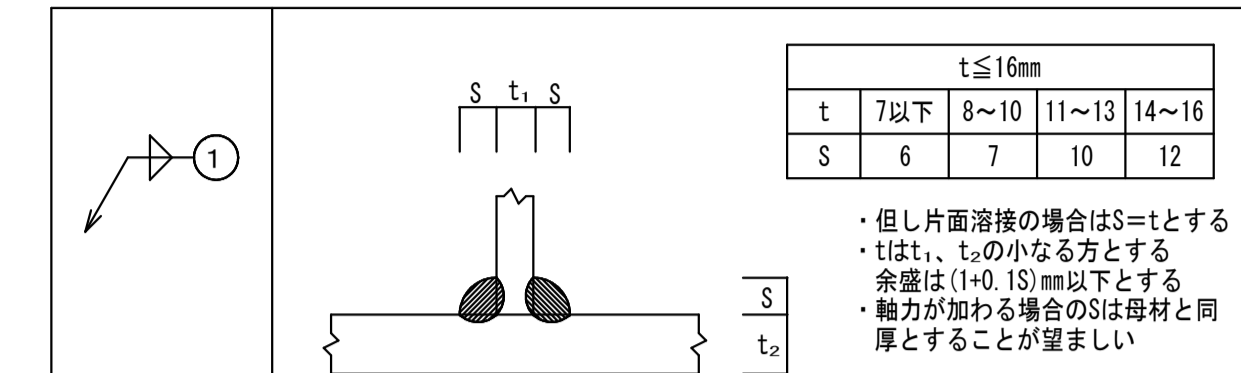
- (ホ) 裏はつり  
基準図の溶接において A A G と記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を履行し、部材に確認マークを付ける
- (ハ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行う

- (5) 塗装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

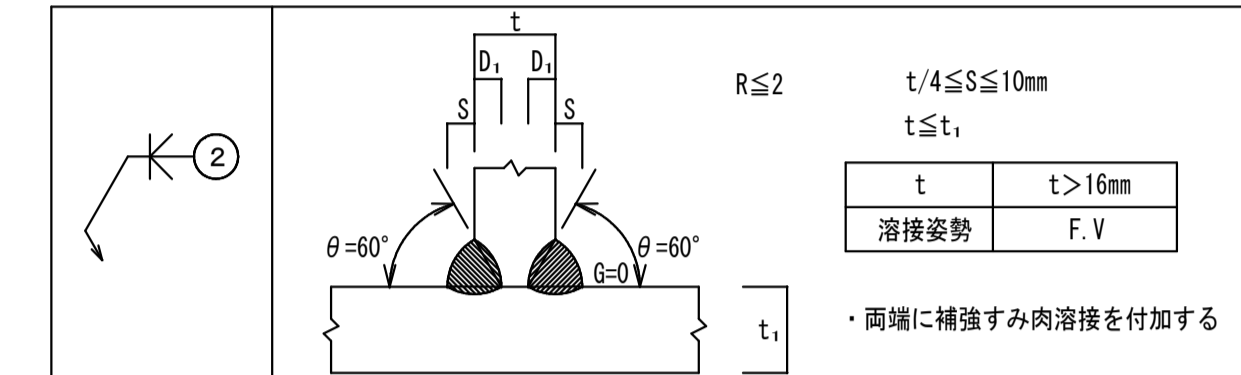
## 2. 溶接基準図

(注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位 mm)

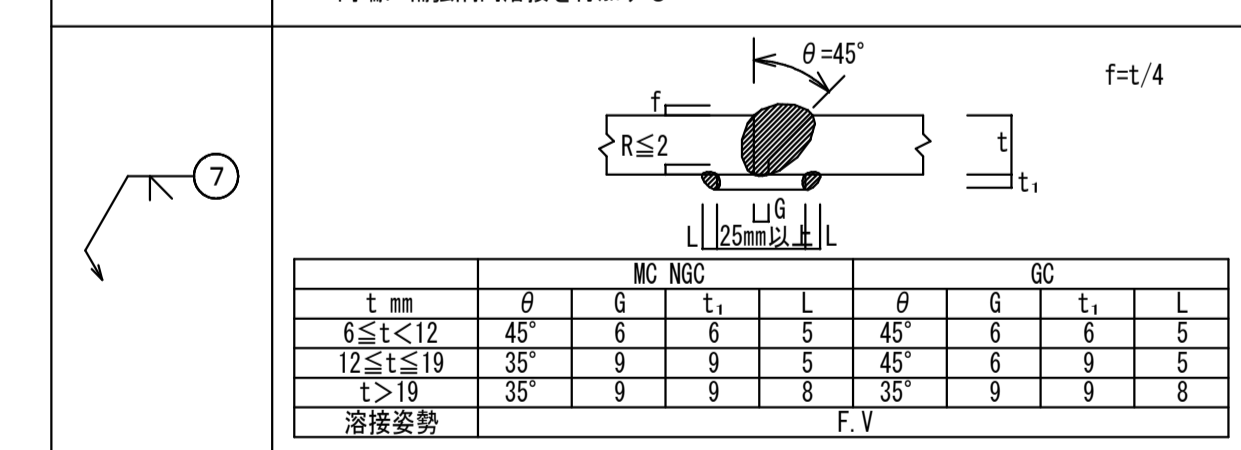
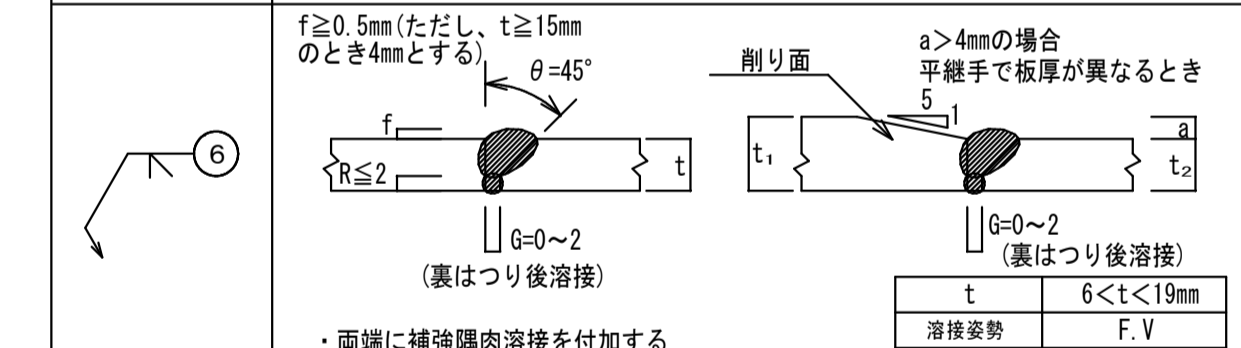
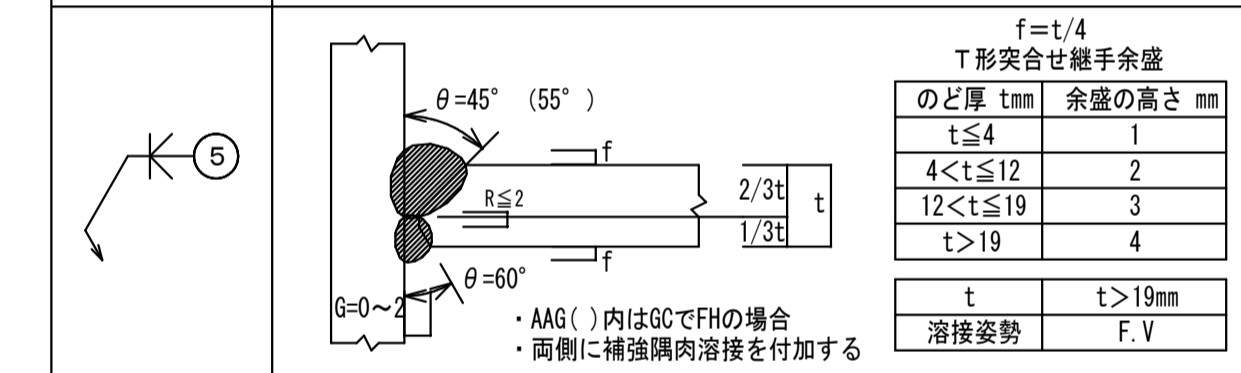
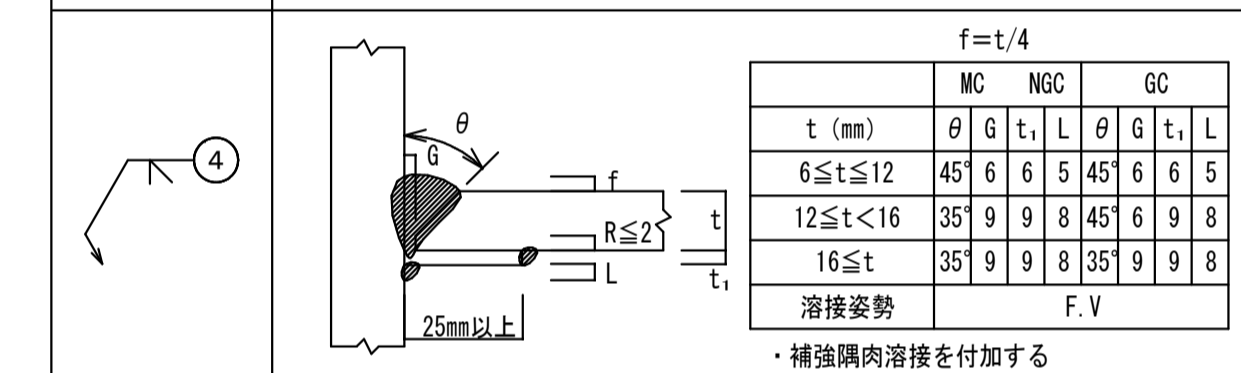
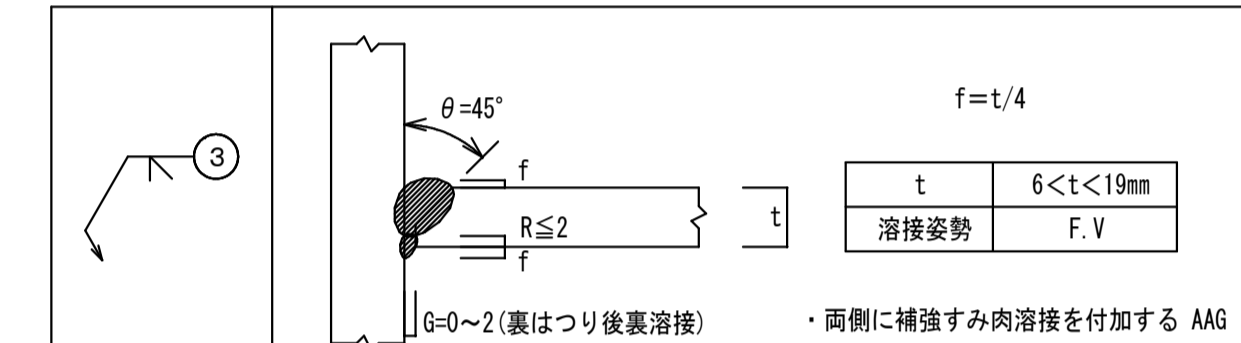
- (1) 隅肉溶接



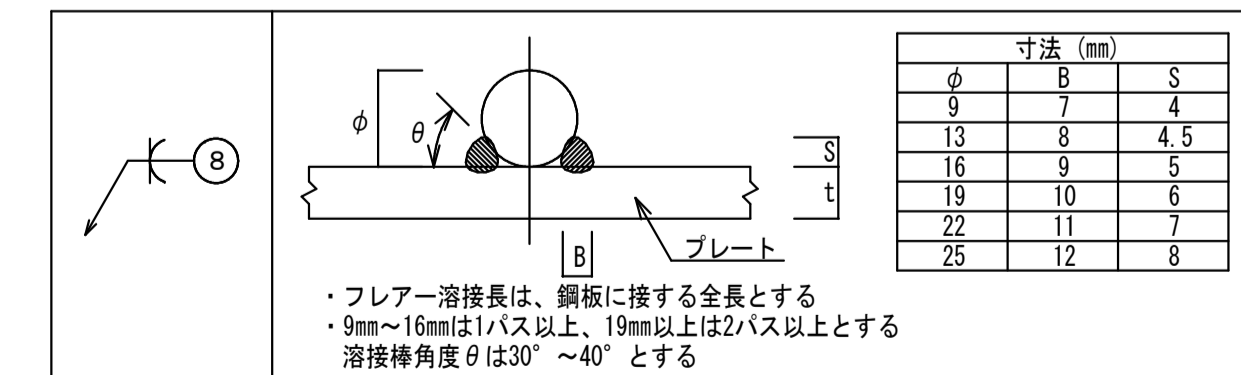
- (2) 部分溶込み溶接 (使用箇所にご注意)



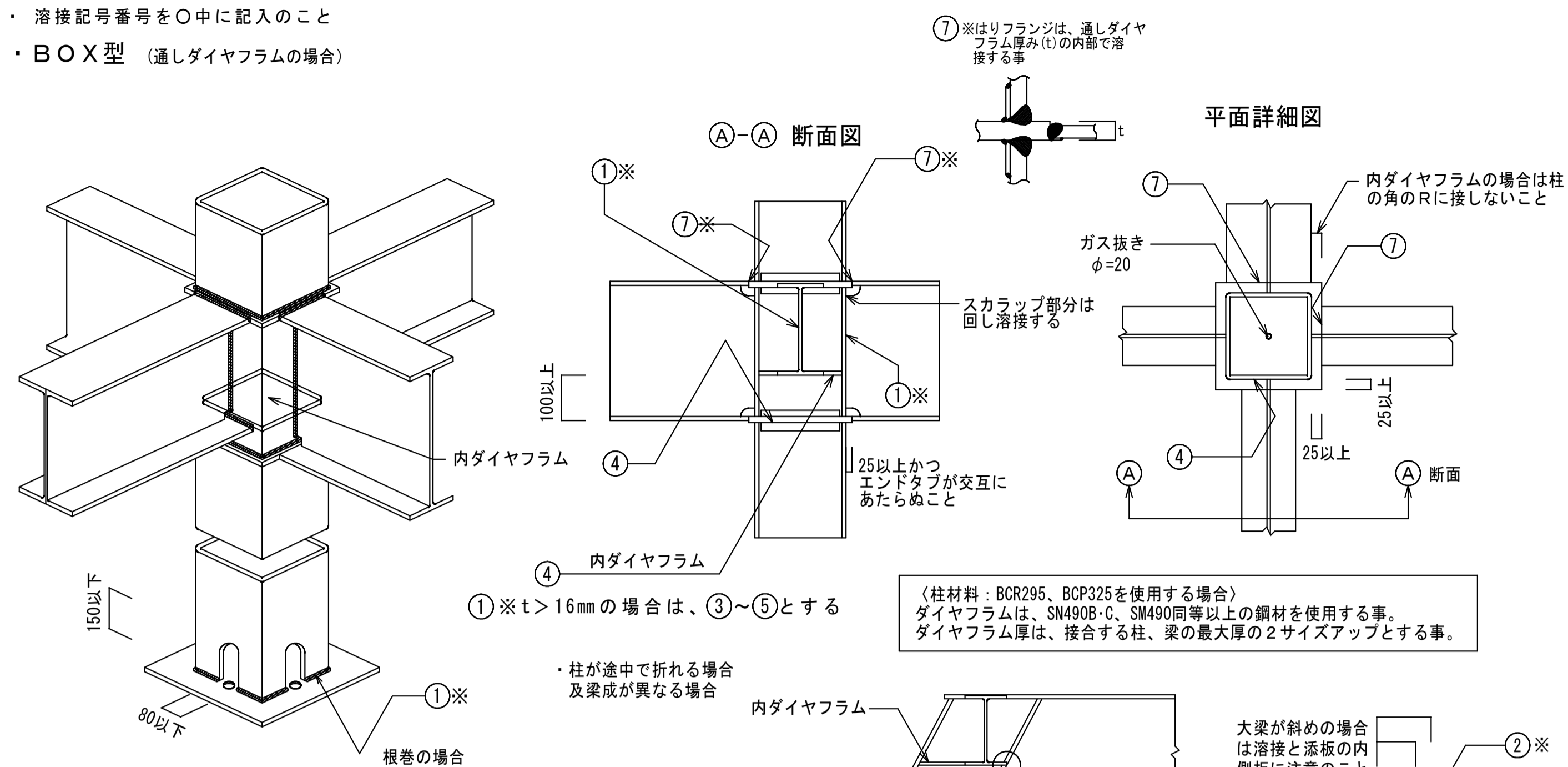
- (3) 完全溶込み溶接 (平継手、T継手)



- #### (4) フレアー溶接



- ・ 溶接記号番号を○中に記入のこと
- ・ **BOX型** (通しダイヤフラムの場合)



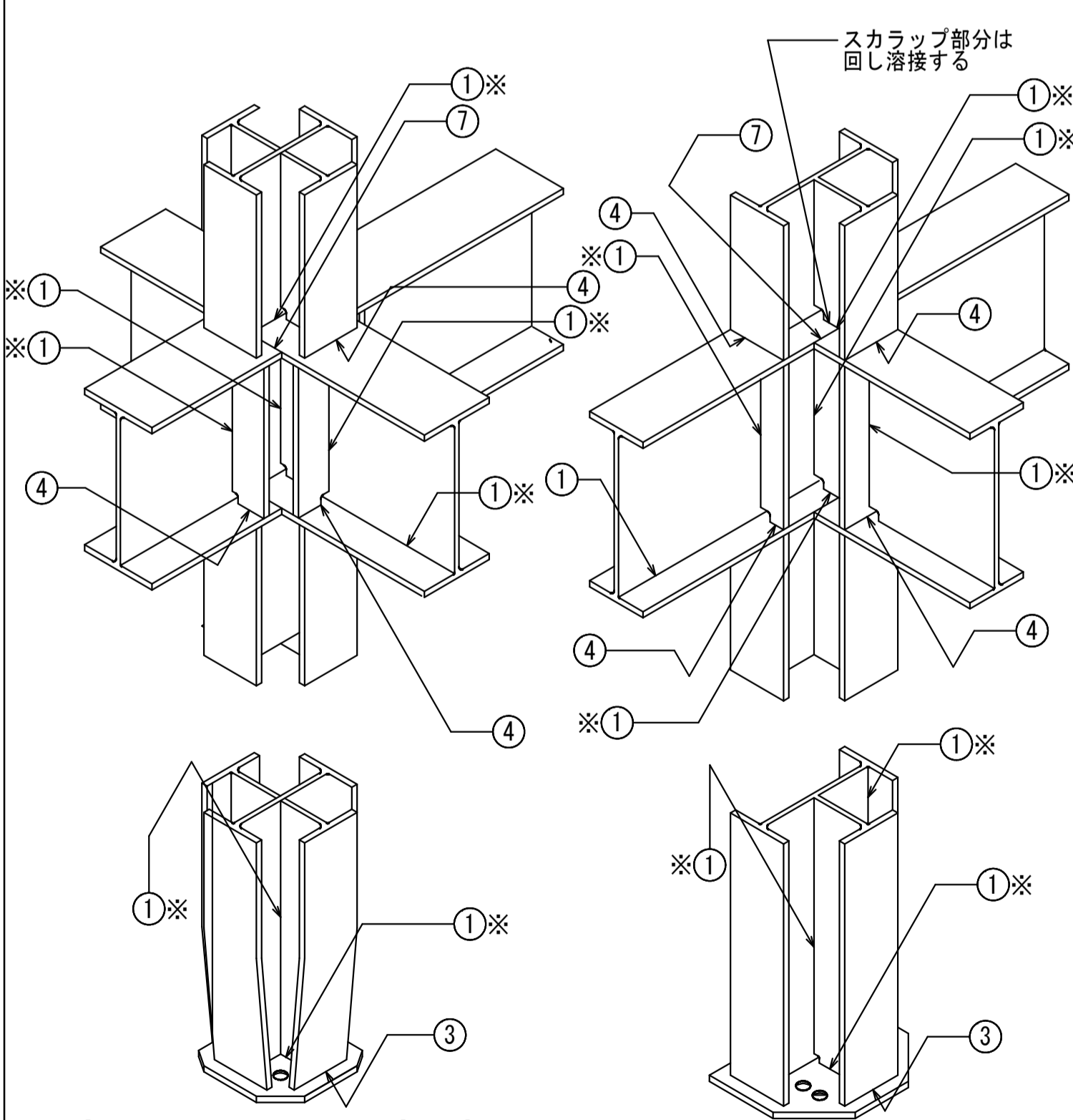
- ①※  $t > 16\text{mm}$  の場合は、③～⑤とする

- ・鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バス温度差 (℃)
400N級鋼	JIS Z 321, 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGA-18, 19		
	YGA-50W, 50P		
490N級鋼	JIS Z 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15	30以下	250以下
	YGA-18, 19	40以下	350以下
	YGA-50W, 50P		

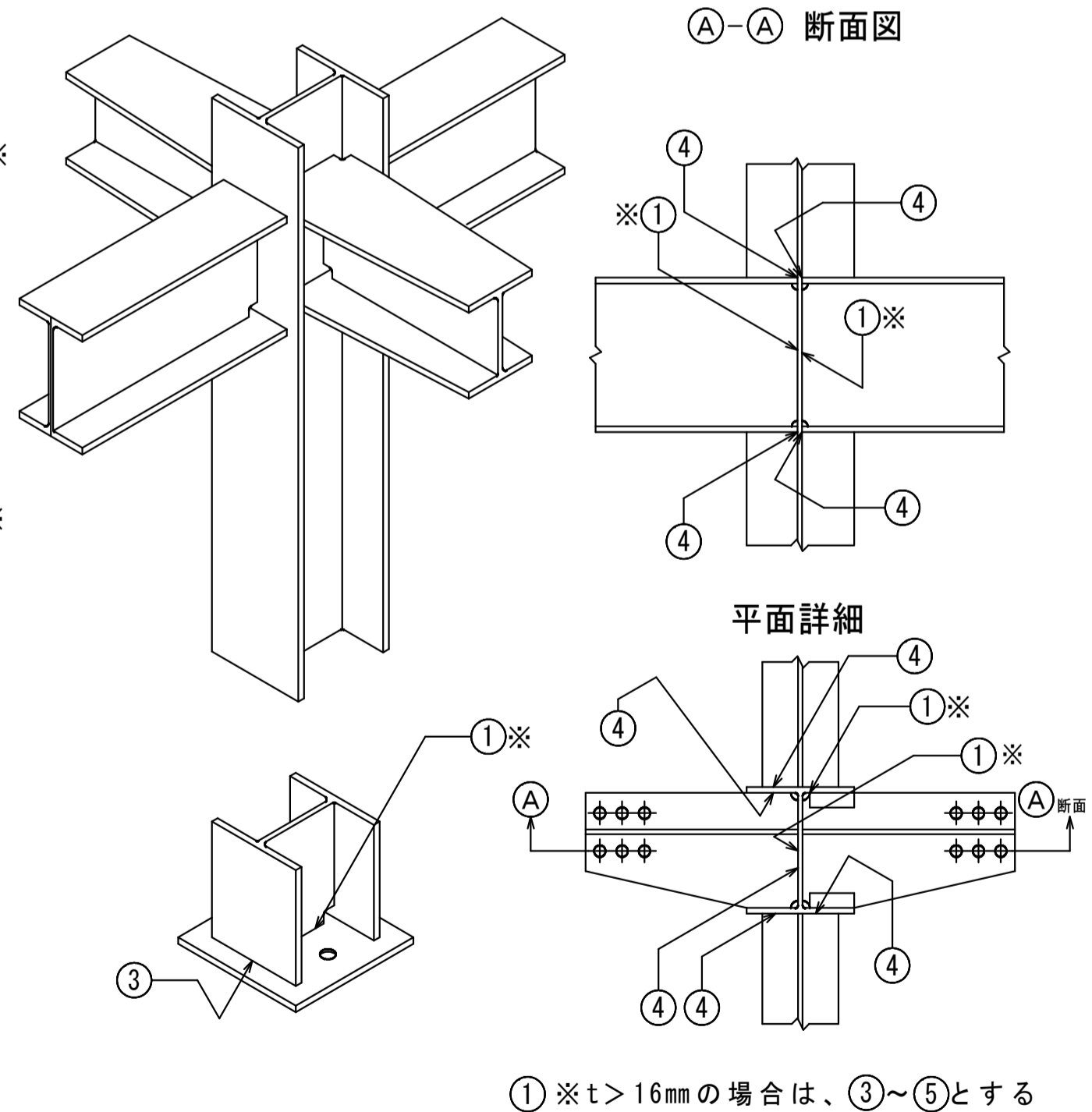


型



- ①※  $t > 16\text{mm}$  の場合は、③～⑤とする

- ・ B. H方式



- ① ※ $t > 16\text{mm}$  の場合は、③～⑤とする



1. 工法概要

1. 1 工法概要

クラウンパイルアンカー工法は、SC 杭の杭頭鋼管外周部に定着部材（以下、杭頭アンカー）を接続する金物（以下、杭頭金物）を部分溶込み溶接した後、杭頭金物のカブラー雌ねじ部に杭頭アンカーのねじ節鉄筋部を螺合することで、杭頭と基礎コンクリートを接合する工法である。  
基礎コンクリートは杭頭上端面より上部を「主基礎部」、杭のみ込み部周囲を「副基礎部」と呼称し、杭頭側面と副基礎部の応力伝達を考慮した設計の適用有無により、杭頭接合部の構造規定が異なる。（杭ごとに、概要図Aまたは概要図Bのいずれかが適用される。）

● 概要図 A（主基礎部の応力伝達のみ考慮した設計の場合）

● 概要図 B（杭頭側面と副基礎部の応力伝達を考慮した設計の場合）

杭頭アンカーの配置直径  
(杭径+200mm)

● 杭の中心間隔（設計値）  
埋込み杭は杭径の2.0倍、打込み杭は杭径の2.5倍を最小値とする。  
ただし、杭頭金物の溶接施工に支障がないことを確認すること。  
施工許容差を超えた杭の偏心等により、中心間隔の最小値が確保できない場合の対応については、別途設計者指示による。

● 杭と基礎コンクリートのへりあき（設計値）  
杭心からの距離で杭径の1.25倍以上を原則とする。  
ただし、杭径が600mm以上の場合は1.0倍以上としてもよい。  
施工許容差を超えた杭の偏心等により、へりあきの最小値が確保できない場合の対応については、別途設計者指示による。

● 杭の中心間隔（設計値）  
埋込み杭は杭径の2.0倍、打込み杭は杭径の2.5倍を最小値とする。  
ただし、杭頭金物の溶接施工に支障がないことを確認すること。  
施工許容差を超えた杭の偏心等により、中心間隔の最小値が確保できない場合の対応については、別途設計者指示による。

注1) 中詰めコンクリート  
中詰めコンクリートの強度と深さ（H）は 設計者により決定される。  
ただし、杭のみ込み高さ（h1）は確保すること。（図は参考図）

注2) かぶり厚さ  
杭頭アンカー及び杭頭金物下端部のかぶり厚さ（h2）は  
設計かぶり厚さ70mm以上、最小かぶり厚さ60mmとする。

注3) 割裂防止筋の配筋  
杭頭外周部の基礎コンクリートには終局時の割裂を防止するために  
D13@300程度の割裂防止筋を配筋し、無筋部を少なくすることが望ましい。

1. 2 適用範囲

● 杭と基礎コンクリートの適用範囲

● 杭のみ込み高さ

● 杭頭アンカー設置可能本数の上限

杭の種類	外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
杭径	400mm以上 1200mm以下
杭鋼管 鋼種	SKK400, STK400, STKN400B SKK490, STK490, STKN490B
基礎コンクリート強度	21N/mm <sup>2</sup> 以上 45N/mm <sup>2</sup> 以下 <sup>2</sup>

仕様		杭のみ込み高さ(h1)	
		概要図 A	概要図 B
D32, D38	-M	250以上 (240)	杭径の0.65倍以上 かつ300以上
D38, D38H	-L	280以上 (270)	

※（ ）内の数値は最小かぶり厚さによる  
※杭の鉛直施工許容差と端板開先部形状を考慮した寸法とする

仕様		最低定着長 (L1)
		D32 -M
D38 -M, L		728
D38H -L		915

※ 本標準図以外に定着長の指定がある場合は、設計者指示の寸法による

杭径 (mm)	鋼管厚/仕様		鋼管厚/仕様							
	9mm D32 -M	12mm D32 -M	6mm D32 -M	9mm D32 -M	9mm D38 -L	12mm D32 -M	12mm D38 -L	12mm D38 H-L	12mm D38 H-L	
400	7	8	7	8	8	8	8	8	8	
450	8	9	8	9	9	9	9	9	9	
500	8	9	8	9	9	9	9	9	9	
600	9	10	9	10	10	10	10	10	10	
700	10	12	10	11	11	11	11	11	11	
800	11	13	11	12	12	12	12	12	12	
900	11	14	12	13	13	13	13	13	13	
1000	12	15	13	14	14	14	14	14	14	
1100	13	17	14	15	15	15	15	15	15	
1200	13	18	14	16	16	16	16	16	16	

※設置本数の下限は全仕様4本とする

2. 構成部材

2. 1 杭頭アンカー

杭頭アンカーは片端部にMねじを設けた異形棒鋼を用いる。  
設計者の指定により定着長（L1）がアンカー呼び径の【35倍以上（SD390）、45倍以上（SD490）】となる場合は、Mねじ部を設けない仕様も可とする。

2. 2 定着板および定着板用六角ナット

2. 3 杭頭金物

杭頭アンカーの配置直径  
(杭径+200mm)

杭頭アンカーにMねじ部を設けない場合は使用しない

### 3. 工事現場施工

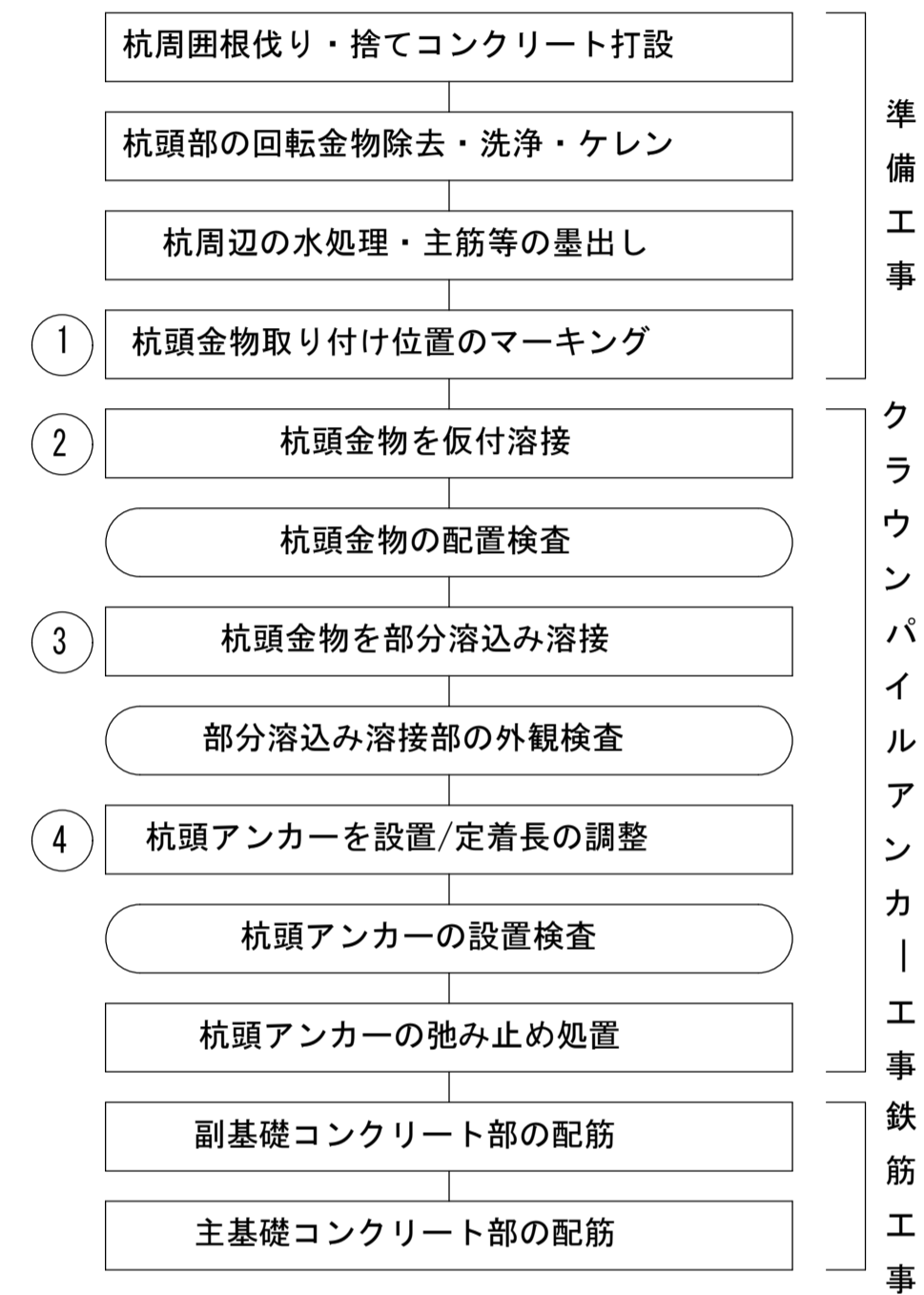
### 3. 1 施工および施工管理

本工法は岡部(株)・グループ会社により教育・技術指導を受けた者が施工及び施工管理を実施する。

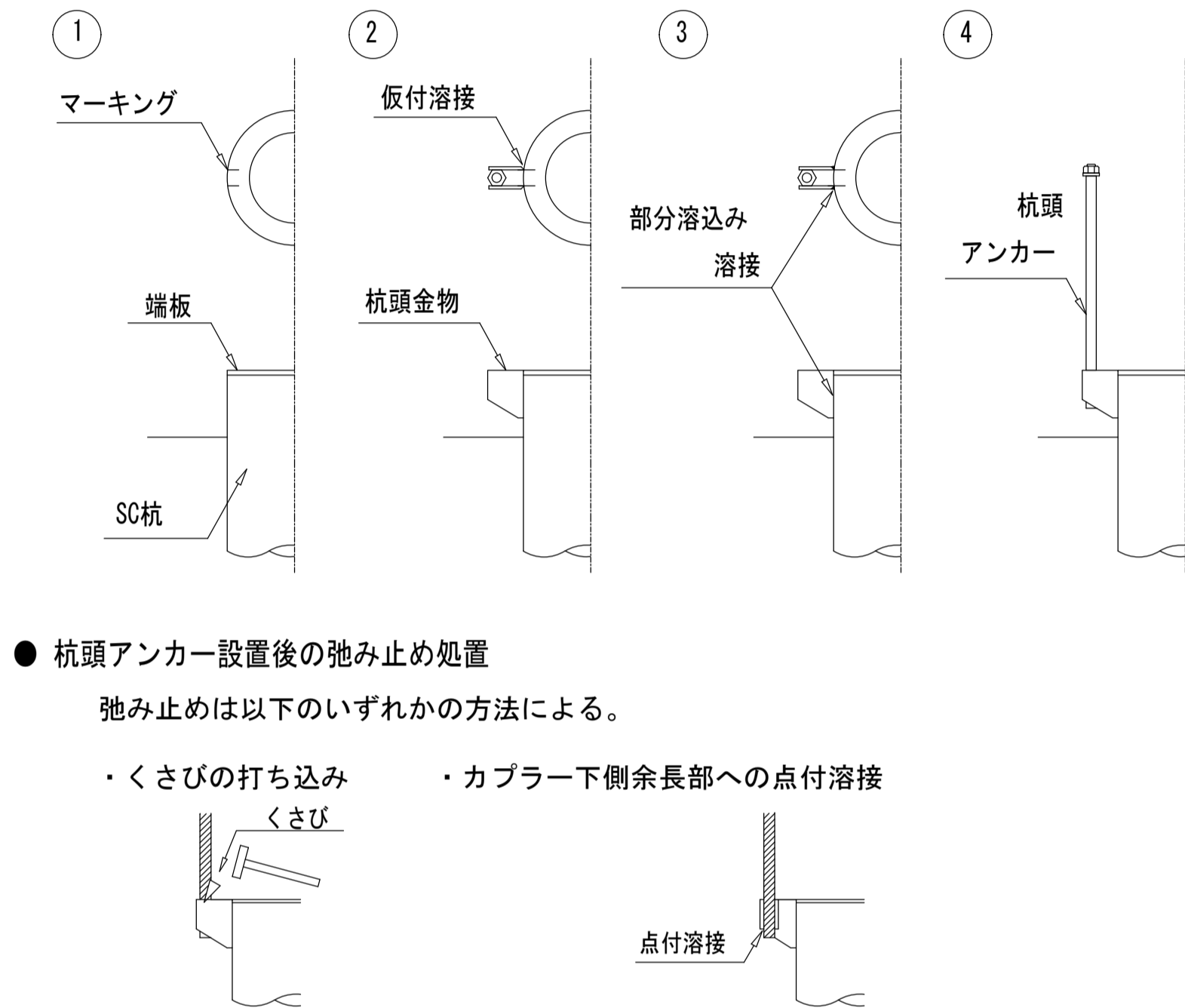
### 3. 2 施工手順

本工法の実施に必要な準備工事の実施範囲や施工手順について十分に協議する。

## ● 標準施工手順



## ● 施工手順図



### 3. 3 部分溶込み溶接規準

## ● 溶接方法と溶接材料

材料は下記の規格を満たし、かつ490N/mm<sup>2</sup>級高張力鋼に適用可能なものを使用する。

溶接方法	規格：種類
ガス シールド アーク溶接	<p>・ JIS Z 3312：軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ</p> <p>・ JIS Z 3313：軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ</p>

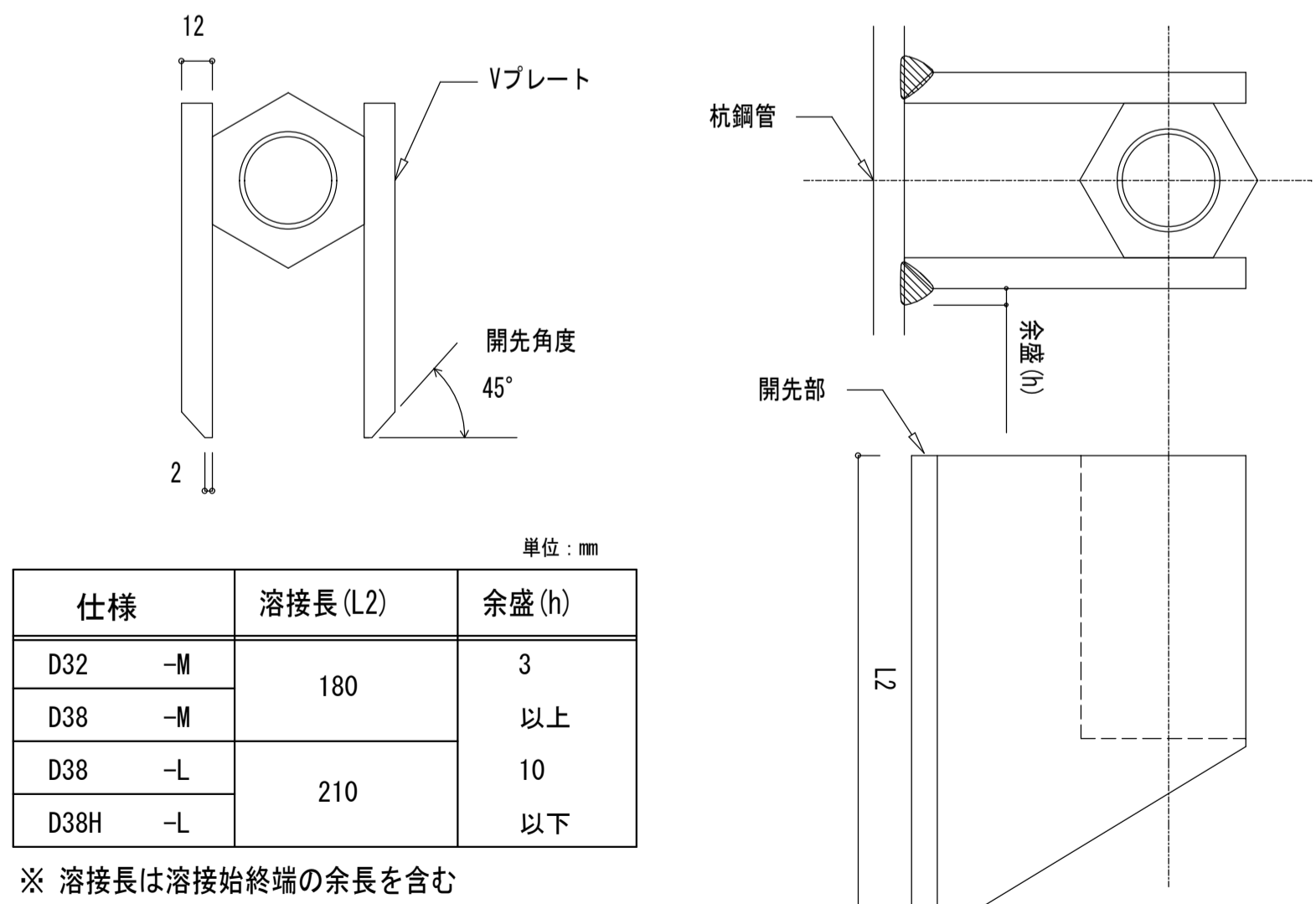
## ● 溶接資格

部分溶込み溶接は下記の規格を満たす立向姿勢の有資格者による施工を原則とする。

記号	規格：種類
SA-2V または SA-3V	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JIS Z 3841：半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準</li> <li>・ WES 8241：半自動溶接技能者の資格認証基準</li> </ul>

## ● 溶接寸法

Vプレートと杭鋼管の溶接は開先部全長（L2）にわたって行い、所定の余盛（h）を確保するように施工する。



※ 溶接長は溶接始末端の余長を含む

## 4. 仕様一覧

#### 4. 1 杭頭接合部仕様の一覧

本工法を採用する杭頭接合部に関し、各杭符号ごとに仕様の一覧を記す。

● 概要図 A を適用する杭頭接合部仕様

杭仕様				クラウンパイルアンカー仕様			基礎コンクリート部仕様・補強要領			
杭符号	杭径	杭種(鋼管厚)	杭本数	仕様	本/1杭	備考	杭のみ込み高さ		割裂防止筋	
PF1, 2, 3	800	SKK490	24	D38H-L	11		300	mm	D13 @ 300	(SD 295A )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )
								mm	D @	(SD )

上記、杭頭接合仕様について一般評定で規定する許容応力度計算を実施し、最終設計図書の記載と相違ないことを確認した。

上記、杭頭接合仕様について一般評定で規定する許容応力度計算を実施し、最終設計図書の記載と相違ないことを確認した。

※ 上記において、杭のみ込み高さおよび割裂防止筋の配筋量に関する計算上の規定はない

● 概要図Bを適用する杭頭接合部仕様

杭仕様			クラウンパイルアンカー仕様				基礎コンクリート部仕様・補強要領				
杭符号	杭径	杭種(鋼管厚)	杭本数	仕様	本/1杭	備考	杭のみ込み高さ		副基礎補強筋		副基礎帯筋
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
							mm	D @ (SD )	D @ (SD )		
上記、杭頭接合仕様について一般評定で規定する許容応力度計算を実施し、最終設計図書の記載と相違ないことを確認した。											

上記、杭頭接合仕様について一般評定で規定する許容応力度計算を実施し、最終設計図書の記載と相違ないことを確認した。

4. 2 特記事項、その他

1. 工法概要

1.1 構成部材

① アンカーボルト  
② 注入座金  
③ Mナット  
④ Dナット  
⑤ Dナット(S)  
⑥ ベースパックグラウト(グラウト材)  
⑦ 定着座金

⑧ テンプレート  
⑨ フレームポスト  
⑩ フレームベース  
⑪ ステコンアンカー  
(コンクリートアンカー)  
⑫ ベースプレート

(注)上記①～⑫の構成部材はベースパック構成部品として供給される。  
(注)上記⑧～⑪は現場状況により仕様異なる場合がある。  
(注)アンカーボルト12本の場合はつなぎプレートが取り付く。

2. 柱

F値(N/mm <sup>2</sup> )	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	
	JBCR295	
	TSC295	

3. 構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

●材質  
SN490B 【JIS G 3136】  
BT-HT440B-SP 【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】  
(建築構造用高溶接性高性能590N/mm<sup>2</sup>鋼材)

形状 (ハ) 形状 (ニ)

3.2 アンカーボルト (Dアンカーボルト)

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

単位 mm

呼び	L	b	端部ねじd	基準強度(N/mm <sup>2</sup> )
D38	850	46	M33	390
D41	900	49	M36	390
D41H	995	49	M36	490
D51	1110	57	M45	390
D51H	1215	57	M45	490

3.3 Mナット・Dナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

単位 mm

	呼び	A	B	(e)
Mナット	M33	26	50	58
	M36	29	55	64
	M45	36	70	81
Dナット	D38	45	65	75
	D41	48	70	80
	D51	60	80	92
Dナット(S)	D38	30	65	75
	D41	32	70	80
	D51	40	80	92

3.4 定着座金

単位 mm

適用アンカーボルト	g	t	d	材質
D38	65	12	37	SS400
D41, D41H	70	12	37	SS400
D51, D51H	85	12	46	SS490

3.5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料, SS490】

単位 mm

記号	適用アンカーボルト	a	c	t	d
PD38	D38	96	122	20	43
PD41	D41, D41H	100	127	20	46
PD51	D51, D51H	110	140	20	58

3.6 フレームベース

i) Cタイプ

ii) 特Cタイプ

3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低h寸法)は下表に記載の値とする。

＜Cタイプ＞

＜特Cタイプ＞

＜Cタイプ＞

＜特Cタイプ＞

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

4. コンクリート柱型

4.1 形状・材質

●形状  
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。

単位 mm

呼び	A	B	(e)
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M45	36	70	81
D38	45	65	75
D41	48	70	80
D51	60	80	92
D38	30	65	75
D41	32	70	80
D51	40	80	92

4.2 配筋

配筋仕様は下表による。

※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。  
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4.3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。

基礎梁天端  
あるいは  
フーチング天端

立上り高さ

4.4 特記事項

上記内容によらない場合は下記による。

採用

☐ 下表標準柱型寸法からの変更あり(「柱型寸法最大・最小値一覧」による)  
☐ 下表標準配筋仕様からの変更あり  
☐ 立上り筋に頂部フックが必要

6. 工事場施工

6.1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

図

柱心 e1 テンプレート中心線

けがき線

アンカーボルト

e1: 柱心とテンプレートのけがき線との許容差

標準許容差

-2≤e1≤2  
基準高さより誤差は  
-3≤e≤10

6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは右図による。

ベースパックグラウト

約30mm

2/3(埋め)

ℓ

6.5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

●Dナット(S)による弛み止めは右図による。

A. Bt Dナット(S)  
Dナット 注入座金  
B. PL

6.6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6.2アンカーボルト据付け及び6.6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

山梨建築設計監理事業協同組合

承認

設計

担当

縮尺

A1→N/S A3→N/S

設計年月日

2023.03.31

工事名称

図面名称

遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事

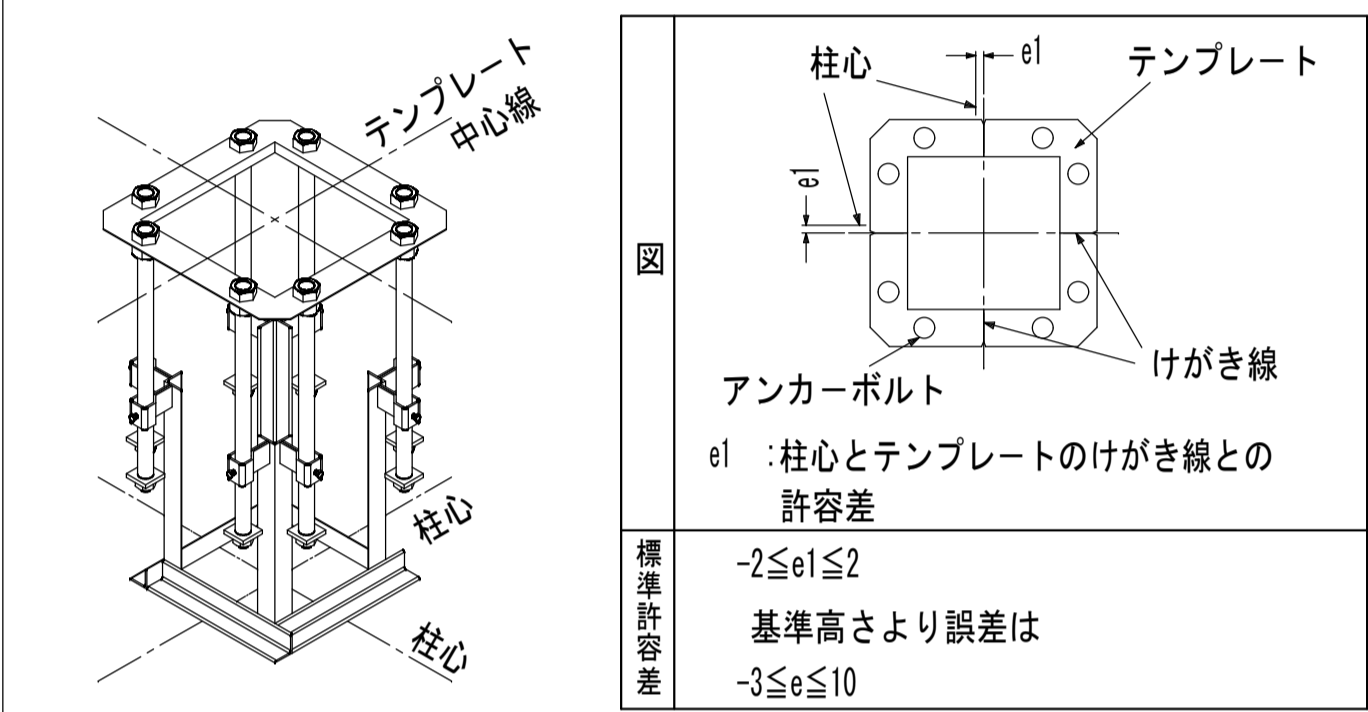
ベースパック柱脚工法 標準図 (猛獣舎)

S-07A

No.

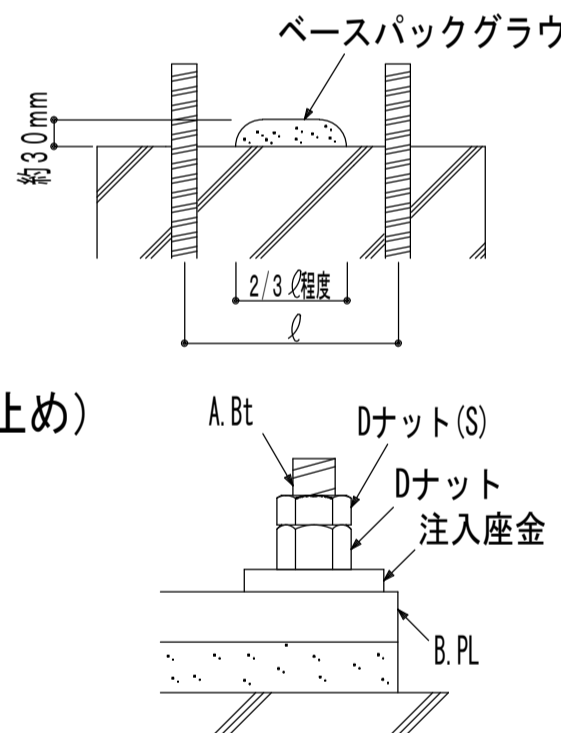
6. 工事場施工

6. 1 基礎工事
- 柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
6. 2 アンカーボルト据付け
- アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本(8本)で組立てを行う。
- フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。
- 位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

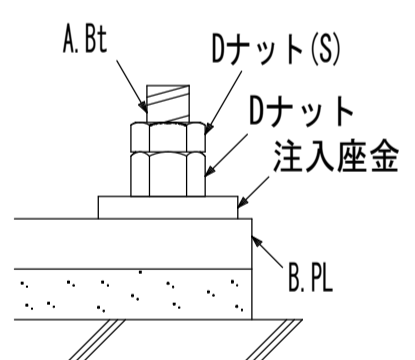


6. 3 配筋およびコンクリート打設
- 配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。
- コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6. 4 建方
- レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6. 5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）
- 本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。
- Dナット(S)による弛み止めは右図による。



6. 6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入
- グラウト材のカクハンは、グラウト材 1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。
- グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

- 本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。
- 本工法のうち 6. 2 アンカーボルト据付け及び 6. 6 ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。
- ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

種別	採用	ベースパック 記号	柱		材質	形状	ベースプレート						アンカーボルト		コンクリート柱型				設計基準強度 (N/mm) <sup>2</sup>	7分力 N	フレームベース		フレームポスト間		最低寸法 (mm)	J寸法 (mm)
			外径 (mm)	板厚 (mm)			寸法 (mm)						本数・呼び	基準強度 (N/mm) <sup>2</sup>	寸法 (mm) D	配筋		設計基準強度 (N/mm) <sup>2</sup>			寸法 (mm)		寸法 (mm)			
							a	t	l1	l2	l3	d				立上り筋	フープ筋				W	bh	x	z		
V2 柱材 F 値 2 3 5 用		216-13V2	φ190.7, φ216.3	t≤12.7	SM490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ45	4-M30	490	540	12-D16	D13φ100	21以上	A	290	50	190	50	600	135	
		216-16V2	φ190.7, φ216.3	t≤16.0	SM490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ50	4-M33	490	540	12-D19	D13φ100	21以上	A	290	50	190	50	600	135	
		267-13V2	φ267.4	t≤12.7	SM490B	(イ)	400	36	55	290	-	φ50	4-M33	490	590	12-D19	D13φ100	21以上	A	340	50	240	50	600	135	
		267-16V2	φ267.4	t≤16.0	SM490B	(イ)	420	40	65	290	-	φ60	4-D38	390	580	12-D19	D13φ100	21以上	D	324	50	184	50	800	180	
		318-13V2	φ300.0, φ318.5	t≤12.7	SM490B	(イ)	460	40	65	330	-	φ60	4-D38	390	610	12-D19	D13φ100	21以上	D	364	50	224	50	800	180	
		318-16V2	φ300.0, φ318.5	t≤16.0	SM490B, TMCP325B	(イ)	460	50	65	330	-	φ65	4-D41	390	610	12-D19	D13φ100	21以上	D	364	50	224	50	800	190	
		318-25V2	φ300.0, φ318.5	t≤25.0	SM490B, TMCP325B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ60	8-D38	390	690	12-D22	D13φ100	21以上	C	280	65	150	65	800	180	
		355-13V2	φ350.0, φ355.6	t≤12.7	SM490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ45	8-M30	490	700	16-D19	D13φ100	21以上	C	310	50	210	50	600	135	
		355-16V2	φ350.0, φ355.6	t≤16.0	SM490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ50	8-M33	490	710	16-D19	D13φ100	21以上	C	310	50	210	50	650	135	
		355-22V2	φ350.0, φ355.6	t≤22.0	SM490B, TMCP325B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ60	8-D38	390	720	20-D19	D13φ100	21以上	C	310	65	180	65	800	180	
		406-13V2	φ400.0, φ406.4	t≤12.7	SM490B	(ハ)	600	40	65	85	300	φ45	8-M30	490	750	16-D19	D13φ100	21以上	C	350	50	250	50	600	135	
		406-19V2	φ400.0, φ406.4	t≤19.0	SM490B, TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ60	8-D38	390	760	16-D19	D13φ100	21以上	C	350	65	220	65	800	180	
		406-22V2	φ400.0, φ406.4	t≤22.0	SM490B, TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ65	8-D41	390	760	20-D19	D13φ100	21以上	C	350	65	220	65	800	190	
		406-25V2	φ400.0, φ406.4	t≤25.0	BT-HT406-SF	(ハ)	610	44	70	85	300	φ65	8-D41H	490	800	20-D19	D13φ100	21以上	C	350	65	220	65	850	200	
		457-13V2	φ450.0, φ457.2	t≤12.7	SM490B	(ハ)	610	40	55	85	330	φ50	8-M33	490	790	20-D19	D13φ100	21以上	C	380	50	280	50	650	135	
		457-19V2	φ450.0, φ457.2	t≤19.0	SM490B, TMCP325B	(ハ)	630	50	65	85	330	φ65	8-D41	390	800	20-D22	D13φ100	21以上	C	380	65	250	65	800	190	
		457-25V2	φ450.0, φ457.2	t≤25.0	BT-HT406-SF	(ニ)	740	48	65	120	185	φ60	12-D38	390	930	20-D22	D13φ100	21以上	C	420	65	290	65	800	180	
		457-36V2	φ450.0, φ457.2	t≤36.0	BT-HT406-SF	(ニ)	740	60	65	120	185	φ65	12-D41H	490	980	24-D22	D13φ100	21以上	C	420	65	290	65	850	200	
		508-14V2	φ500.0, φ508.0	t≤14.0	SM490B, TMCP325B	(ハ)	700	50	65	85	400	φ60	8-D38	390	860	20-D19	D13φ100	21以上	C	450	65	320	65	800	180	
		508-22V2	φ500.0, φ508.0	t≤22.0	BT-HT406-SF	(ハ)	700	52	65	85	400	φ65	8-D41H	490	920	24-D22	D13φ100	21以上	C	450	65	320	65	850	200	
		508-32V2	φ500.0, φ508.0	t≤32.0	BT-HT406-SF	(ニ)	810	60	65	135	205	φ65	12-D41H	490	1000	24-D22	D13φ100	21以上	C	460	65	330	65	850	200	
		508-40V2	φ500.0, φ508.0	t≤40.0	BT-HT406-SF	(ニ)	830	65	75	135	205	φ75	12-951	390	1050	28-D22	D16φ100	24以上	C	470	65	340	65	950	230	
	558-16V2	φ550.0, φ558.8	t≤16.0	BT-HT406-SF	(ハ)	710	48	65	85	410	φ65	8-D41H	490	900	20-D22	D13φ100	24以上	C	460	65	330	65	850	200		
	558-28V2	φ550.0, φ558.8	t≤28.0	BT-HT406-SF	(ニ)	850	60	65	135	225	φ65	12-D41H	490	1050	24-D22	D16φ100	24以上	C	500	65	370	65	850	200		
	558-36V2	φ550.0, φ558.8	t≤36.0	BT-HT406-SF	(ニ)	870	65	75	135	225	φ75	12-951	390	1100	28-D22	D16φ100	24以上	C	510	65	380	65	950	230		
	609-22V2	φ600.0, φ609.6	t≤22.0	BT-HT406-SF	(ハ)	820	52	80	110	440	φ75	8-D51	390	1000	24-D22	D16φ100	24以上	C	500	65	370	65	950	230		
	609-28V2	φ600.0, φ609.6	t≤28.0	BT-HT406-SF	(ニ)	910	60	75	155	225	φ75	12-951	390	1100	28-D22	D16φ100	24以上	C	510	65	380	65	950	230		
	609-36V2	φ600.0, φ609.6	t≤36.0	BT-HT406-SF	(ニ)	910	65	75	155	225	φ75	12-951	390	1150	24-D25	D16φ100	24以上	C	510	65	380	65	950	230		
	660-28V2	φ650.0, φ660.4	t≤28.0	BT-HT406-SF	(ニ)	970	65	75	160	250	φ75	12-951	390	1150	28-D22	D16φ100	24以上	C	560	65	430	65	950	230		
	660-36V2	φ650.0, φ660.4	t≤36.0	BT-HT406-SF	(ニ)	970	70	75	160	250	φ75	12-951H	490	1200	28-D25	D16φ100	24以上	C	560	65	430	65	1050	235		
	711-28V2	φ700.0, φ711.2	t≤28.0	BT-HT406-SF	(ニ)	1030	65	75	175	265	φ75	12-951	390	1250	28-D25	D16φ100	24以上	C	590	65	460	65	950	230		
	711-32V2	φ700.0, φ711.2	t≤32.0	BT-HT406-SF	(ニ)	1030	70	75	175	265	φ75	12-951H	490	1300	28-D25	D16φ100	24以上	C	590	65	460	65	1050	235		
	762-25V2	φ750.0, φ762.0	t≤25.0	BT-HT406-SF	(ニ)	1070	65	75	185	275	φ75	12-951	390	1270	28-D25	D16φ100	24以上	C	610	65	480	65	950	230		
	762-28V2	φ750.0, φ762.0	t≤28.0	BT-HT406-SF	(ニ)	1070	70	75	185	275	φ75	12-951H	490	1300	28-D25	D16φ100	24以上	C	610	65	480	65	1050	235		
	812-22V2	φ800.0, φ812.8	t≤22.0	BT-HT406-SF	(ニ)	1150	65	75	200	300	φ75	12-951	390	1350	32-D25	D16φ100	24以上	C	660	65	530	65	950	230		
	812-28V2	φ800.0, φ812.8	t≤28.0	BT-HT406-SF	(ニ)	1150	70	75	200	300	φ75	12-951H	490	1400	32-D25	D16φ100	24以上	C	660	65	530	65	1050	235		
V3 柱材 F 値 3 2 5 以下用		216-10V3	φ190.7 φ216.3	t≤12.7 t≤9.5	SM490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ45	4-M30	490	540	12-D16	D13φ100	21以上	A	290	50	190	50	600	135	
		216-13V3	φ216.3	t≤12.7	SM490B	(イ)	350	36	55	240	-	φ50	4-M33	490	540	12-D19	D13φ100	21以上	A	290	50	190	50	600	135	
		267-09V3	φ267.4	t≤9.3	SM490B	(イ)	400	36	55	290	-	φ50	4-M33	490	590	12-D19	D13φ100	21以上	A	340	50	240	50	600	135	
		267-13V3	φ267.4	t≤12.7	SM490B	(イ)	420	40	65	290	-	φ60	4-D38	390	580	12-D19	D13φ100	21以上	D	324	50	184	50	800	180	
		318-09V3	φ300.0, φ318.5	t≤9.0	SM490B	(イ)	460	40	65	330	-	φ60	4-D38	390	610	12-D19	D13φ100	21以上	D	364	50	224	50	800	180	
		318-13V3	φ300.0, φ318.5	t≤12.7	TMCP325B	(イ)	460	50	65	330	-	φ65	4-D41	390	610	12-D19	D13φ100	21以上	D	364	50	224	50	800	190	
		318-19V3	φ300.0, φ318.5	t≤19.0	TMCP325B	(ハ)	530	50	65	85	230	φ60	8-D38	390	690	12-D22	D13φ100	21以上	C	280	65	150	65	800	180	
		355-10V3	φ350.0, φ355.6	t≤9.5	SM490B	(ハ)	540	36	55	85	260	φ45	8-M30	490	700	16-D19	D13φ100	21以上	C	310	50	210	50	600	135	
		355-13V3	φ350.0, φ355.6	t≤12.7	SM490B	(ハ)	540	40	55	85	260	φ50	8-M33	490	710	16-D19	D13φ100	21以上	C	310	50	210	50	650	135	
		355-16V3	φ350.0, φ355.6	t≤16.0	TMCP325B	(ハ)	560	50	65	85	260	φ60	8-D38	390	720	20-D19	D13φ100	21以上	C	310	65	180	65	800	180	
		406-10V3	φ400.0, φ406.4	t≤9.5	SM490B	(ハ)	600	40	65	85	300	φ45	8-M30	490	750	16-D19	D13φ100	21以上	C	350	50	250	50	600	135	
		406-13V3	φ400.0, φ406.4	t≤12.7	TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ60	8-D38	390	760	16-D19	D13φ100	21以上	C	350	65	220	65	800	180	
		406-16V3	φ400.0, φ406.4	t≤16.0	TMCP325B	(ハ)	600	50	65	85	300	φ65	8-D41	390	760	20-D19	D13φ100	21以上	C	350	65	220	65	800	190	
		406-19V3	φ400.0, φ406.4	t≤19.0	BT-HT406-SF	(ハ)	610	44	70	85	300	φ65	8-D41H	490	800	20-D19	D13φ100	21以上	C	350	65	220	65	850	200	
		457-10V3	φ450.0, φ457.2	t≤9.5																						

1. 概要

FabluxeDS柱はり接合法は、鉄骨造建築物の柱はり接合部にFabluxeDSを用いる柱はり接合法である。  
FabluxeDSは100mmを限度とした上下異径の角形鋼管あるいは円形鋼管を接合することができる。  
形状は、接合する角形鋼管とほぼ同一の外径を有する管状の直方体で、はりが接合する側面の内側角部にハンチを有し、鋼管柱が接合する面に水平ハンチを有する。本工法の適用範囲において、はりのフランジとFabluxeDSの接合部は保有力接合条件を満足しており、本工法を用いた架構の剛性は、柱はり縁材置換して節点剛とした架構剛性として計算することができる。

2. 使用する建築材料

【1. FabluxeDS】

(1) 形状寸法

(単位: mm)				
数量	品番	外径 (D)	長さ (H)	質量 (kg)
16	DS25	253	110	38
	DS30	303	110	53
	DS35	353	110	70
	DS40	403	110	88
2	DS45	453	110	109
	DS50	503	110	140

(2) 材質

- 基準強度 (F値) : 325N/mm<sup>2</sup>
- 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定品  
建築構造用柱梁接合部鋼材 FX490D  
MSTL-0332 (平成23年9月26日付)

【3. FabluxeDSに接合するパネル材】

(1) パネル材は、外径がFabluxeDSの外径と同一となる右記寸法を満足する角形鋼管及び溶接組立箱型断面とする。  
なお、適用する鋼管品種は、柱材に適用する鋼管品種の内、円形鋼管を除いたものとする。  
(2) パネル材に使用する角形鋼管の曲げ耐力は、上下階柱それぞれの曲げ耐力以上とする。  
(3) FabluxeDS同士もしくはFabluxeDSと通しダイヤフラムとを連結するパネル材の長さは100mm以上とする。

【4. FabluxeDSに接合するはり材】

基準強度 (F値) が235N/mm<sup>2</sup>または325N/mm<sup>2</sup>の圧延H形鋼及び溶接組立H形鋼  
＜適用するはり材品種＞

- 一般構造用圧延鋼材 (SS400、SS490)
- 溶接構造用圧延鋼材 (SM400A、SM400B、SM400C、SM490A、SM490B、SM490C)
- 建築構造用圧延鋼材 (SN400A、SN400B、SN400C、SN490B、SN490C、SN490C-TMC)
- 一般構造用溶接軽量H形鋼 (SWH400)
- 建築構造用溶接軽量H形鋼 (SWH490W、SWH490B)
- 建築構造用TMCP鋼材 (TMCP325B、TMCP325C)

3. 構造設計の条件

【1. 基本事項】

(1) 本工法の適用範囲のはりフランジとの接合において、はりフランジとFabluxeDSの接合部は保有力接合条件を満足している。  
(2) 本工法はブレース材が取り付く接合部に使用できない。  
(3) 本工法は、柱及びはりの接合部の構造方法を通しダイヤフラム形式として扱うことができる。

【2. 柱およびはりとの接合条件】

柱及びはりとはFabluxeDSの接合は、柱及びはりフランジとは完全溶け込み溶接によるものとする。  
また、溶接材料はFabluxeDSの基準強度 (325N/mm<sup>2</sup>) を満足する溶接材料を使用する。  
溶接部の検査は、「建築工事標準仕様書 JASS6鉄骨工事」に準拠し、それを満足すること。

【3. 架構の剛性】

FabluxeDSを柱はり接合部に用いた架構の剛性は、柱はり縁材置換し、柱はり接合部を剛な節点として評価できる。

【4. はりの曲げ耐力】

はりフランジとFabluxeDSに接合した部位のはりウェブは全断面有効とすることができる。ただし、はりウェブにおいてスカルップ等の欠損断面分は除くこととする。

【5. 二次設計】

本工法の適用範囲の柱材、パネル材・はり部材のうち、材料強度の基準強度が325N/mm<sup>2</sup>の部材とFabluxeDSとの溶接部の材料強度の基準強度は、材料強度の基準強度の1.0倍以下までの数値とする。

4. 標準接合部仕様

【1. 接合部 (柱材とパネル材の接合条件) 】

柱材はFabluxeDSの柱取付面に接合し、  
パネル材はFabluxeDSのパネル取付面に接合するものとする。

【2. 柱材の接合条件】

柱材心はFabluxeDS心と一致させることとする。ただし右記表に示す柱材に限り柱材を25mmを限度として偏心して接合することが出来る。

＜柱材の取付け位置例＞

【3. はり材の接合条件 (水平方向) 】

はりフランジは、FabluxeDS側面に対して平面方向に斜めに接合することが出来る。  
ただし、はりフランジのFabluxeDS側面への接合幅がFabluxeDS外径を超えてはならない。

【4. はり材の接合条件 (鉛直方向) 】

(1) FabluxeDS側面へのはりフランジの接合位置は、はりフランジ面をFabluxeDSの上下端部から15mm以上離さなければならない。(下図 a, b, c)  
ただし、はりフランジの溶接と取り合う柱の溶接線とが干渉しない (最上階で柱取付面に柱材が接合しない、柱フランジ面がFabluxeDS側面から15mm以上後退する) 場合、はりフランジ面と柱取付面を揃えることが出来る。(下図 d, e)  
(2) はりフランジは、FabluxeDSの側面に対して鉛直方向に斜めに接合することが出来る。(下図 f)

上表の参照方法の例示

		上階柱	
		□200	
下階柱	□300	上部 DS30 パネル □300	上部: 柱はり接合部上部に適用できるFabluxeDS パネル: パネル材のサイズ (FabluxeDSの外径と同一とする)
		下部 (DS30)※	下部: 柱はり接合部下部に適用できるFabluxeDS

※ ( ) : パネル材と柱材が同サイズの場合、ダイヤフラムを用いても良い

角形鋼管柱

		角形鋼管柱								円形鋼管柱							
		□150 □175	□200	□250	□300	□350	□400	□450	□500	φ216.3	φ267.4	φ318.5 φ350	φ355.6 φ400	φ406.4 φ450	φ457.2 φ500		
角形鋼管柱	□250	上部	DS25	DS25	DS25	DS30	DS35					DS25	DS30	DS35			
		パネル	□250	□250	□250	□300	□350				□250	□300	□350				
	□300	上部				DS30	DS35	DS30	DS35			DS30	DS35	DS40			
		パネル				□300	□300	□300	□350	□400			□300	□350	□400		
	□350	上部				DS30	DS30	DS30	DS35	DS40			DS30	DS35	DS40		
		パネル					DS35	DS35	DS35	DS40			DS35	DS40	DS45		
	□400	上部					DS35	DS35	DS40	DS45				DS35	DS40	DS45	
		パネル					DS40	DS40	DS40	DS45				DS40	DS45		
	□450	上部													DS45	DS50	
		パネル													DS45	DS50	
	□500	上部															
		パネル															
円形鋼管柱	φ216.3	上部	DS25	DS25	(DS25)					DS25							
		パネル	□250	□250	□250						□250						
	φ267.4	上部		DS30	DS30	DS30	(DS30)				DS30						
		パネル		DS30	DS30	DS30						DS30					
	φ318.5 φ350	上部				DS35	DS35	(DS35)				DS35					
		パネル				□350	□350	□350					□350				
	φ355.6 φ400	上部					DS40	DS40		(DS40)			DS40				
		パネル						□400	□400	□400				□400			
	φ406.4 φ450	上部						DS40	DS40					DS40			
		パネル							DS45	DS45	(DS45)				DS45		
	φ457.2 φ500	上部													DS45	DS50	
		パネル							□500	□500	□500					□500	
	上部							DS50	DS50	DS50					DS50		
	パネル																

山梨建築設計監理事業協同組合

承認

設計

担当

縮尺

工事名称

遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事

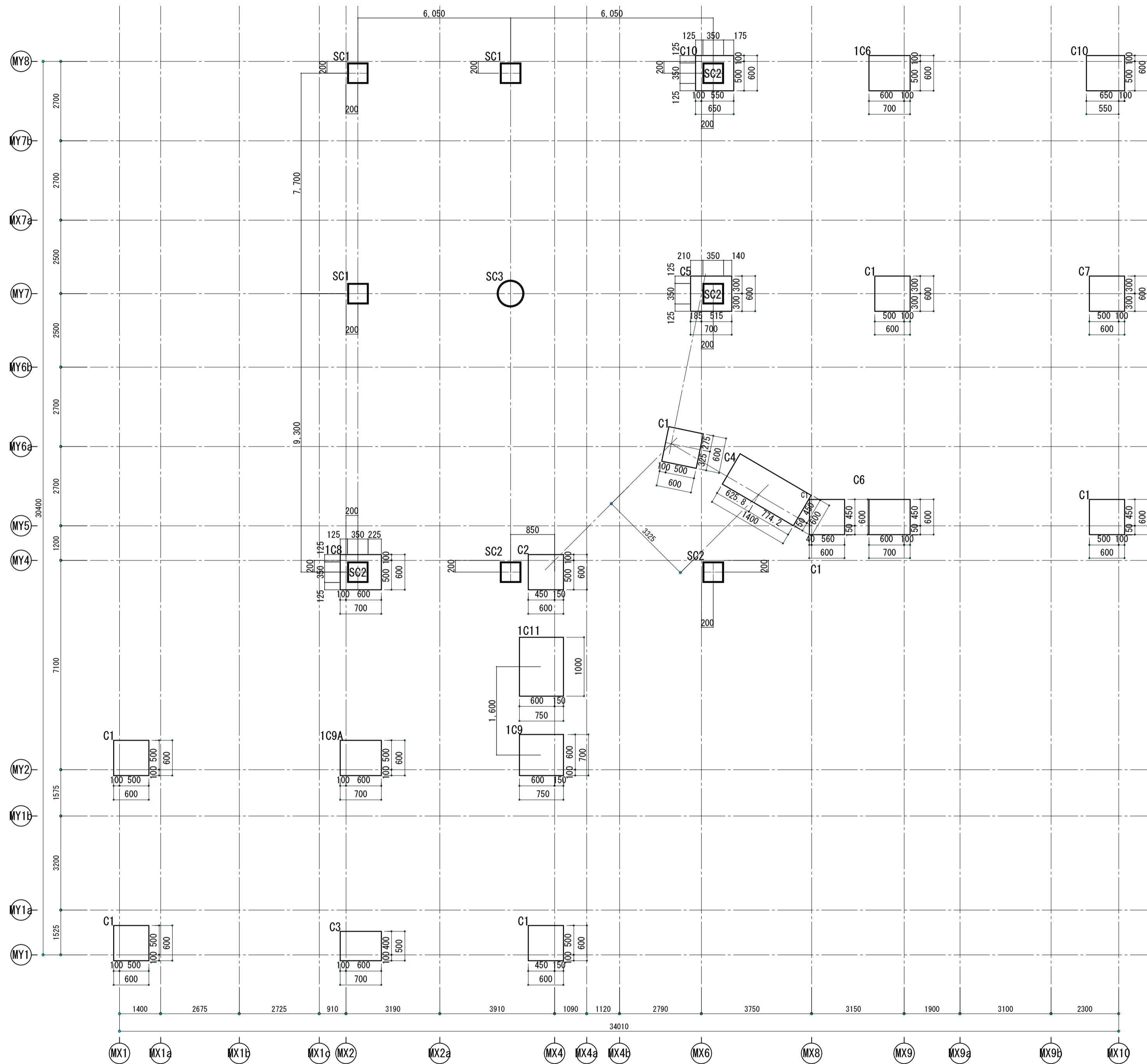
図面名称

構Fabluxe (ファブラックス)DS柱はり接合法設計標準図 (猛獣舎)

S-08

No.





柱 芯 図  
縮尺: 1:100, 50

伏図凡例

□ 柱 リスト

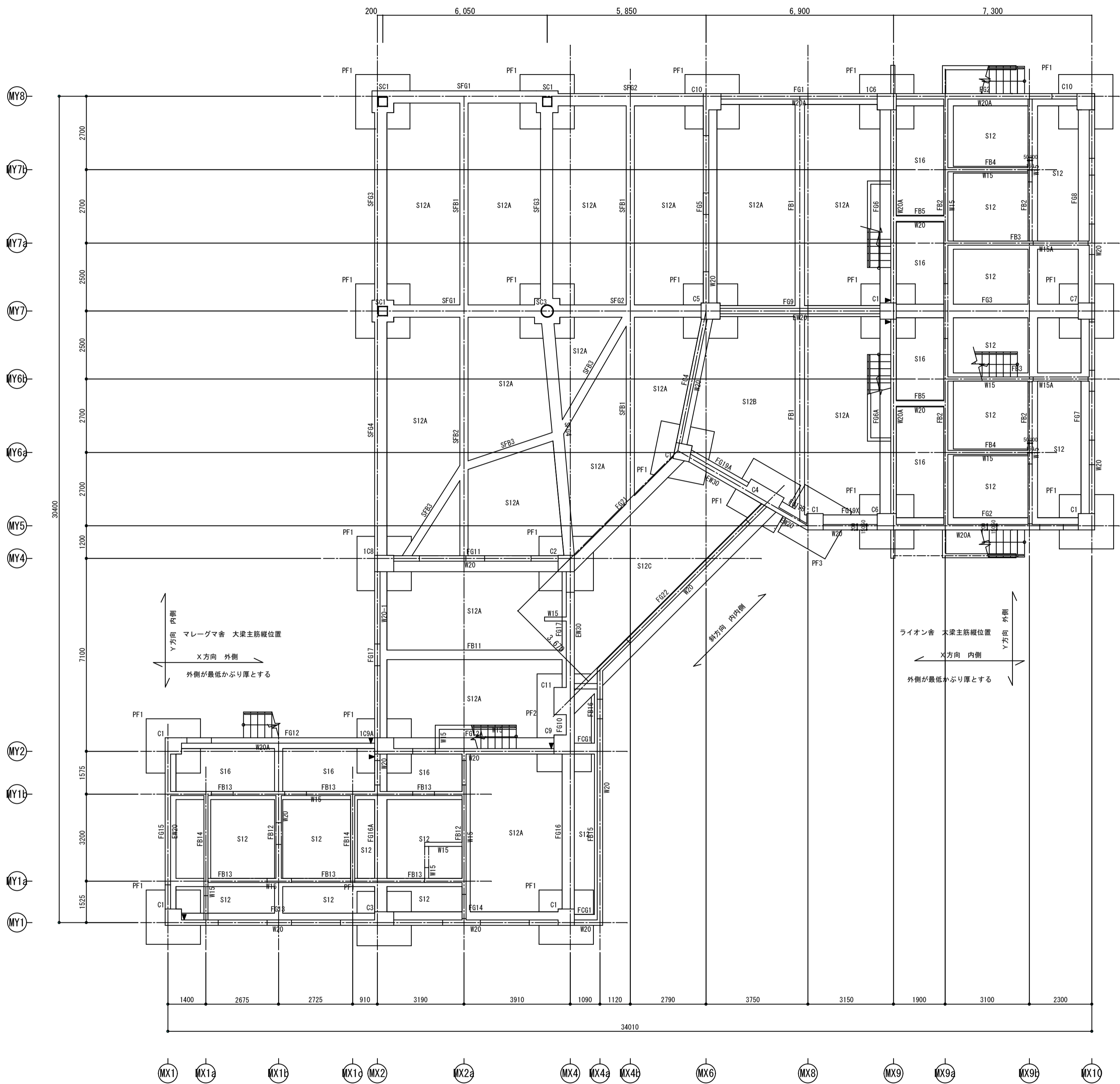
符号	断面	材質
C1	600x600	Fc24
C2	600x600	Fc24
C3	700x500	Fc24
C4	1500x600	Fc24
C5	700x600	Fc24
C6	700x600	Fc24
C7	600x600	Fc24
C8	700x600	Fc24
C9	750x700	Fc24
C9A	700x600	Fc24
C10	650x600	Fc24
C11	600x1000	Fc24
SC1	□-350x350x16/40	BCR295
SC2	□-350x350x16/40	BCR295
SC3	P-457x19	STKN490



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮 尺
			A1→1/100 A3→1/200 設計年月日 2023. 03. 31

工事名称	遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事
図面名称	柱芯線図 (猛獣舎)



依図凡例

□ 特記以外は下記による

FL=設計値±0

梁天端レベル=FL-120

▼印は鉛直スリットを示す

水平スリットは軸組図による

□ 柱 リスト

符号	断面	材質
C1	600x600	Fc24
C2	600x600	Fc24
C3	700x500	Fc24
C4	1400x600	Fc24
C5	700x600	Fc24
C6	700x600	Fc24
C7	600x600	Fc24
C8	700x600	Fc24
C9	750x700	Fc24
C9A	700x600	Fc24
C10	650x600	Fc24
SC1	□-350x350x16/40	BCR295
SC3	P-457x19	STM490

□ 大梁 リスト

符号	断面	材質
FB01	400x1200	Fc24

□ 小梁 リスト

符号	断面	材質
FB1	350x900	Fc24
FB2	350x900	Fc24
FB3	300x600	Fc24
FB4	250x600	Fc24
FB5	250x450	Fc24
FB11	350x900	Fc24
FB12	300x900	Fc24
FB13	300x600	Fc24
FB14	250x600	Fc24
FB15	300x900	Fc24
FB16	300x900	Fc24
SF81	300x900	Fc24
SF82	300x900	Fc24
SF83	300x1000	Fc24

□ 地中梁 リスト

符号	断面	材質
FG1	400x1500	Fc24
FG2	450x1500	Fc24
FG3	500x1500	Fc24
FG4	400x1500	Fc24
FG5	500x1500	Fc24
FG6	600x1500	Fc24
FG8A	600x1500	Fc24
FG7	500x1500	Fc24
FG8	600x1500	Fc24
FG9	400x1500	Fc24
FG10	400x1500	Fc24
FG11	600x1500	Fc24
FG12	400x1500	Fc24
FG12A	600x1500	Fc24
FG13	450x1500	Fc24
FG14	500x1500	Fc24
FG15	400x1500	Fc24
FG16	450x1500	Fc24
FG16A	450x1500	Fc24
FG17	450x1500	Fc24
FG18A	450x1500	Fc24
FG18B	450x1500	Fc24
FG18C	550x1500	Fc24
FG21	400x1500	Fc24
FG22	600x1500	Fc24
SF61	450x1500	Fc24
SF62	450x1500	Fc24
SF63	450x1500	Fc24
SF64	450x1500	Fc24

□ 壁 リスト

符号	厚さ
EW20	200
EW30	300
W15	150
W15A	150
W20	200
W20-1	200
W20A	200

□ スラブ リスト

符号	厚さ
S12	120
S12A	120
S12B	150
S12C	120
S16	160

□ 基礎 リスト

符号	断面
PF1	2000x2000x1300
PF2	2000x3600x1300
PF3	2000x2000x1800

基礎 伏図

縮尺：1/100

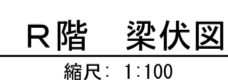
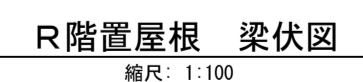
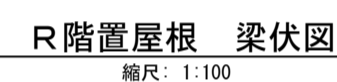
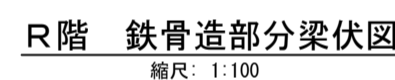


山梨建築設計監理事業協同組合

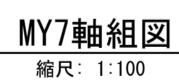
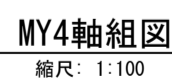
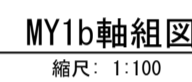
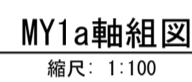
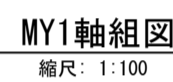
承認	設計	担当	縮 尺
			A1→1/100 A3→1/200
			設計年月日
			2022. 09. 20

工事名称 遊亀公園付属動物園整備工事

図面名称 基礎伏図(猛獣舎)



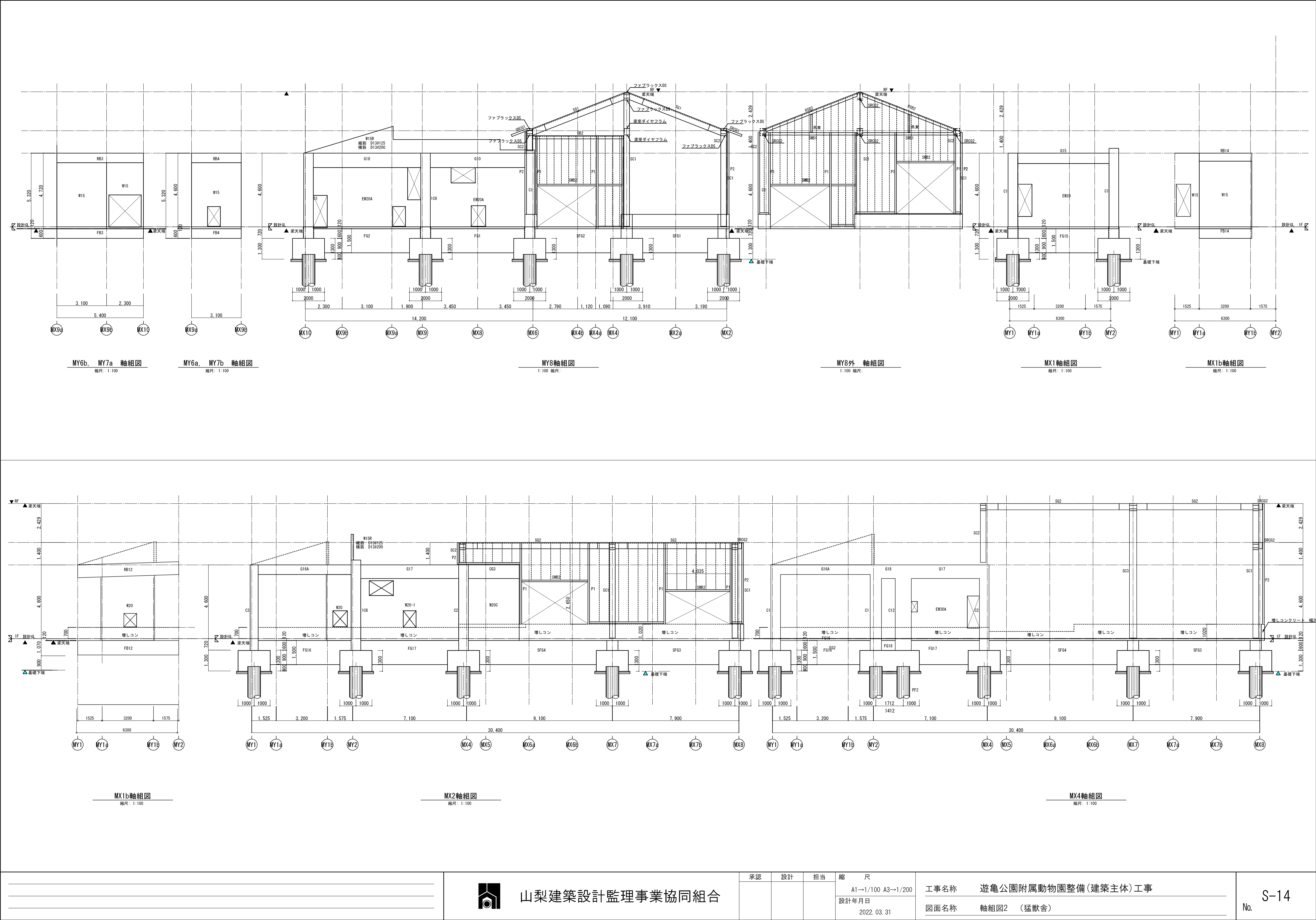
符号	厚さ
S1	300
S2	150
GS1	300～150
GS2	150
S15	150
S15A	150
S15B	150

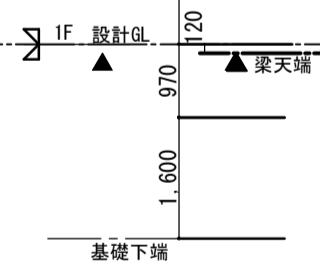


山梨建築設計監理事業協同組合

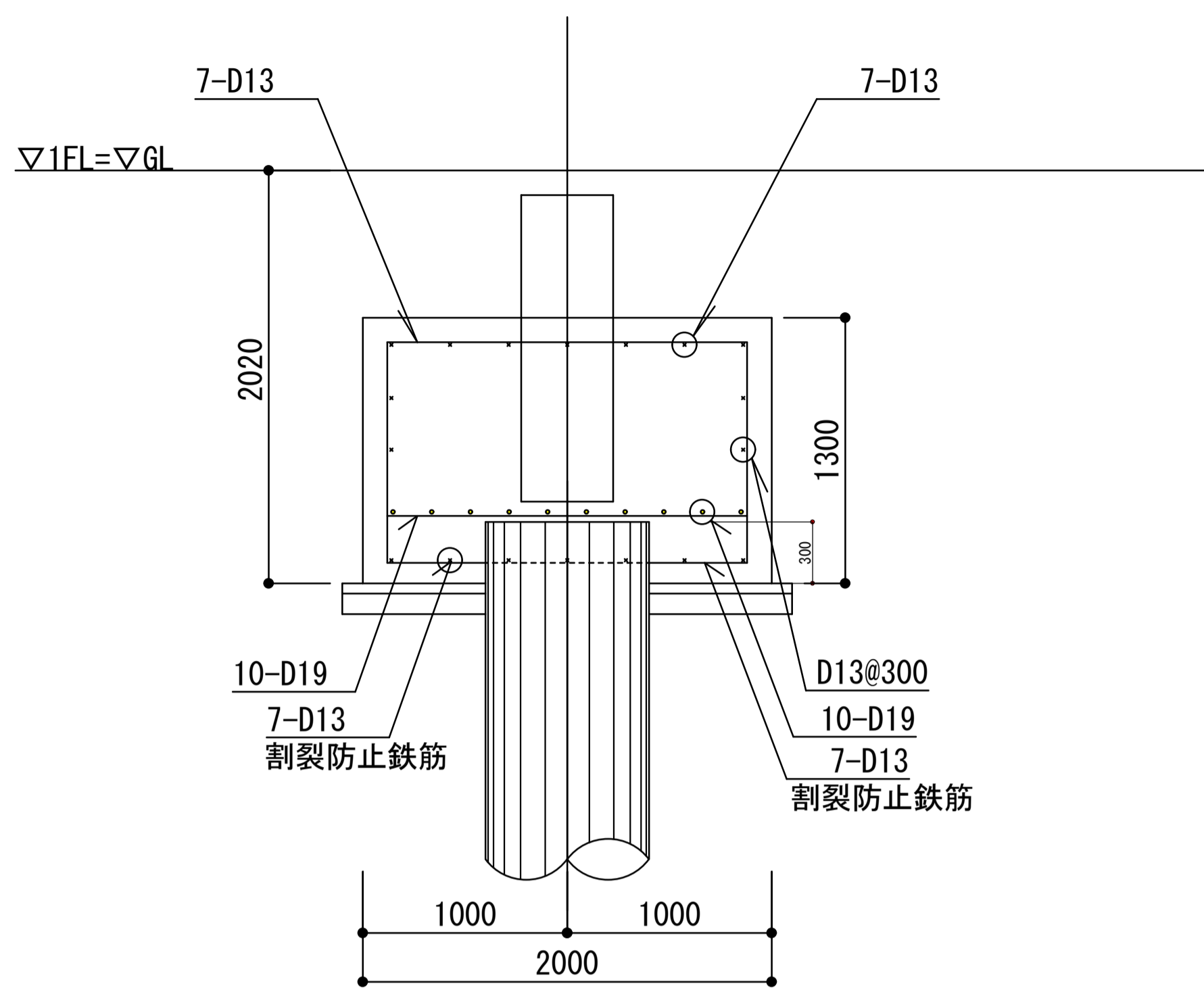
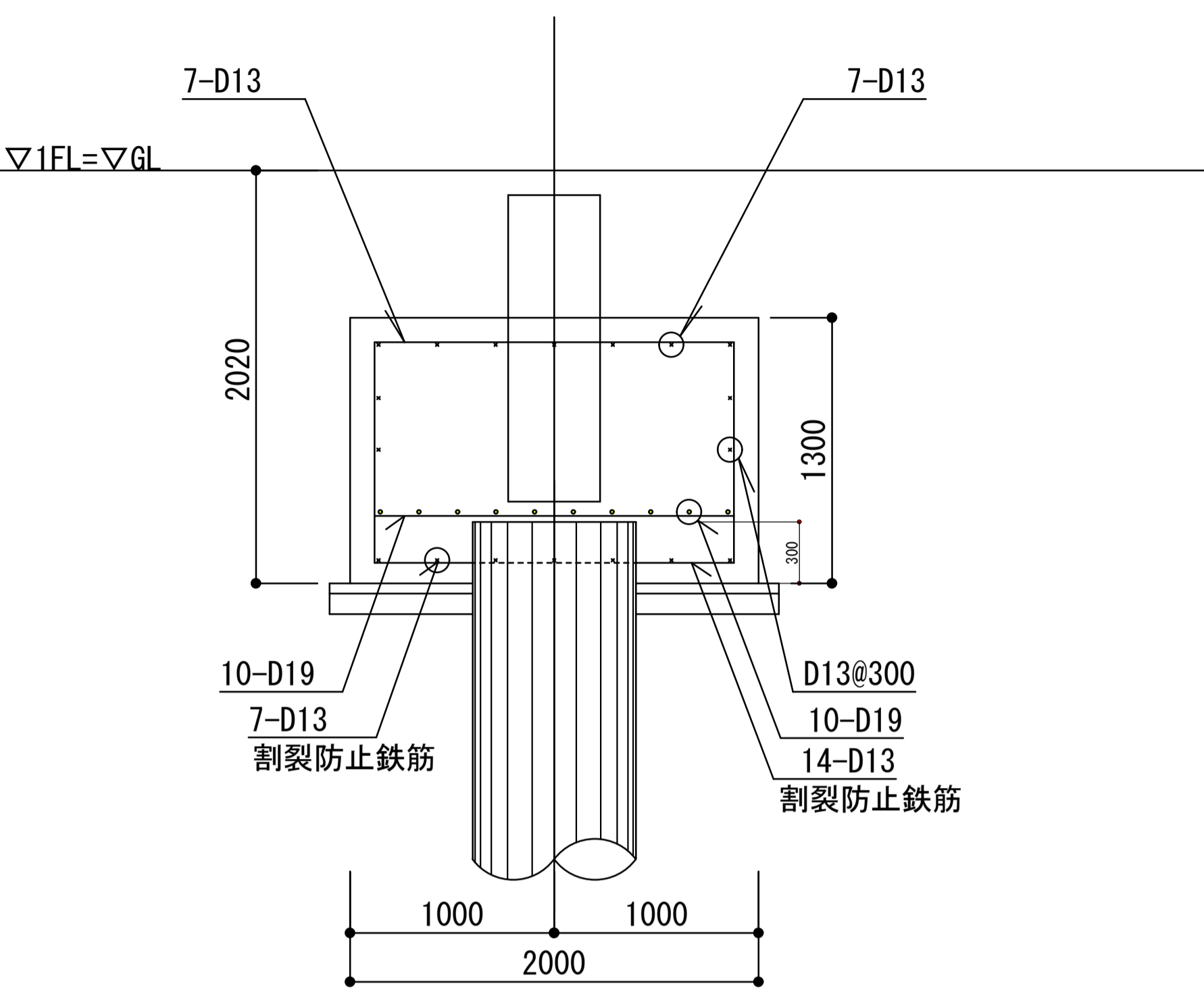
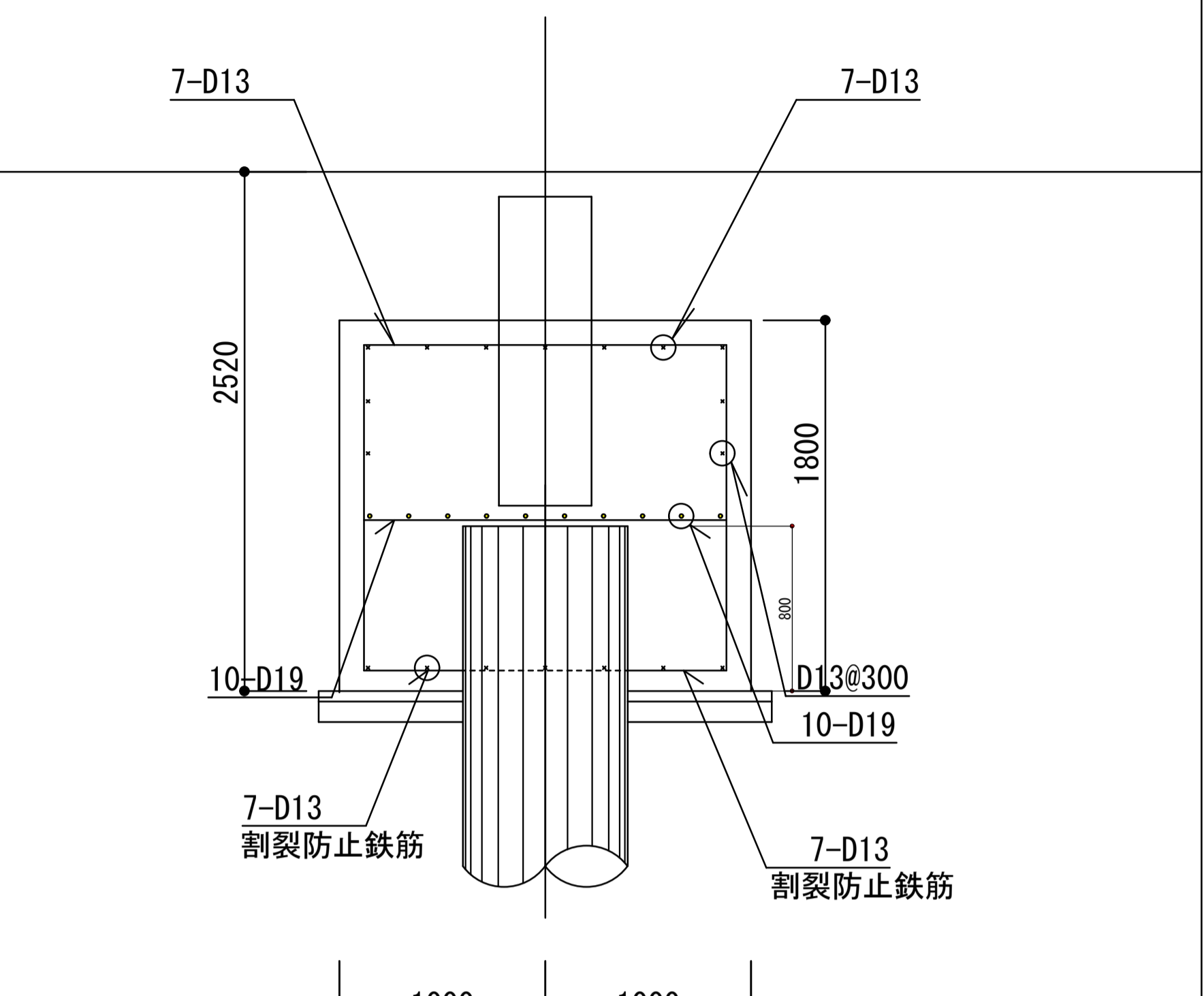
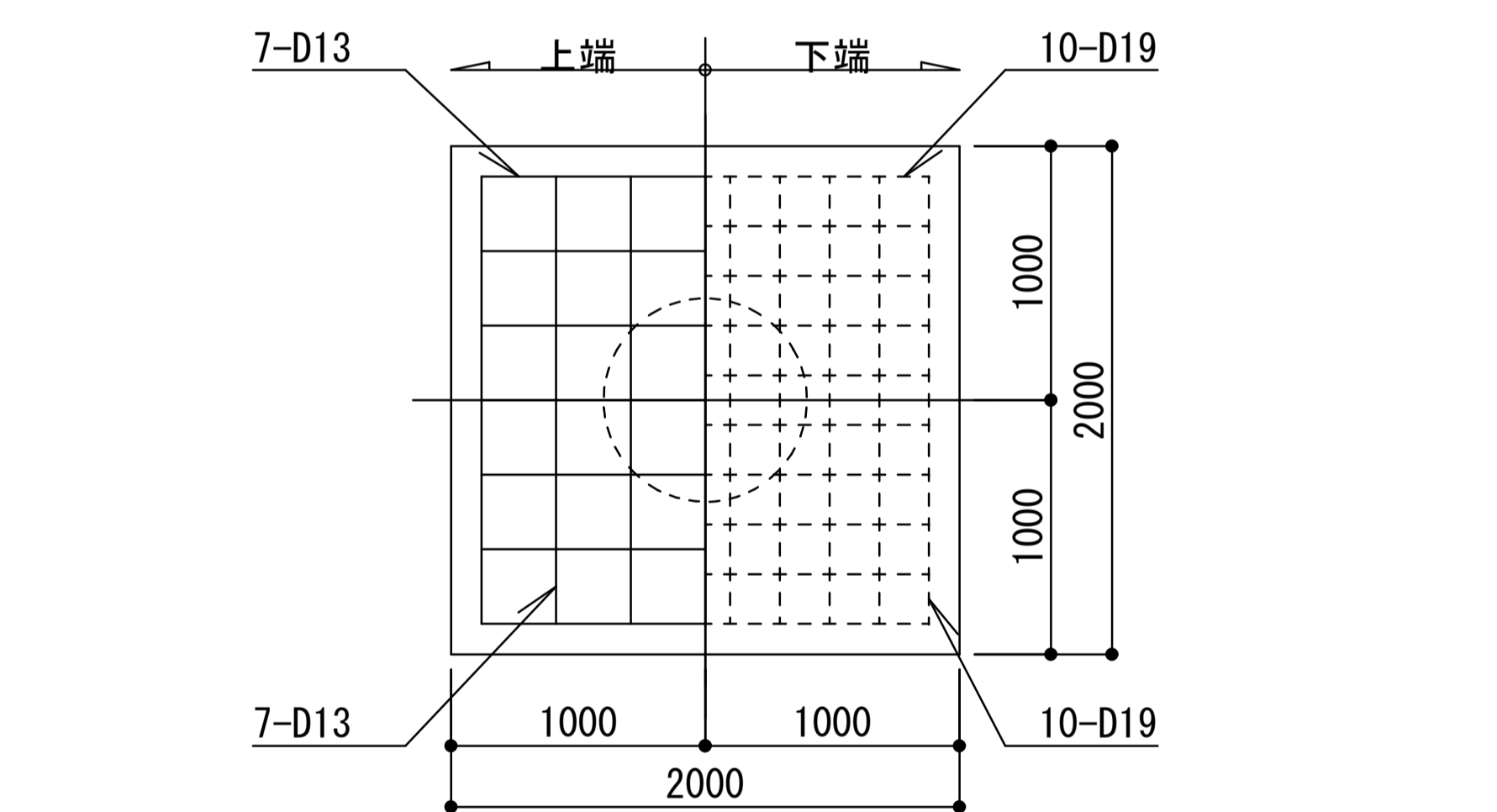
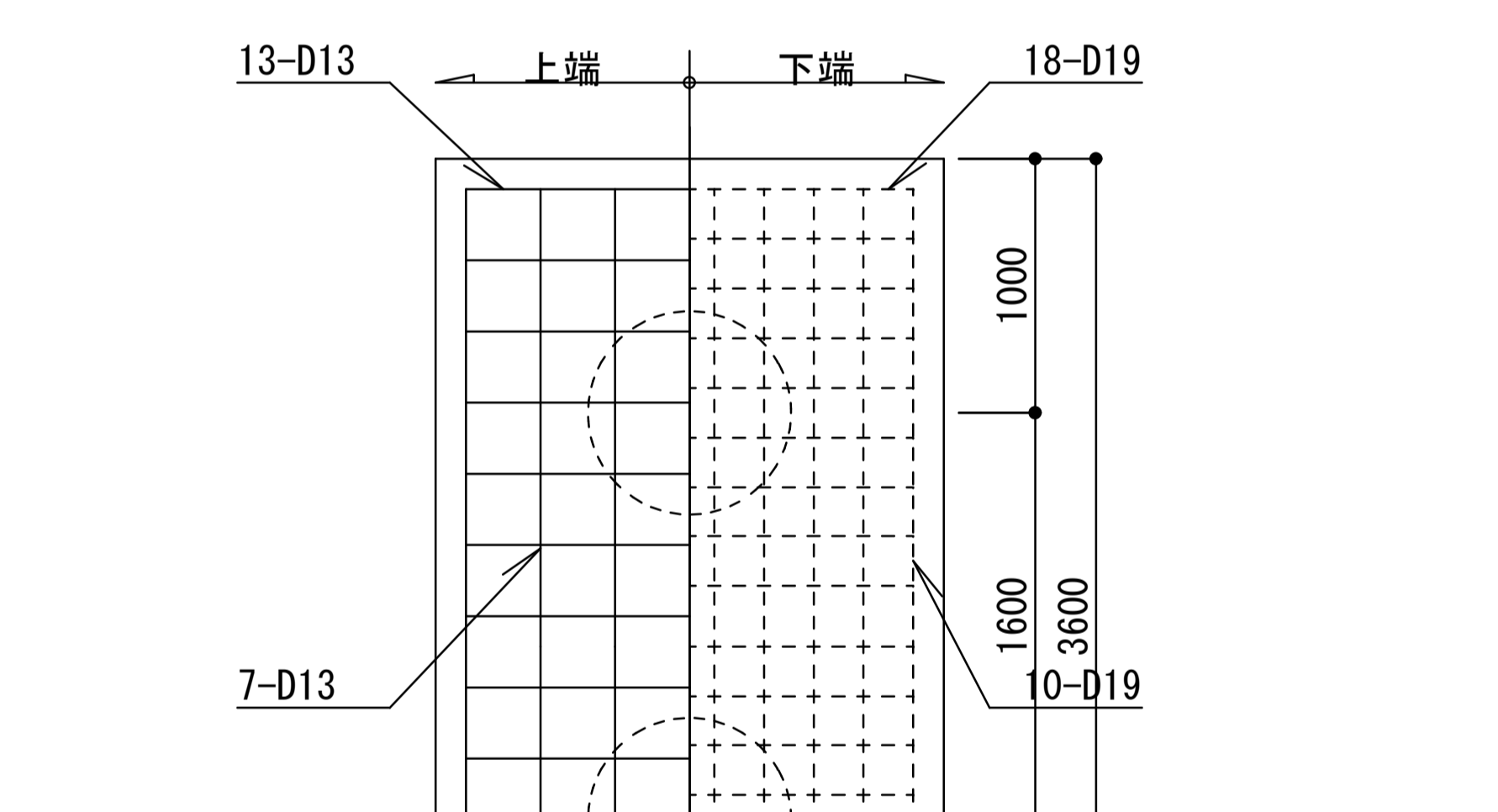
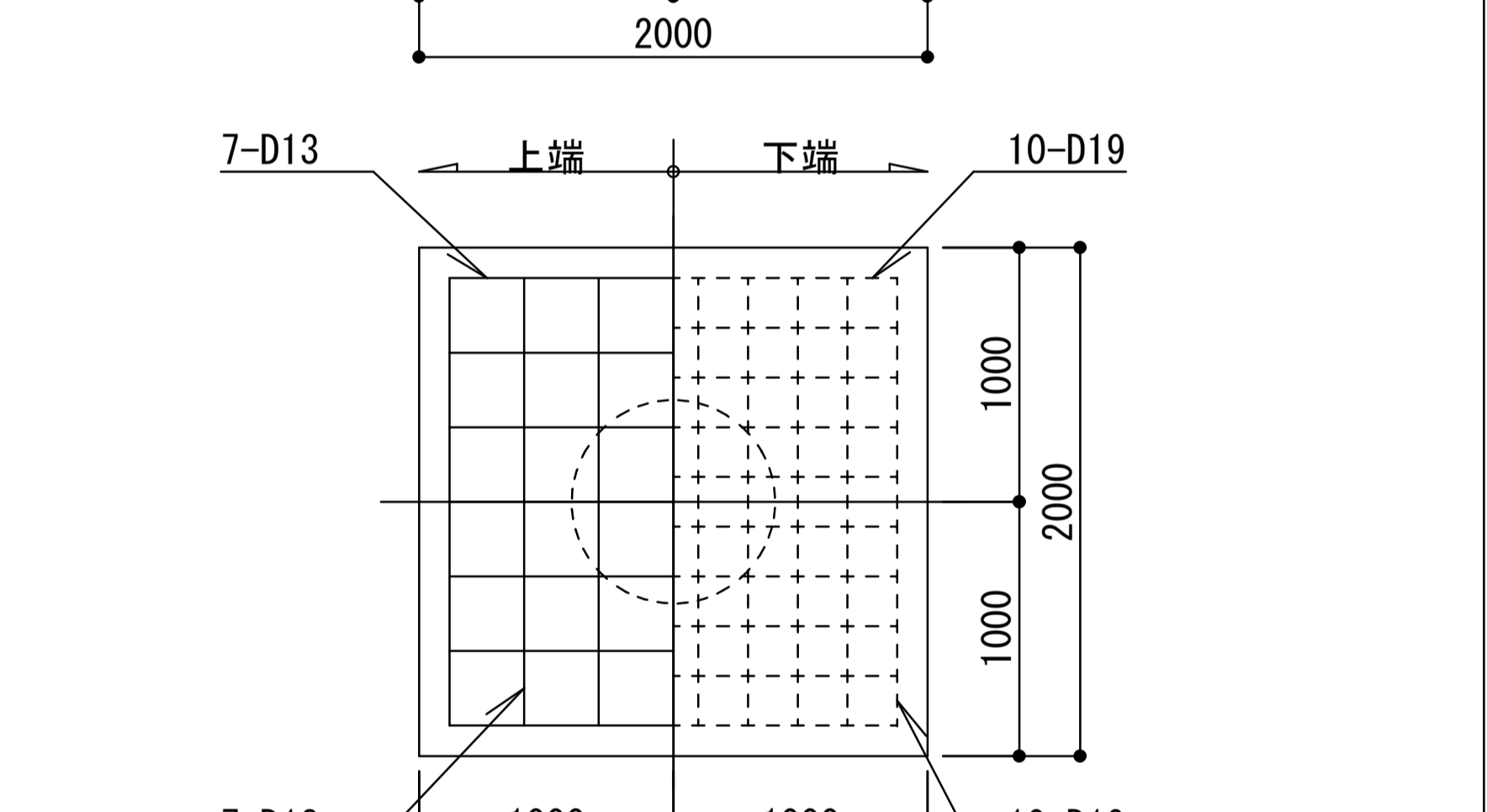
承認	設計	担当	縮 尺
			A1→1/100 A3→1/200
			設計年月日 2023. 03. 31

工事名称	遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事
図面名称	軸組図(猛獣舎)



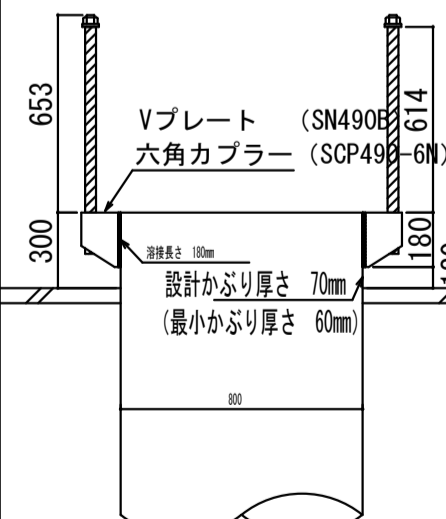
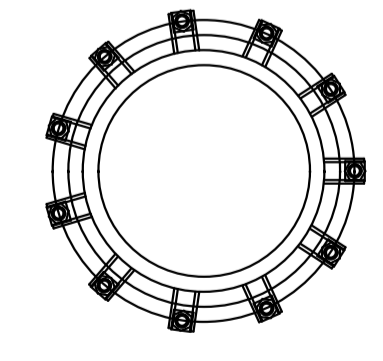


杭基礎 リスト

符号	PF1	PF2	PF3
断面			
			
材料強度	使用材料      コンクリート      Fc=24      異形鉄筋      SD390 (D32以上)      SD345 (D19, D22, D25, D29)      SD295A (その他)		
	杭頭補強金物      クラウンパイルアンカー      日本建築センター      評定品      仕様		

SC杭 800 SSK490 PL-12

杭符号	P 1	杭set数	2 4 本
杭径	φ800	杭鋼管厚さ	1 2 mm
クラウンパイルアンカー仕様数量 11-D32 (M)			



杭頭補強金物は岡部(株)のクラウンパイルアンカーを使用。  
詳細はクラウンパイルアンカー検討書を参照。  
杭頭金物、杭頭アンカーの施工は専門業者による施工とする。  
杭頭側面副資材基礎部割裂防止鉄筋配筋作業は元請け業者によるものとする。



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮 尺
			A1→1/25 A3→1/50 設計年月日 2023. 03. 31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備(建築主体) 工事  
図面名称 基礎リスト (猛獣舎)

No. S-16

R C柱リスト					S 柱 リスト							
S=1/50 , 25					ダイヤ筋は施工上必要であれば @5 0 0 程度にいれる							
符 号	1 C 1	1 C 2	1 C 3	1 C 4	符号	S C 1	S C 2	S C 3				
1F					1F							
主筋	28-D25	28-D25	16-D25	32-D25	部材	□-350x350x16/40	□-350x350x16/40	P-457x19				
帯筋 X方向	4-D10@100	2-D13@100	3-D10@100	3-D10@100	材質	BCR295	BCR295	STKN490				
帯筋 Y方向	3-D10@100	4-D13@100	3-D10@100	4-D10@100	柱頭	ファブラックスDS	ファブラックスDS	ファブラックスDS				
								□-500x500x19/57				
					柱脚	ベースバック仕様	露出形式柱脚	ベースバック仕様				
					露出形式柱脚							
1F					符号	断面	アンカーボルト			備考		
主筋	16-D25	28-D25	28-D25	30-D25			本数	直径	材質	L		
帯筋 X方向	3-D10@100	4-D10@100	2-D13@100	2-D13@100	1SC1	□-350x350x16/40	-	-	-	-	ベースバック	
帯筋 Y方向	3-D10@100	3-D10@100	4-D13@100	2-D13@100	1SC2	□-350x350x16/40	4	M27	SS400	600	○	
					1SC3	P-457x19	-	-	-	-	ベースバック	
					ベースプレート							備考
符 号	1 C 9	1 C 9 A	1 C 1 0	1 C 1 1	符号	Dx x Dy x t	材質	e1	p1	e2	p2	
1F					1SC1	35-16R	-	-	-	-	-	ベースバック
主筋	28-D25	28-D25	28-D25	28-D25	1SC2	600 x 600 x 60	SN490B	85	-	85	-	○
帯筋 X方向	2-D13@100	2-D13@100	2-D13@100	2-D13@100	1SC3	457-19F3	-	-	-	-	-	ベースバック
帯筋 Y方向	2-D13@100	2-D13@100	2-D13@100	2-D13@100								
					備考							

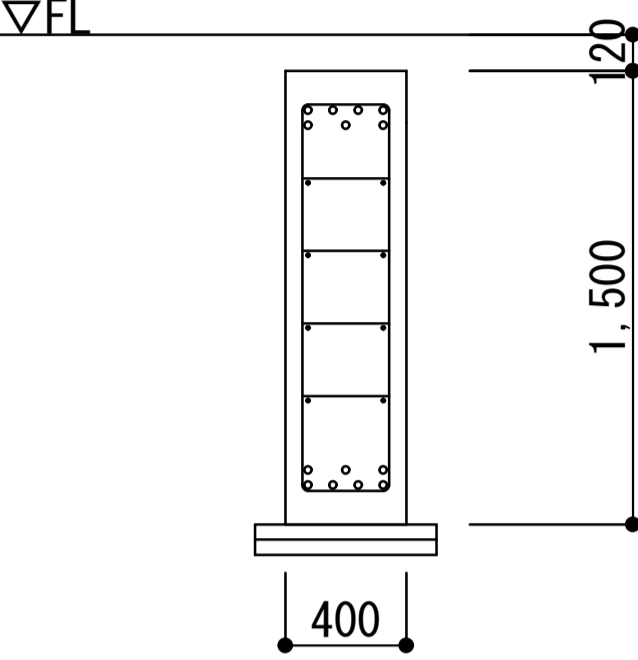
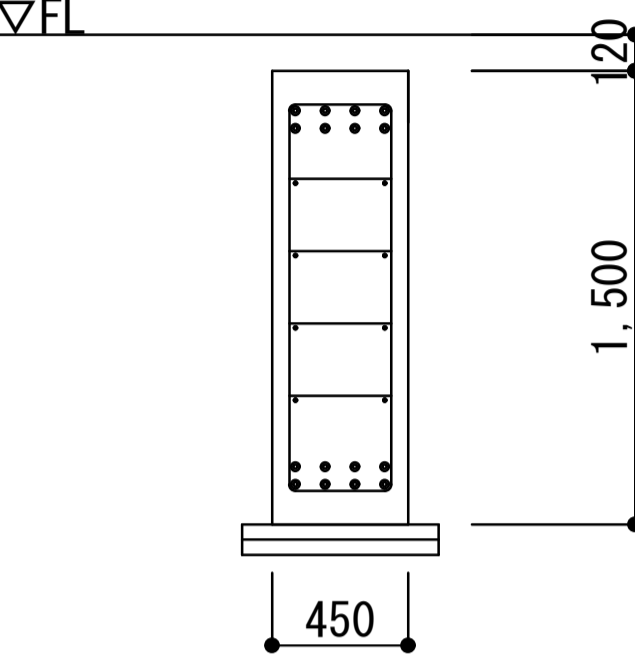
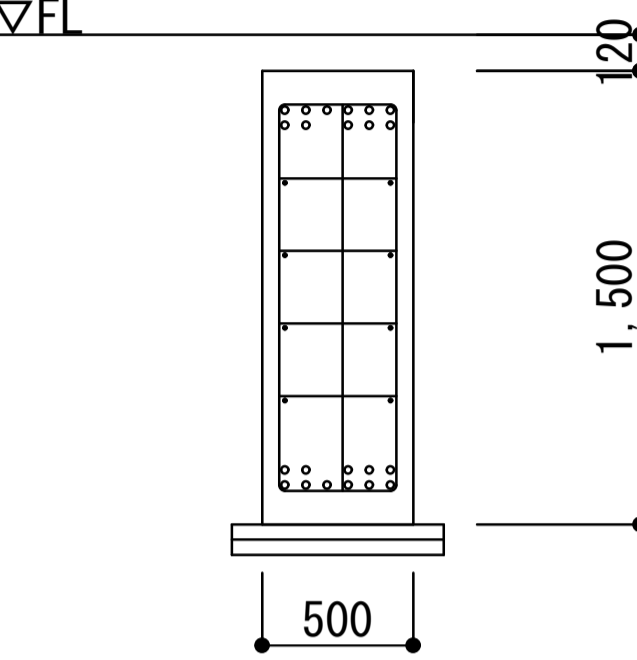
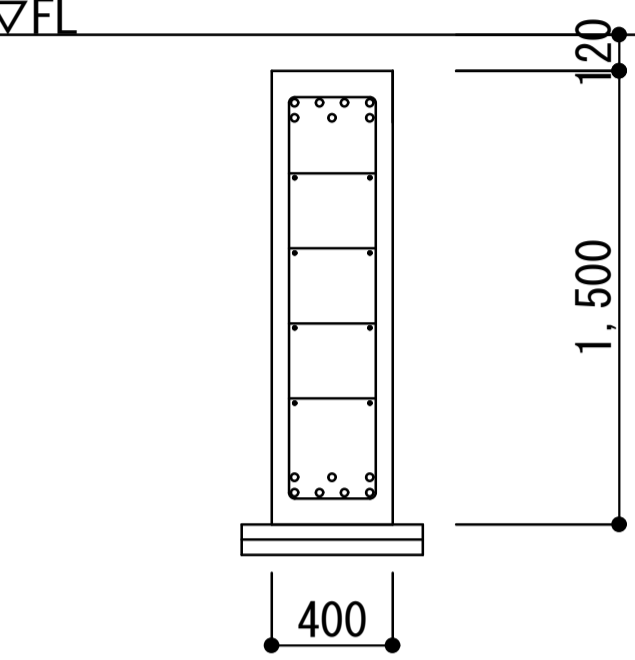
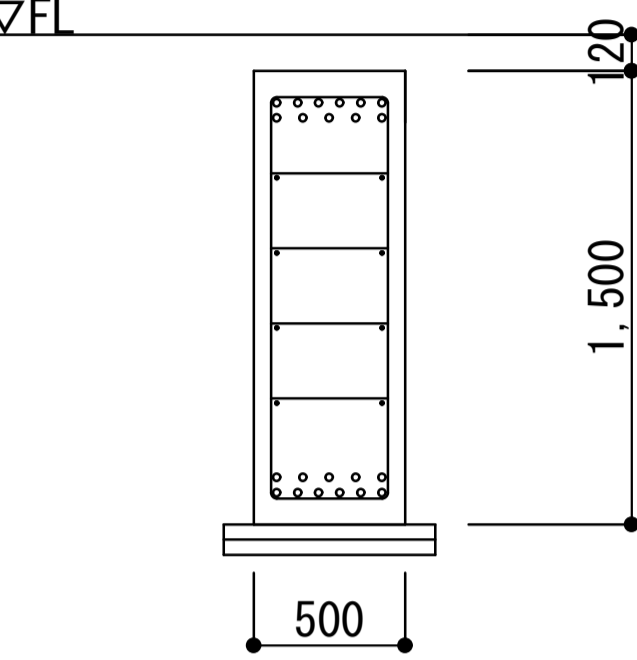
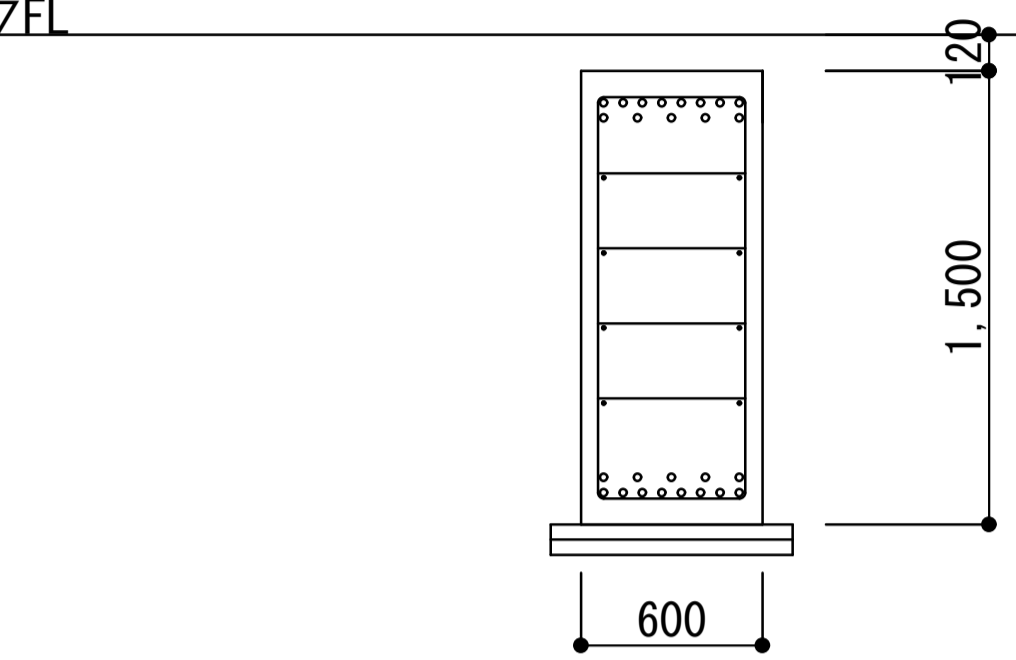
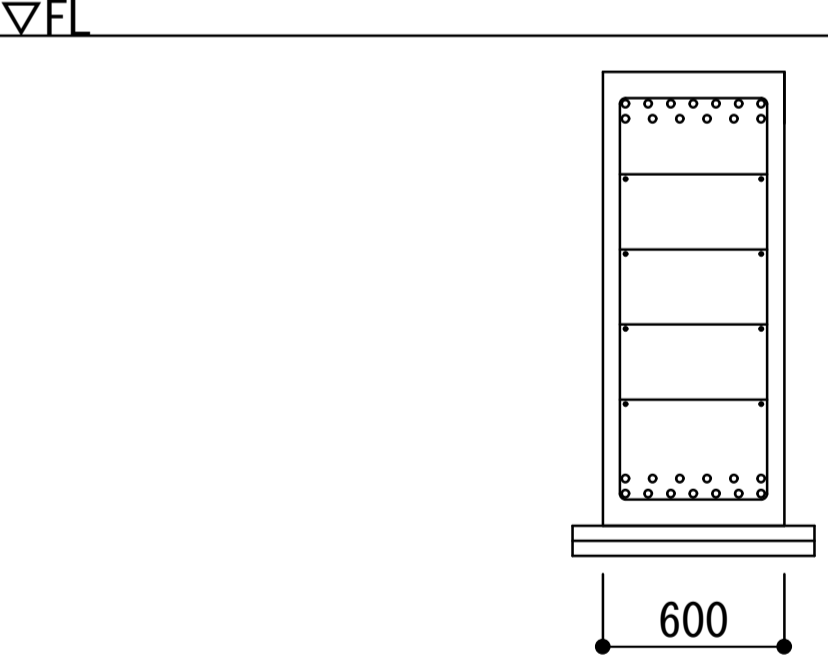
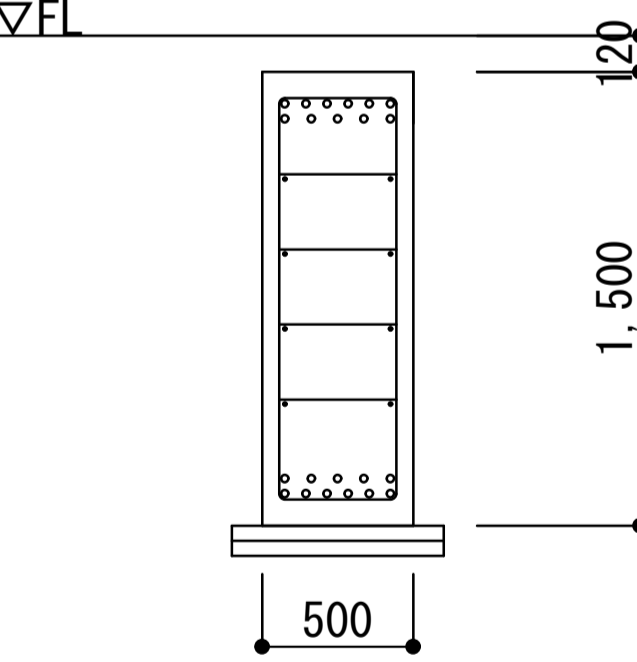
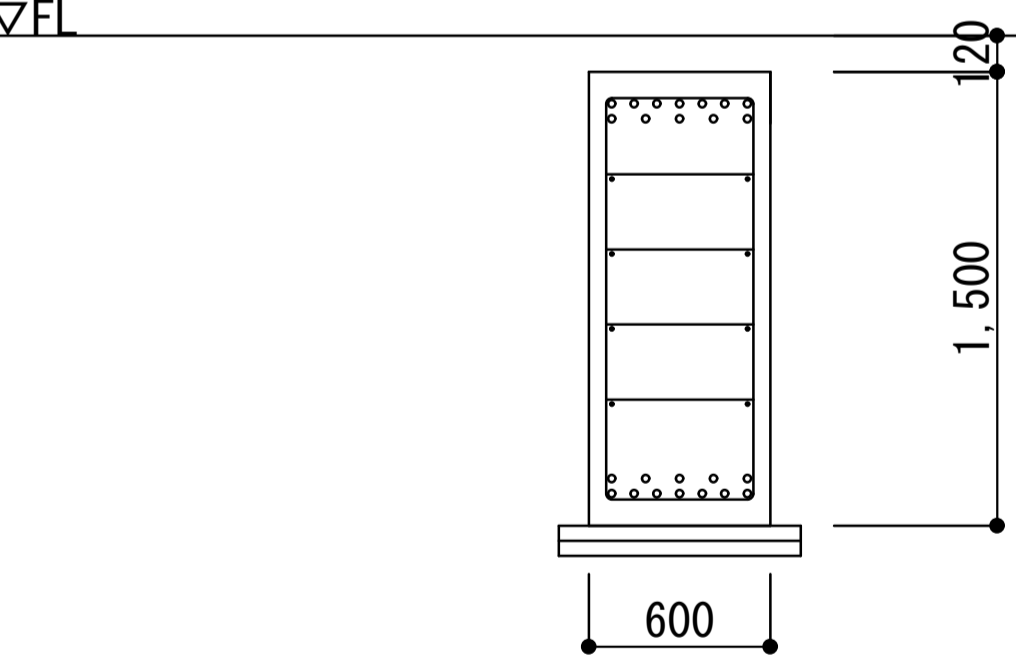
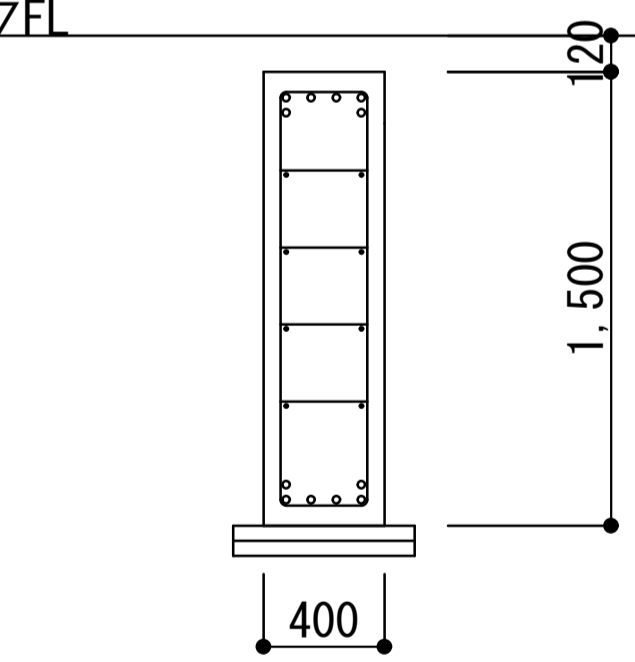
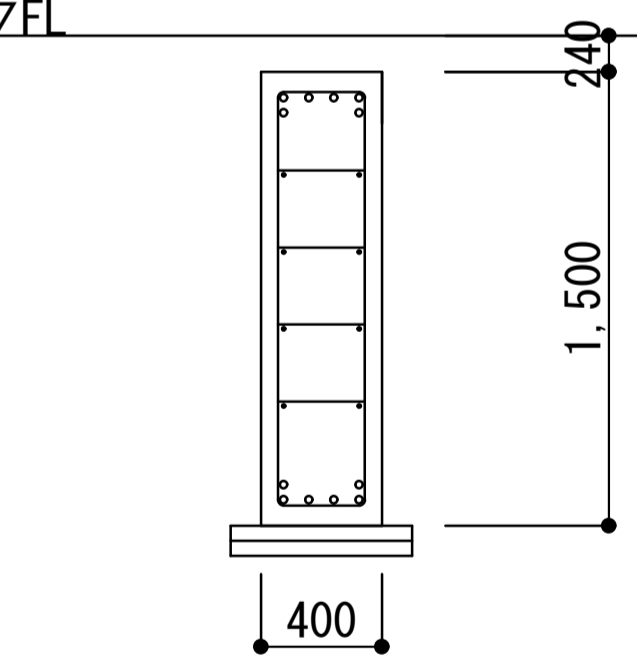


山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮 尺
			A1→1/25 A3→1/50 設計年月日 2023. 03. 31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備 (建築主体) 工事

図面名称 柱リスト (猛獣舎)

基礎梁 リスト-1							
符号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FG6	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断面							
	7 - D25	8 - D29	11 - D25	7 - D25	11 - D25	13 - D25	
	7 - D25	8 - D29	11 - D25	7 - D25	11 - D25	13 - D25	
	2-D13@200	2-D13@100	3-D13@100	2-D13@200	2-D13@100	2-D13@200	
	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	
符号	FG6A		FG7	FG8		FG9	FG10
位置	全断面		全断面	全断面		全断面	全断面
断面							
	13 - D25		11 - D25	12 - D25		6 - D25	6 - D25
	13 - D25		11 - D25	12 - D25		6 - D25	6 - D25
	2-D13@200		2-D13@200	2-D13@100		2-D13@200	2-D13@200
	8-D10		8-D10	8-D10		8-D10	8-D10

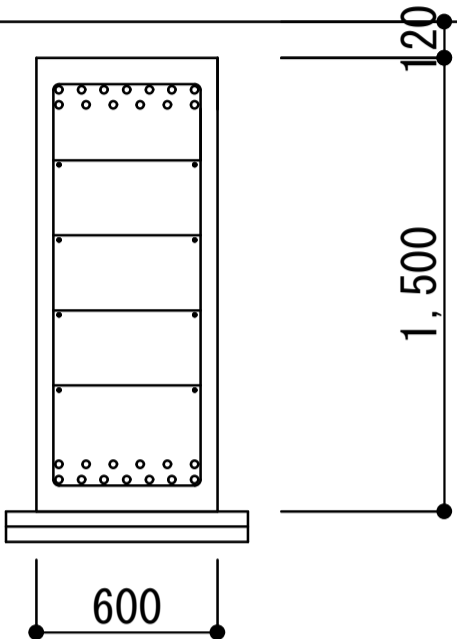
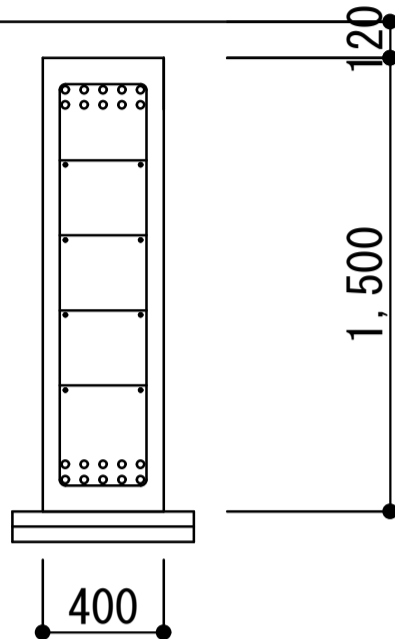
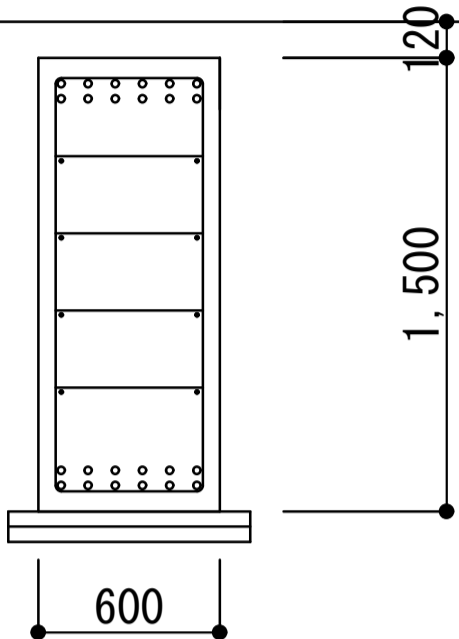
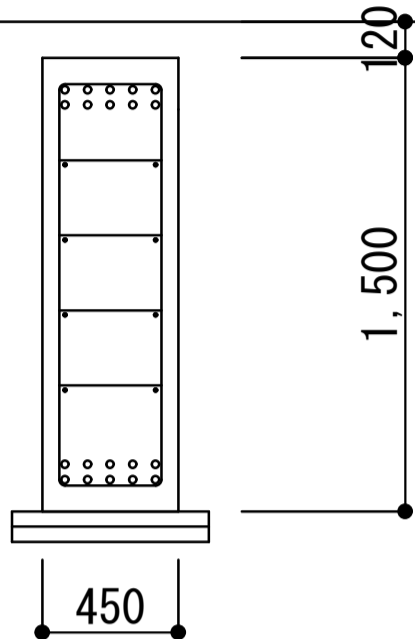
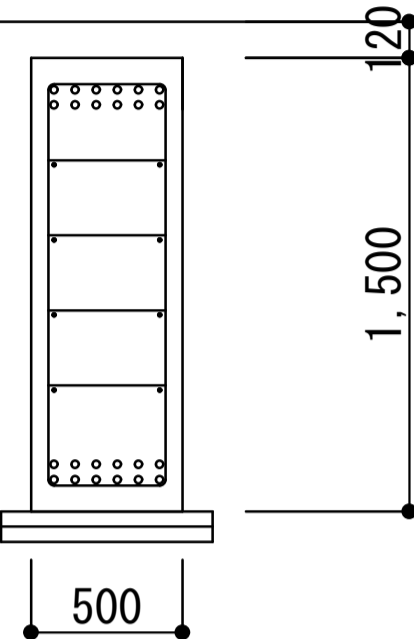
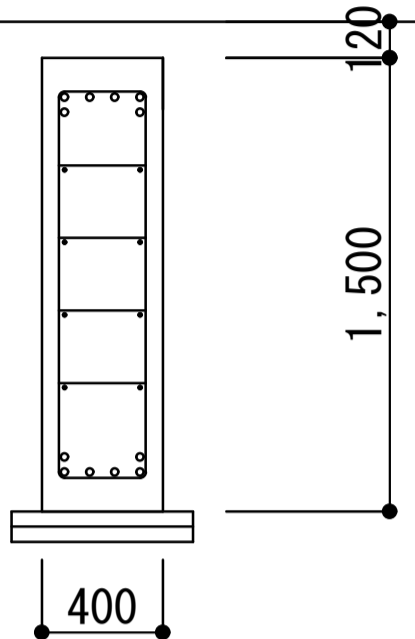
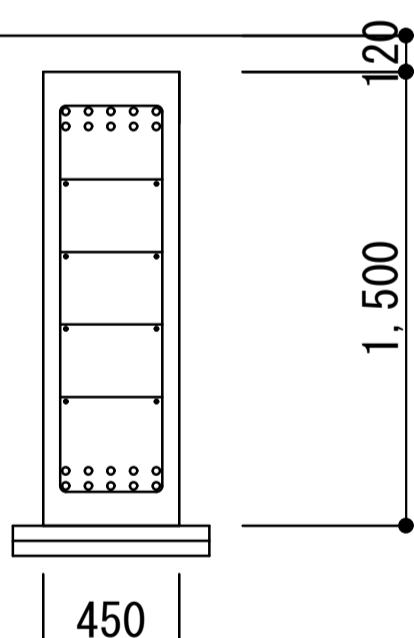
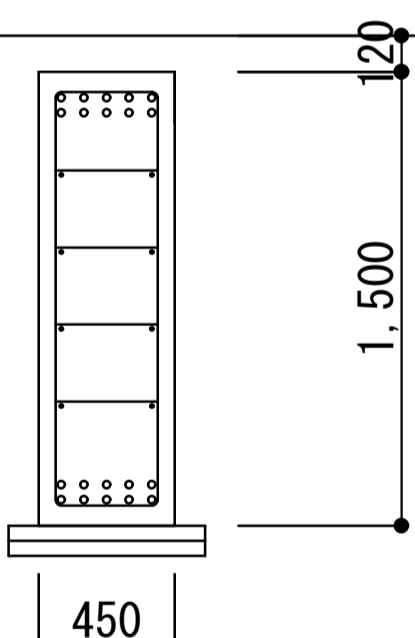
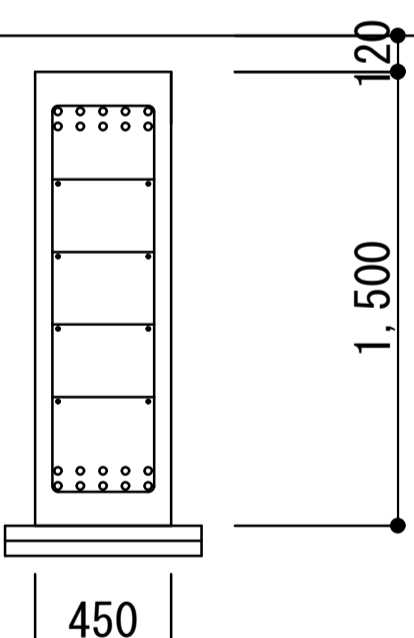
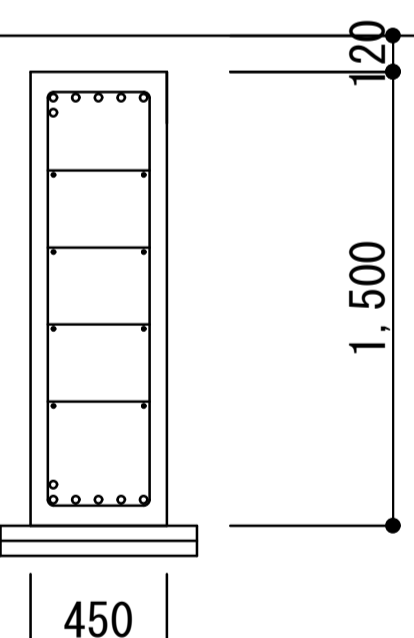
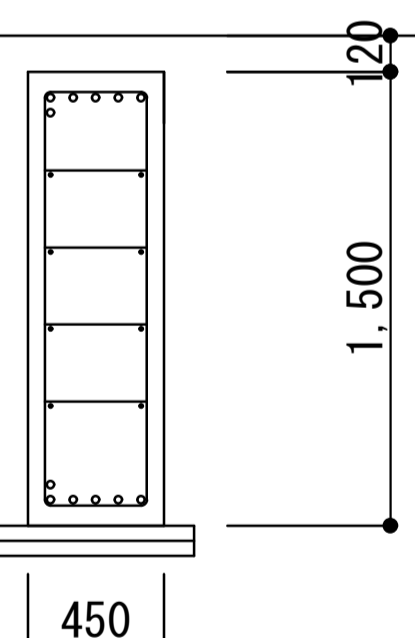
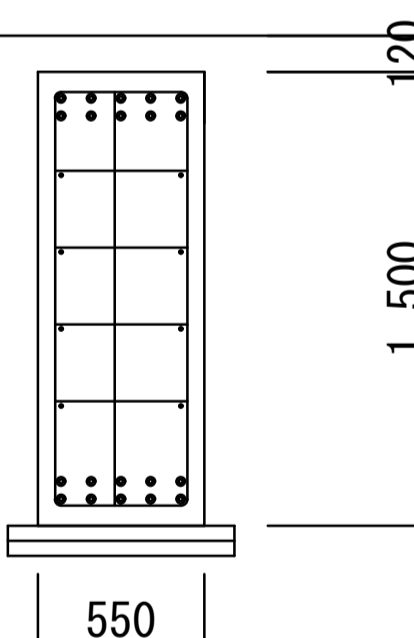
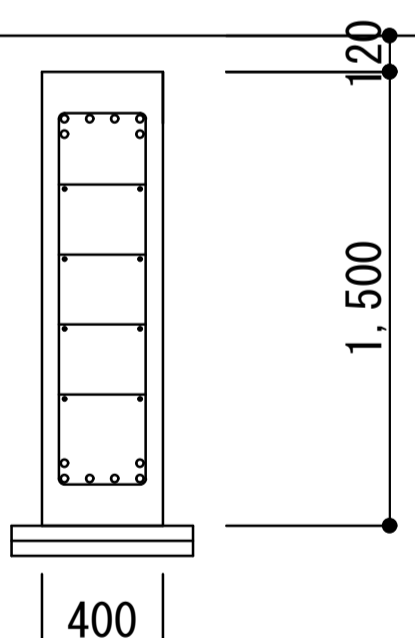


山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮 尺
			A1→1/25 A3→1/50 設計年月日 2023. 03. 31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事  
図面名称 基礎梁リスト1 (猛獣舎)

基礎梁 リスト-2

符号	FG11		FG12	FG12A		FG13	FG14	FG15
位置	全断面		全断面	全断面		全断面	全断面	全断面
断面								
	13 - D25		10 - D25	12 - D25		10 - D25	12 - D25	6 - D25
	13 - D25		10 - D25	12 - D25		10 - D25	12 - D25	6 - D25
	2-D13@100		2-D13@100	2-D13@125		2-D13@150	2-D13@100	2-D13@200
	8-D10		8-D10	8-D10		8-D10	8-D10	8-D10
符号	FG16	FG16A	FG17	FG19A	FG19B	FG19X		FG21
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面
断面								
	10 - D25	10 - D25	10 - D25	6 - D25	6 - D25	10 - D29		6 - D25
	10 - D25	10 - D25	10 - D25	6 - D25	6 - D25	10 - D29		6 - D25
	2-D13@100	2-D13@150	2-D13@100	2-D13@200	2-D13@200	3-D13@75		2-D13@200
	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10		8-D10



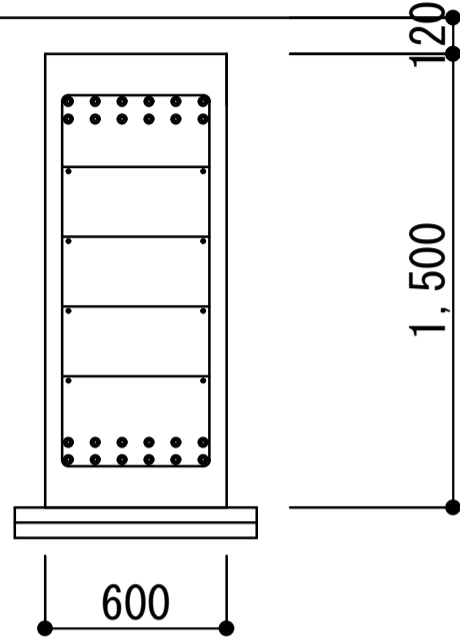
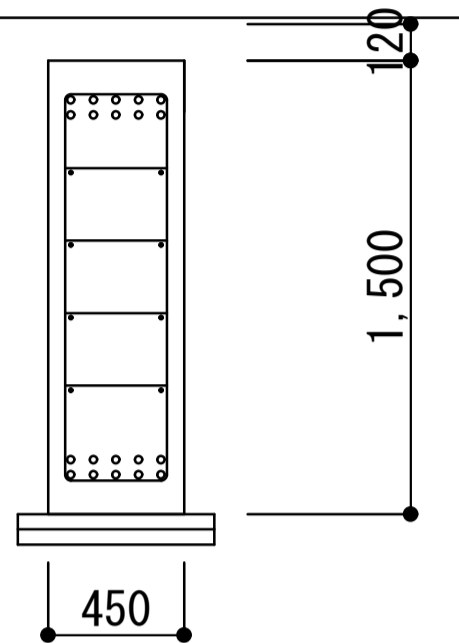
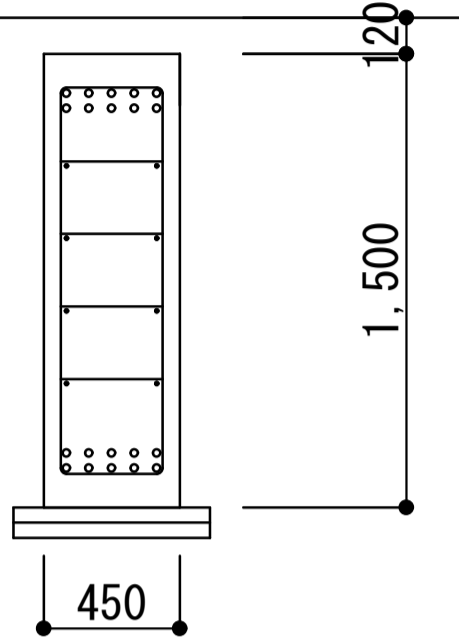
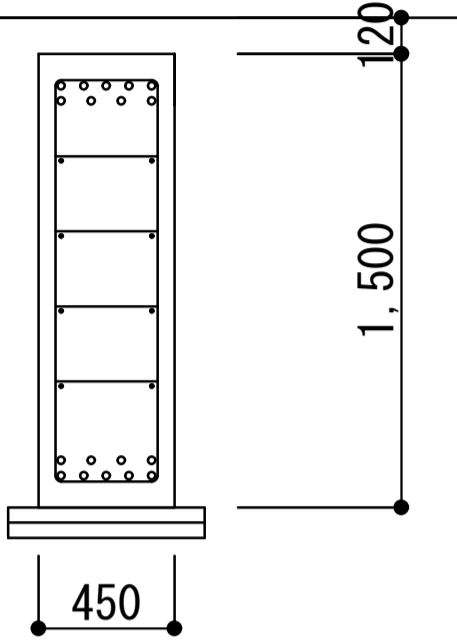
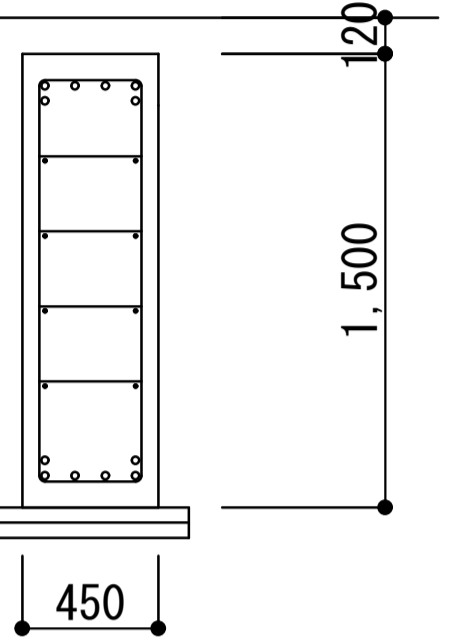
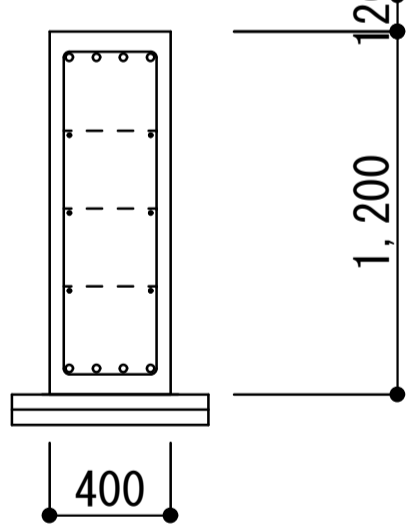
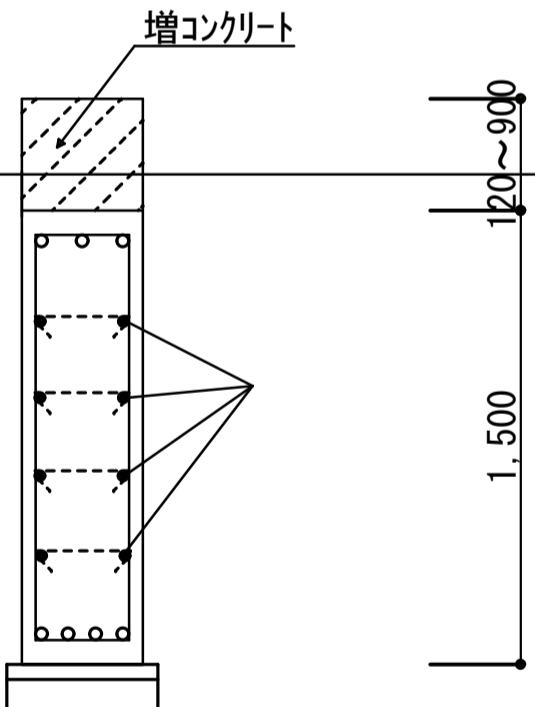
山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当

縮 尺
A1→1/25 A3→1/50
設計年月日
2023. 03. 31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事  
図面名称 基礎梁リスト2 (猛獣舎)

基礎梁 リスト-3

符号	FG22	SFG1	SFG2	SFG3	SFG4
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面					
	上端主筋	12 - D29	10 - D25	10 - D25	9 - D25
	下端主筋	12 - D29	10 - D25	10 - D25	9 - D25
	肋筋	2-D13@100	2-D13@100	2-D13@200	2-D13@200
	腹筋	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10
符号	FCG1	梁上増しコンクリート			
位置	全断面				
断面					
	上端主筋	4 - D25			
	下端主筋	4 - D25			
	肋筋	2-D13@200			
	腹筋	6-D10			



山梨建築設計監理事業協同組合

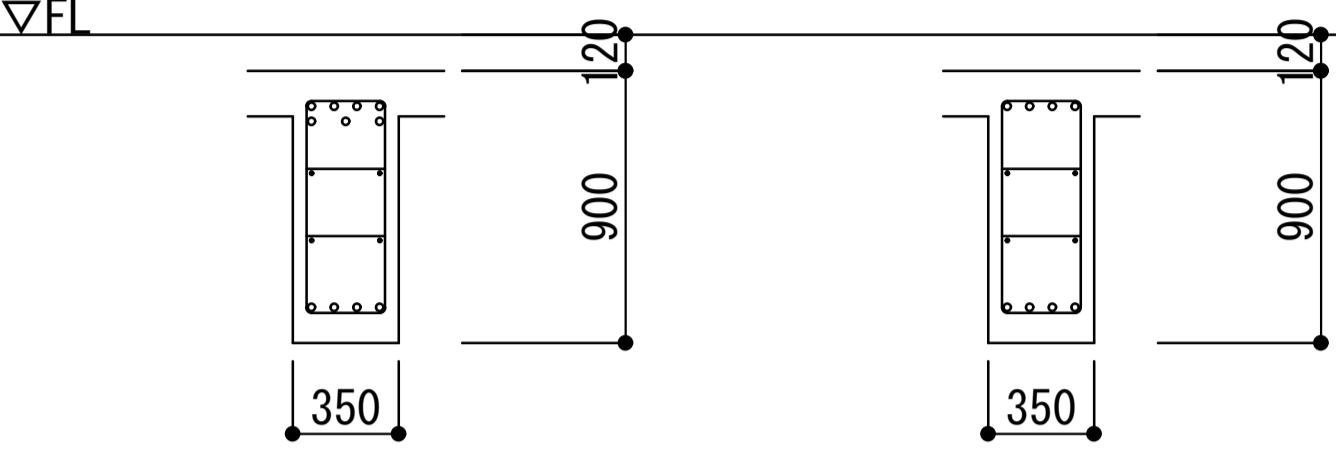
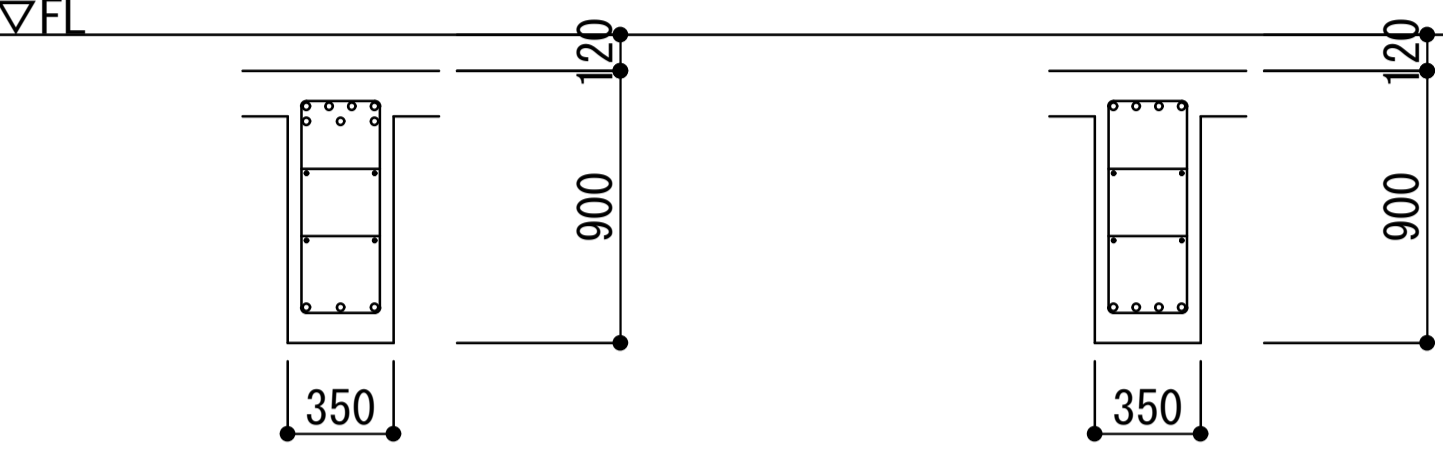
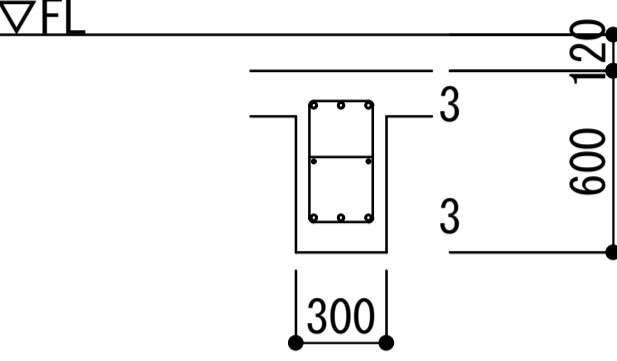
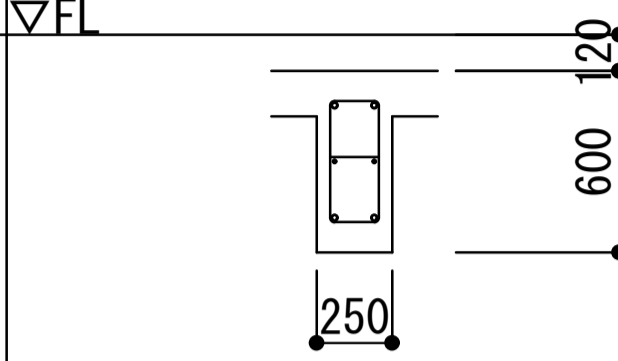
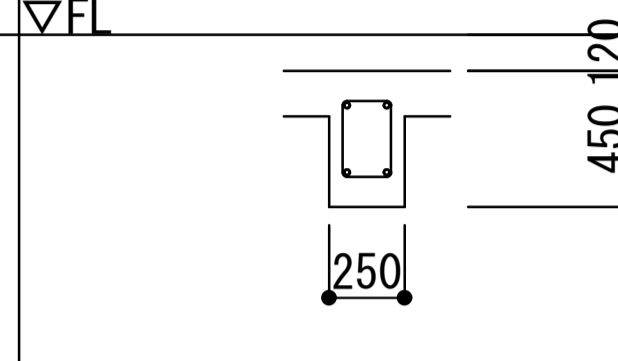
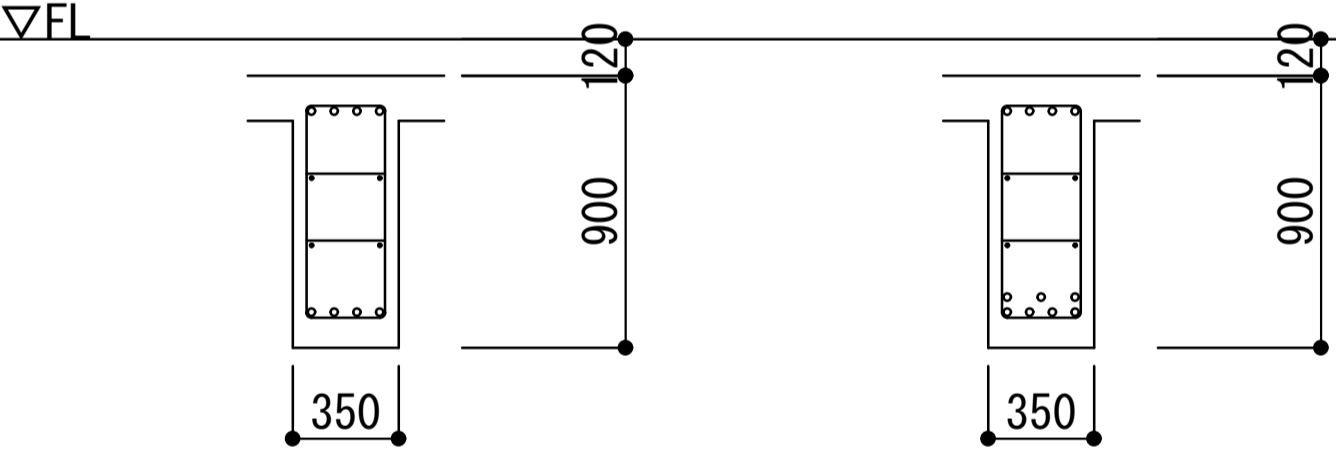
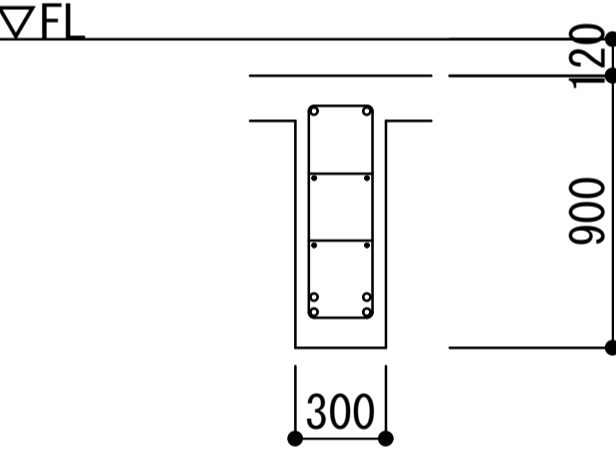
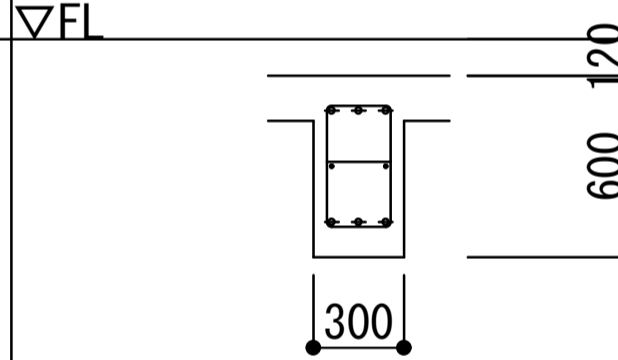
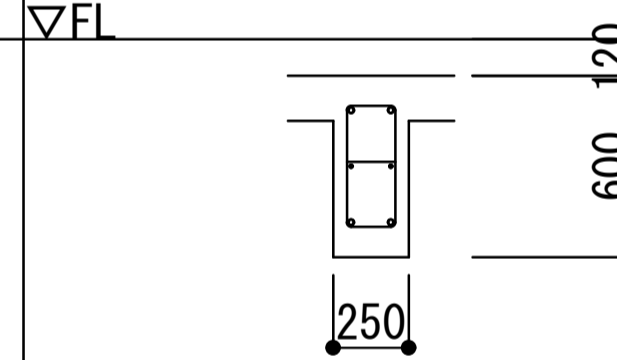
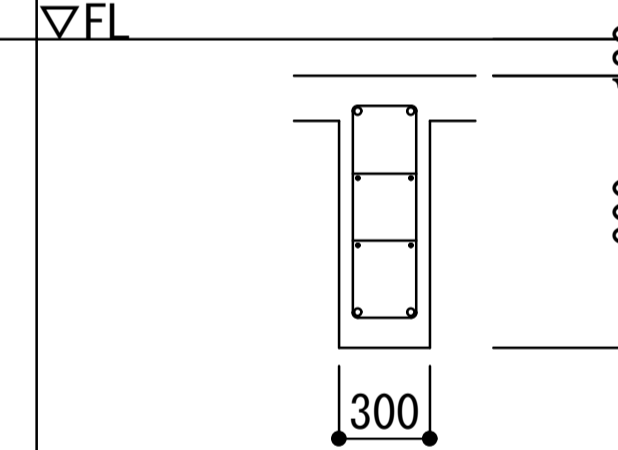
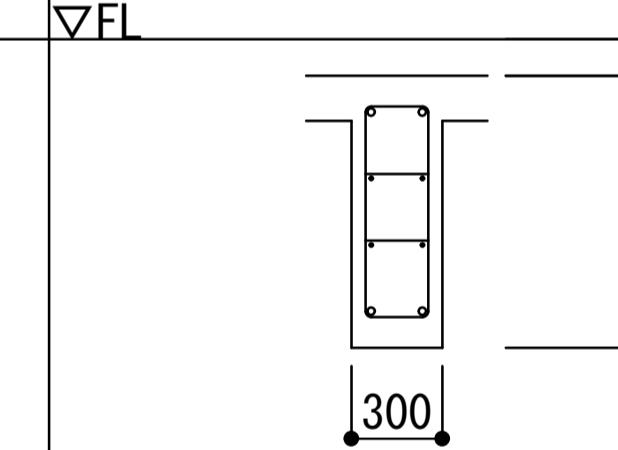
承認	設計	担当

縮 尺
A1→1/25 A3→1/50
設計年月日
2023. 03. 31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事

図面名称 基礎梁 リスト-3 (猛獣舎)

基礎小梁リスト（1）

符号	FB1		FB2		FB3	FB4	FB5
位置	両端	中央	両端	中央	全断面	全断面	全断面
断面							
上端主筋	7 - D25	4 - D25	7 - D25	4 - D25	3 - D19	2 - D19	2 - D19
下端主筋	4 - D25	4 - D25	3 - D25	4 - D25	3 - D19	2 - D19	2 - D19
肋筋	2-D10@150	2-D10@150	2-D10@150	2-D10@150	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200
腹筋	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	2-D10	2-D10	-
符号	FB11		FB12	FB13	FB14	FB15	FB16
位置	両端	中央	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面							
上端主筋	4 - D25	4 - D25	2 - D25	3 - D22	2 - D19	2 - D25	2 - D25
下端主筋	4 - D25	7 - D25	4 - D25	3 - D22	2 - D19	2 - D25	2 - D25
肋筋	2-D10@150	2-D10@150	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	2-D13@200
腹筋	4-D10	4-D10	4-D10	2-D10	2-D10	4-D10	4-D10

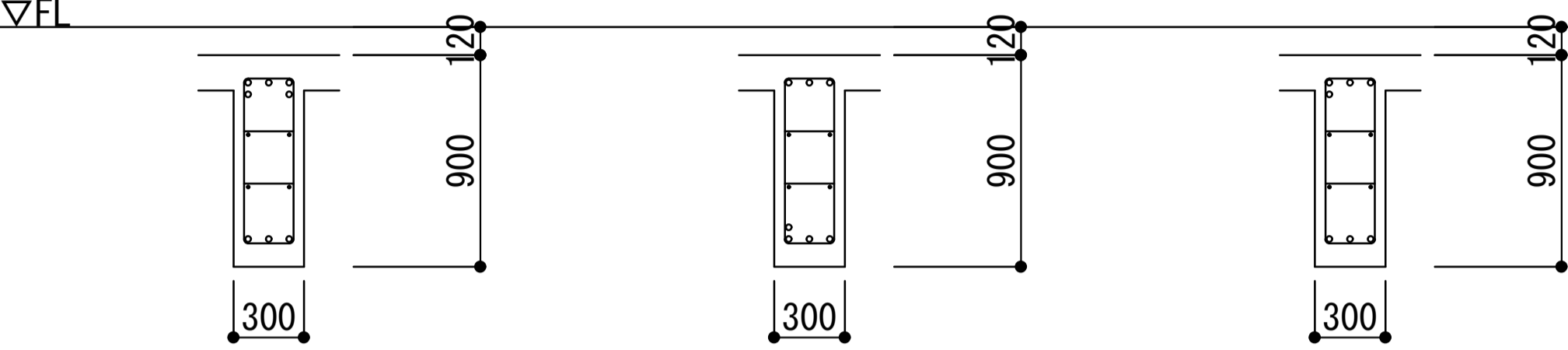
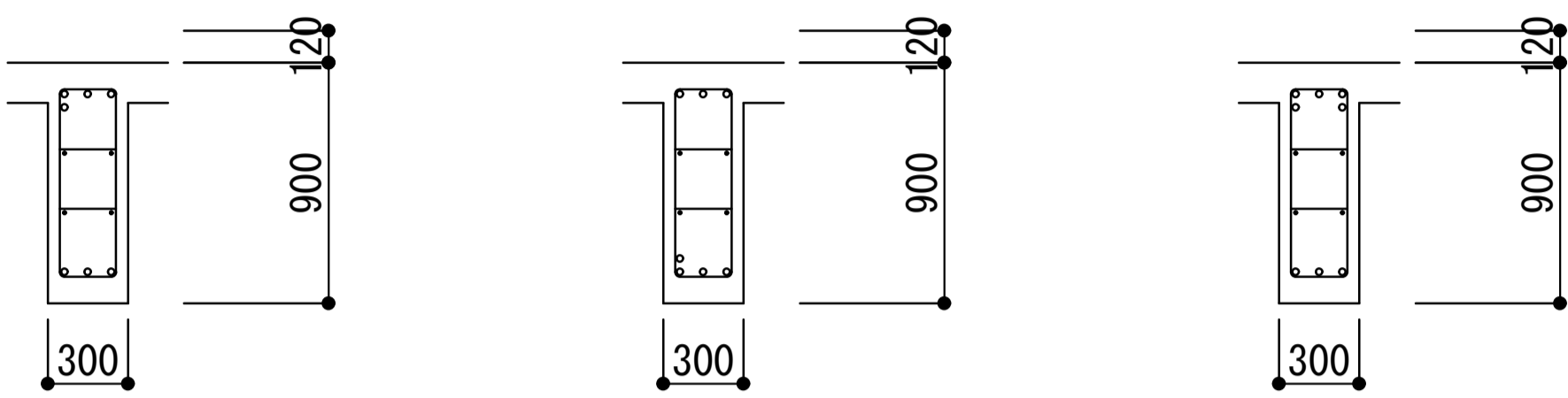
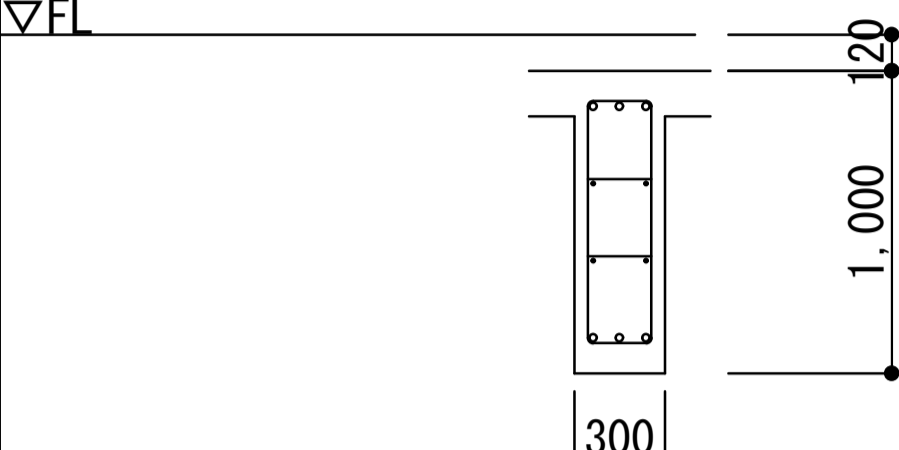


山梨建築設計監理事業協同組合

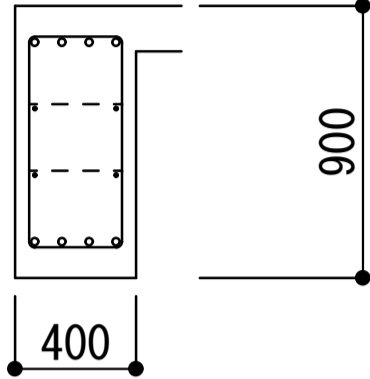
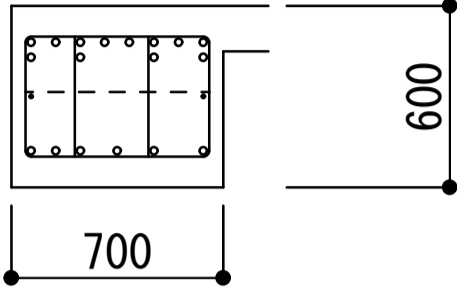
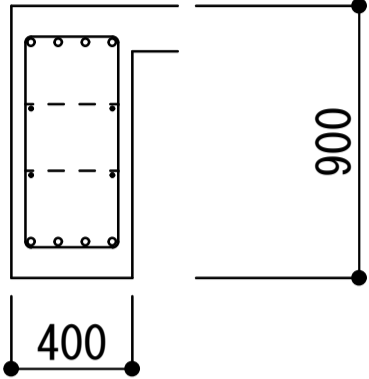
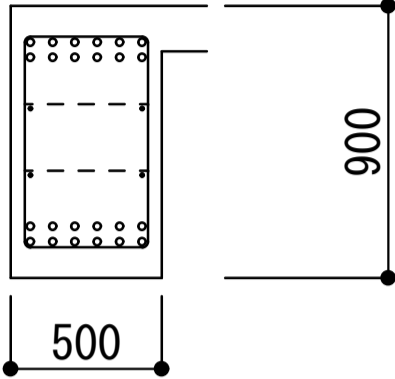
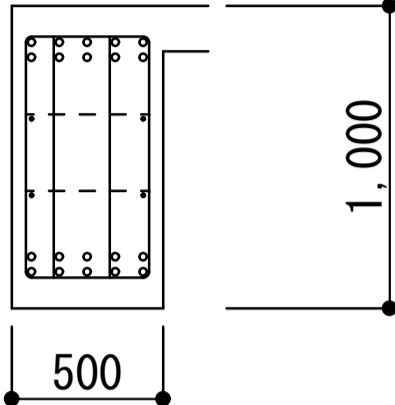
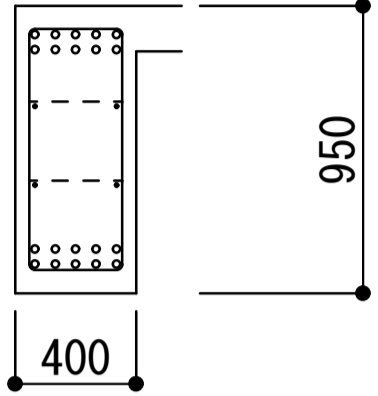
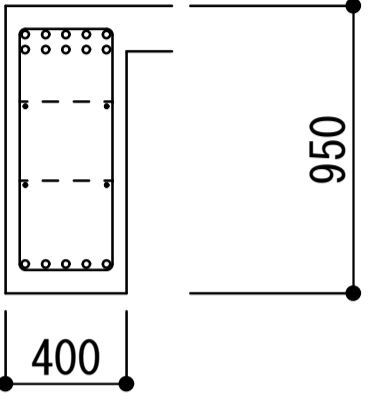
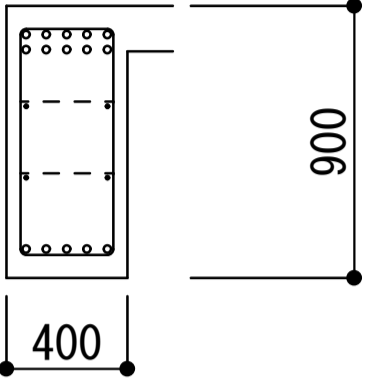
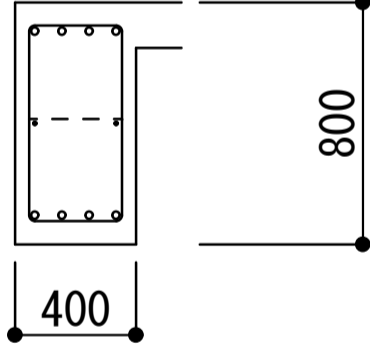
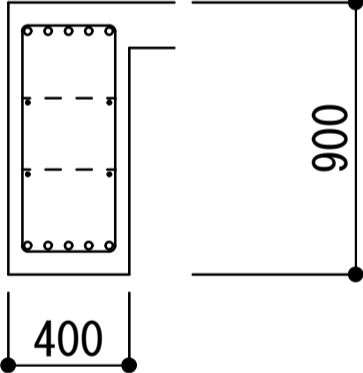
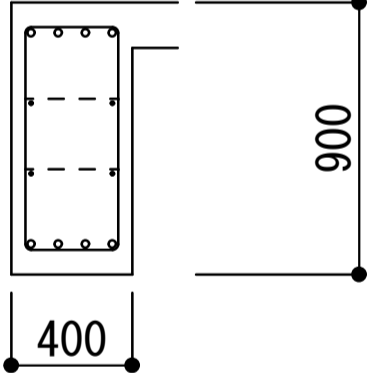
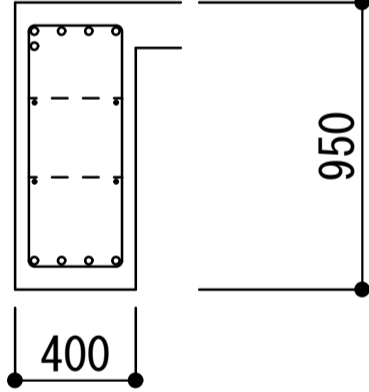
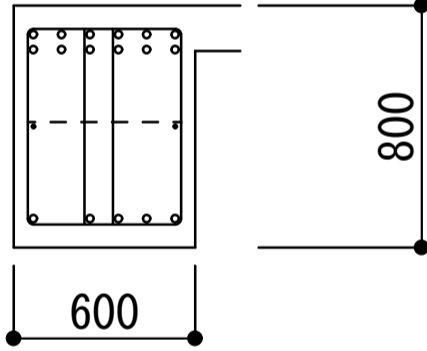
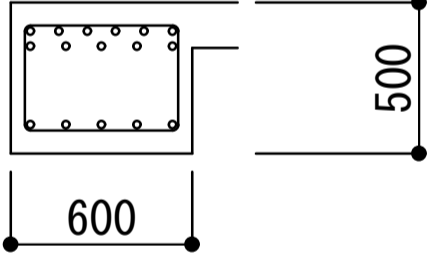
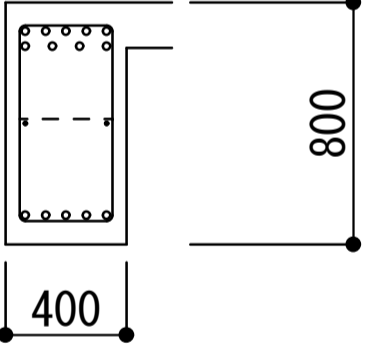
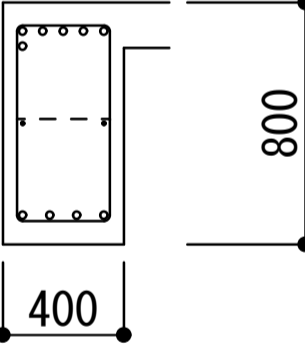
承認	設計	担当

縮 尺
A1→1/25 A3→1/50
設計年月日
2023. 03. 31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事  
図面名称 基礎小梁リスト 1 (猛獣舎)

基礎小梁リスト (2)							腹筋用中止筋は各段 1 m以内に 1ヶ所とする		
符号	SFB1			SFB2			SFB3		
位置	左端	中央	右端	左端	中央	右端	全断面		
断面									
	上端主筋			上端主筋			上端主筋		
	5 - D25			4 - D25			3 - D25		
	下端主筋			下端主筋			下端主筋		
	3 - D25			3 - D25			3 - D25		
肋筋		2-D10@200		2-D10@200		2-D10@200		2-D10@200	
腹筋		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10	

大梁リスト（１）

符号	RG1	RG16A	RG19X	G2	G3	G4	G5	G6
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
RF								
	上端主筋	4 - D25	12 - D25	4 - D25	12 - D25	10 - D25	10 - D25	10 - D25
	下端主筋	4 - D25	6 - D25	4 - D25	12 - D25	10 - D25	10 - D25	5 - D25
	肋筋	2-D13@200	4-D13@75	2-D13@200	2-D13@100	4-D13@90	2-D13@200	2-D13@100
	腹筋	4-D10	2-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10
符号	G7	G8	G9	G11	G12	G12A	G13	G14
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
RF								
	上端主筋	4 - D25	5 - D25	4 - D25	5 - D25	12 - D25	11 - D25	9 - D25
	下端主筋	4 - D25	5 - D25	4 - D25	4 - D25	5 - D25	5 - D25	4 - D25
	肋筋	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	4-D13@200	2-D13@200	2-D13@200
	腹筋	2-D10	4-D10	4-D10	4-D10	2-D10	-	2-D10



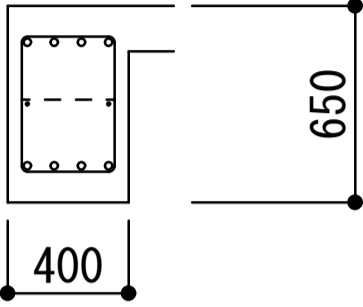
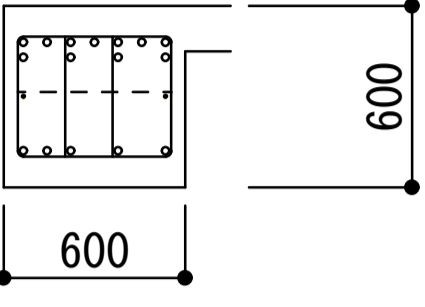
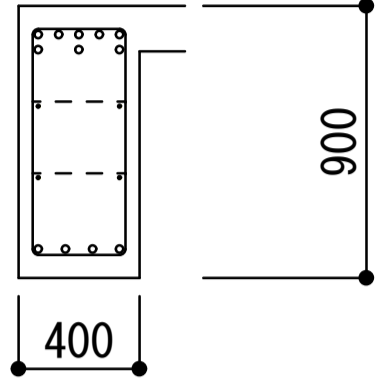
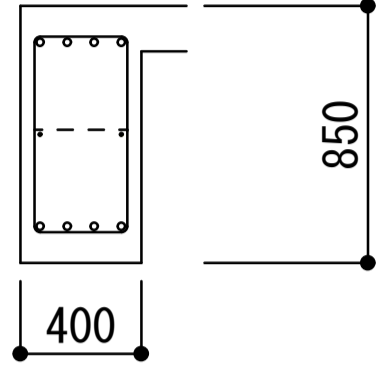
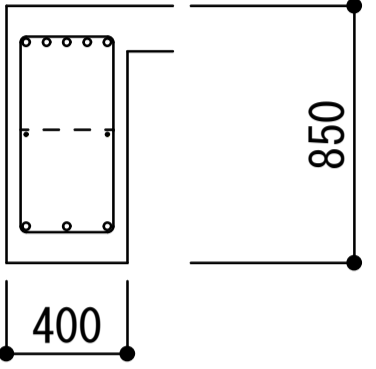
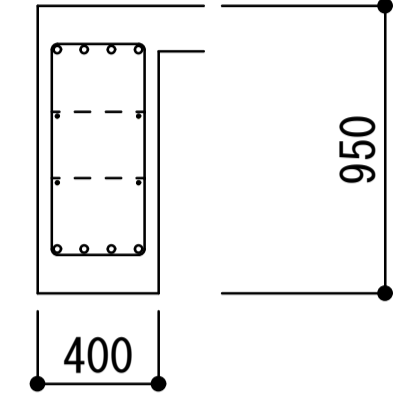
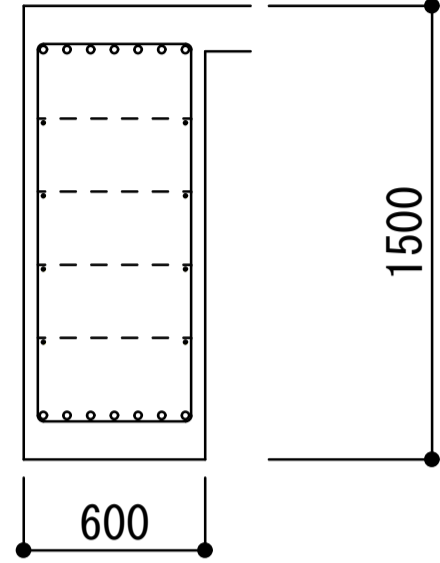
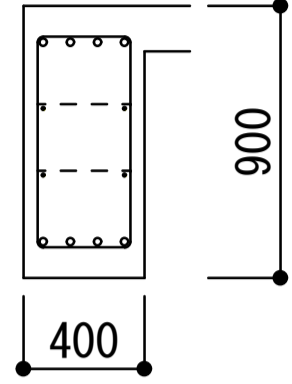
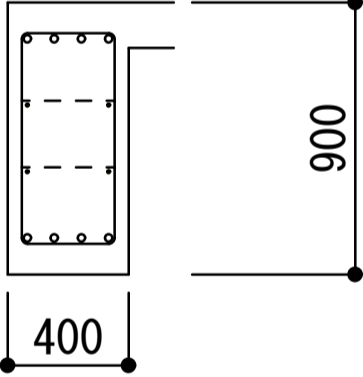
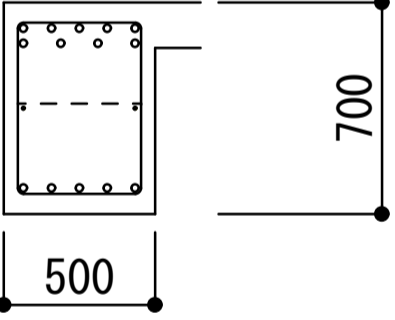
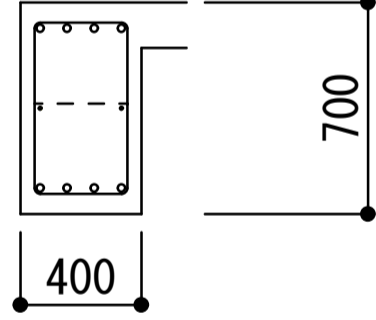
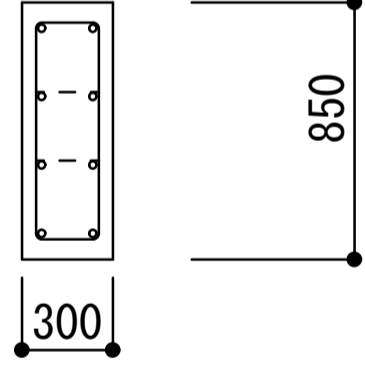
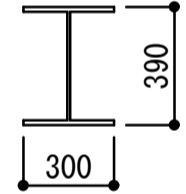
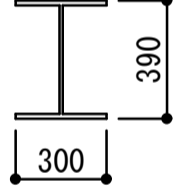
山梨建築設計監理事業協同組合

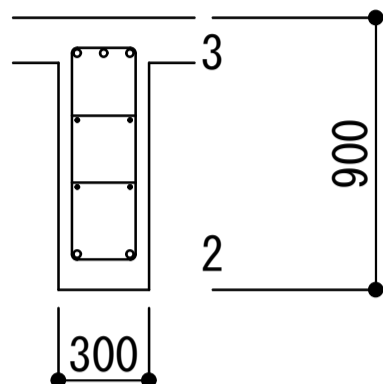
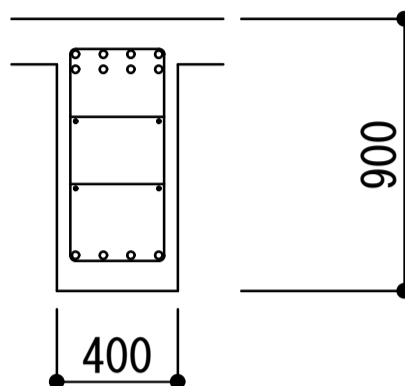
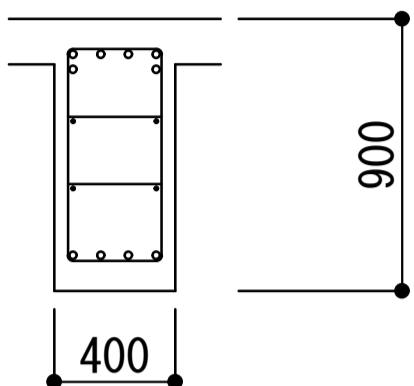
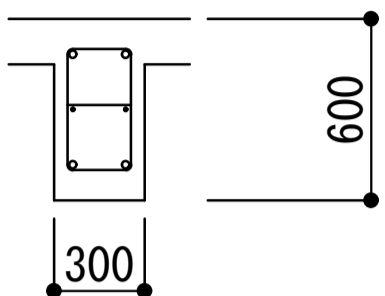
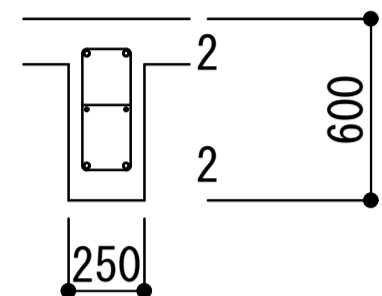
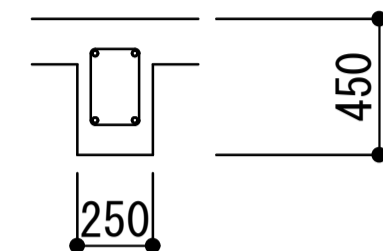
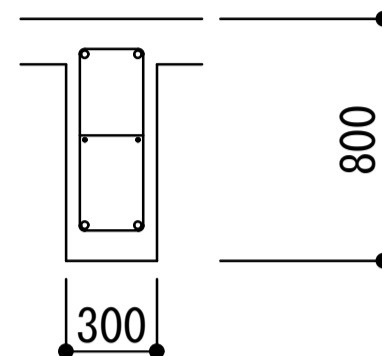
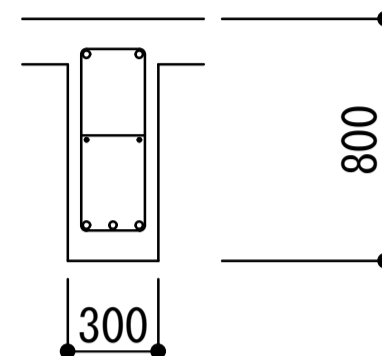
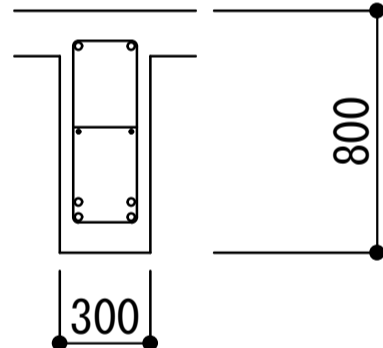
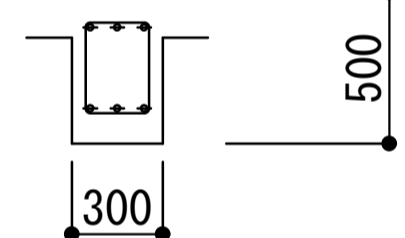
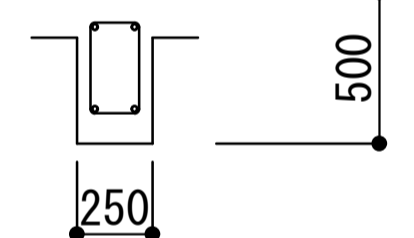
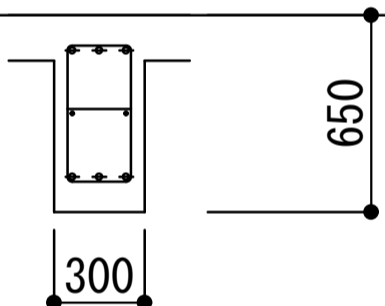
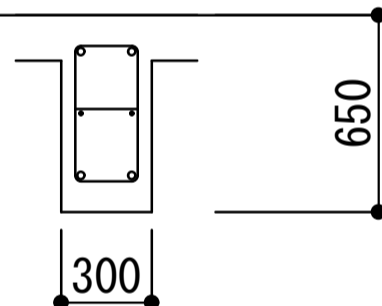
承認	設計	担当

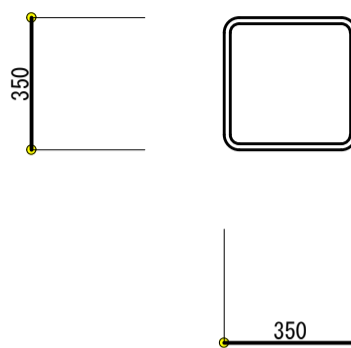
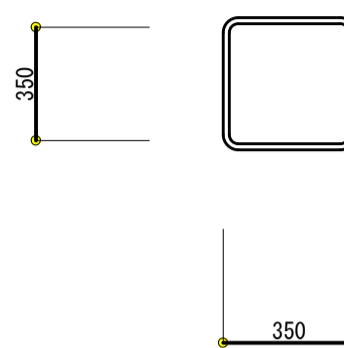
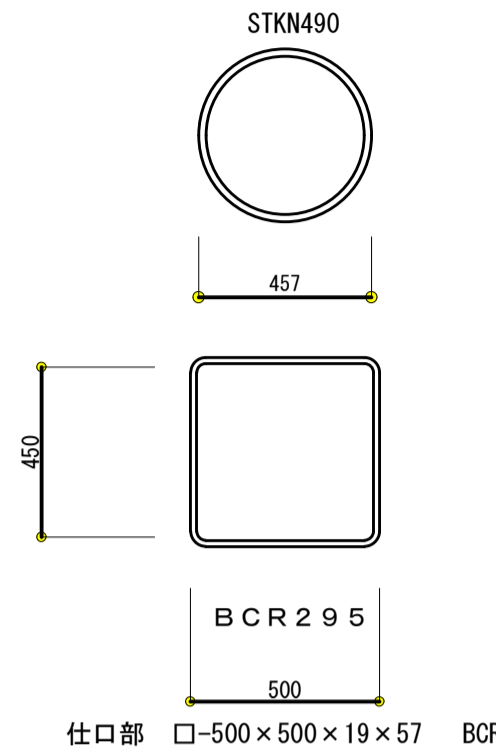
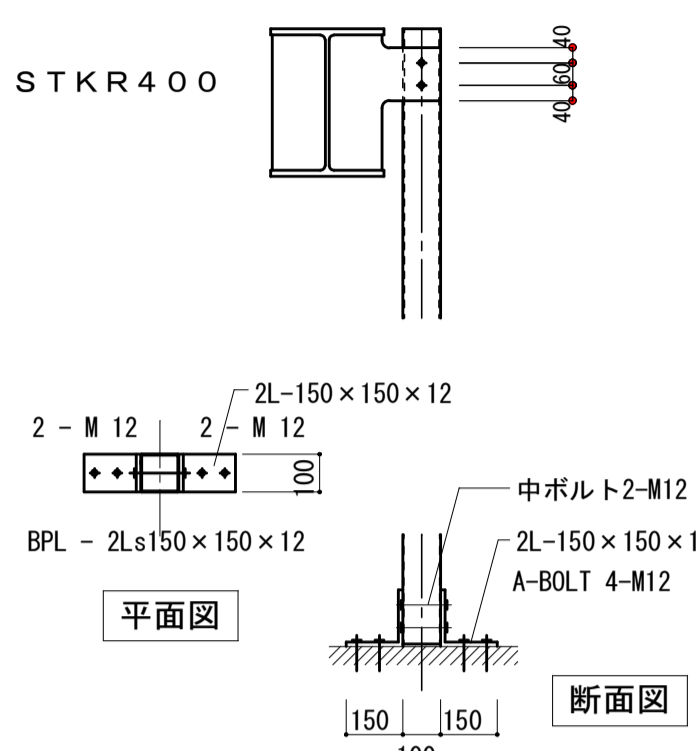
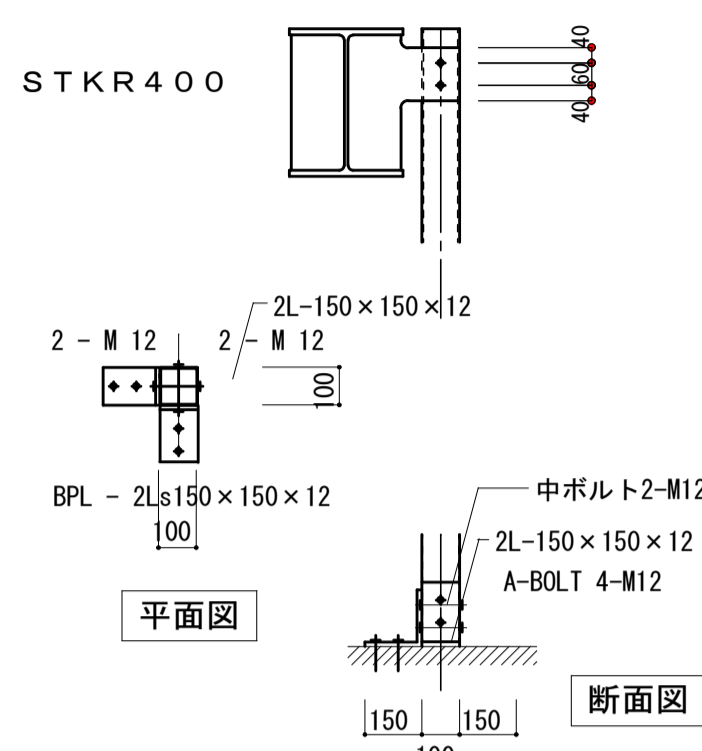
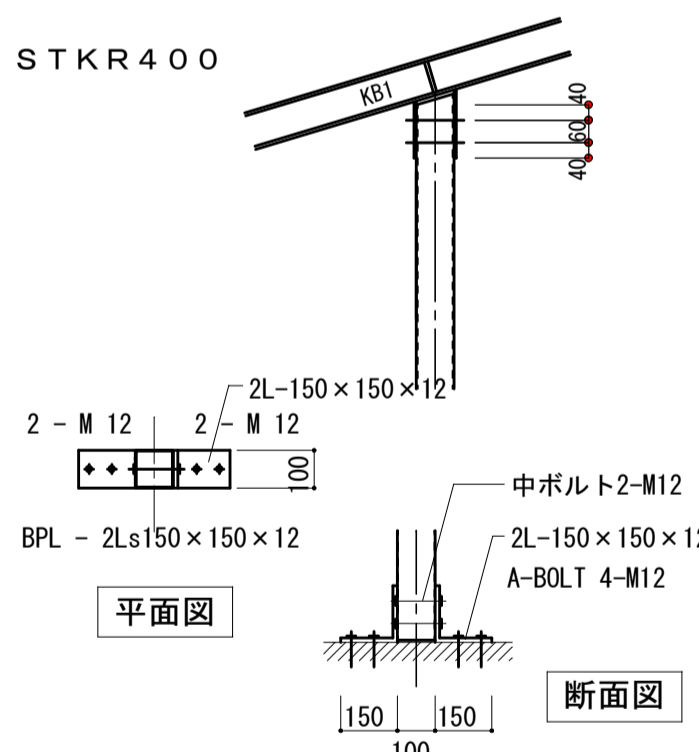
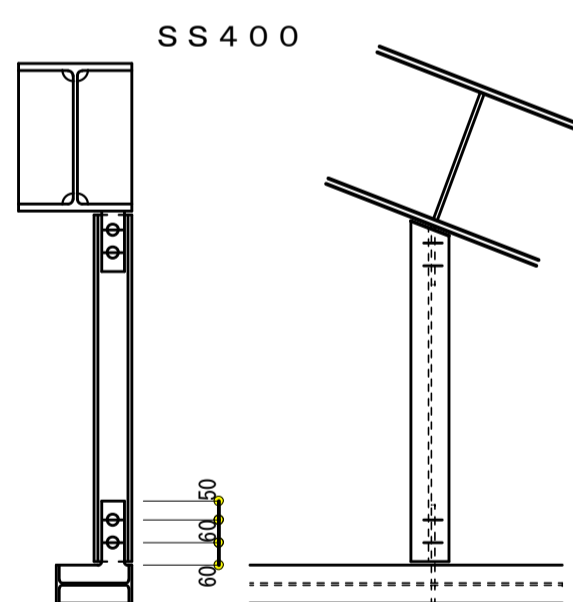
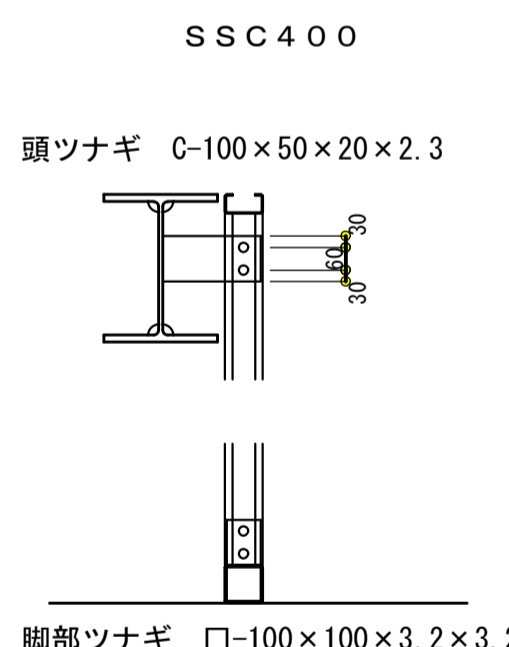
縮 尺
A1→1/25 A3→1/50
設計年月日
2023. 03. 31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事

図面名称 梁リスト 1 (猛獣舎)

大梁リスト（2）								
腹筋用巾止筋は各段 1 m以内に 1ヶ所とする								
符号	G15	G16	G16A	G17	G18	G21	G22	19A
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
RF								
	上端主筋	4 - D25	11 - D25	8 - D25	4 - D25	5 - D25	4 - D25	7 - D25
	下端主筋	4 - D25	5 - D25	4 - D25	4 - D25	3 - D25	4 - D25	7 - D25
	肋筋	2-D13@200	4-D13@100	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200
	腹筋	2-D10	2-D10	4-D10	2-D10	2-D10	4-D10	8-D10
符号	G19B	RCG1	CG2	CG3	鉄骨大梁 リスト			
位置	全断面	全断面	全断面	全断面		SG1	SG2	
RF								
	上端主筋	4 - D25	9 - D25	4 - D25		部材	H-390x300x10x16	H-390x300x10x16
	下端主筋	4 - D25	5 - D25	4 - D25		材質	SN400B	SN490B
	肋筋	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200				
	腹筋	4-D10	2-D10	2-D10	※ 4-D25			

小梁リスト（１）								腹筋用巾止筋は各段 1 m以内に 1ヶ所とする	
符号	RB1	RB2	RB2A	RB3	RB4	RB5	RB11		
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	両端	中央	
断面									
上端主筋	3 - D25	8 - D25	6 - D25	2 - D25	2 - D19	2 - D19	2 - D25	2 - D25	
下端主筋	2 - D25	4 - D25	4 - D25	2 - D25	2 - D19	2 - D19	2 - D25	3 - D25	
肋筋	2-D10@200	2-D10@150	2-D10@150	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	
腹筋	4-D10	4-D10	4-D10	2-D10	2-D10	-	2-D10	2-D10	
符号	RB12	RB13	RB14	RB15	RB16				
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	鉄骨小梁 他 リスト			
断面						027鉄骨リスト参照			
上端主筋	2 - D25	3 - D22	2 - D19	3 - D22	2 - D25				
下端主筋	4 - D25	3 - D22	2 - D19	3 - D22	2 - D25				
肋筋	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	2-D10@200	2-D13@200				
腹筋	2-D10	-	-	2-D10	2-D10				

鉄骨柱リスト 1 / 20 , 1 / 40																	
部材		BASE	1 C 1	□-350×350×16×16	1	1 C 2	□-350×350×16×16	2	1 C 3	P-457x19	3	P 1	□-100×100×4.5	4	P 2	□-100×100×2.3	5
			 BCR 295			 BCR 295			 仕口部 □-500×500×19×57 BCR			 平面図 断面図			 平面図 断面図		
柱 頭	ガセットPL	Fabluxe (ファブラックス) DS柱はり接合 DS35仕様 ファブラックス標準図参照			Fabluxe (ファブラックス) DS柱はり接合 DS35仕様 ファブラックス標準図参照			Fabluxe (ファブラックス) DS柱はり接合 DS50仕様 ファブラックス標準図参照				ガセットPL 2-6.0			ガセットPL 2-6.0		
	ボルト											ボルト 4TB 2-M16			ボルト 4TB 2-M16		
	スチフナPL											スチフナPL - 9.0			スチフナPL - 6.0		
柱 脚	ベースPL	柱脚ベースバック 35-16R仕様 ベースバック標準図参照					柱脚ベースバック P-457x19仕様 ベースバック標準図参照					BPL - 2Ls150×150×12			BPL - 2Ls150×150×12		
	ボルト											ANCHOR B 4-M12			ANCHOR B 4-M12		
柱 脚	ガセットPL																
	アンカーボルト																
	スチフナPL																
部材		BASE	K P 1	□-100×100×4.5	5	吊束	H-100×100×6×8	6	胴 縁	一般部 C-100×50×20×2.3 継手部 2C-100×50×20×2.3	7						
			 平面図 断面図						 頭ツナギ C-100×50×20×2.3 脚部ツナギ □-100×100×3.2×3.2								
柱 頭	ガセットPL	ガセットPL 2-6.0			9.0			6.0									
	ボルト	ボルト 4TB 2-M16			H.T.B 2-M16			4.T.B 2-M12									
	スチフナPL	スチフナPL - 6.0			9.0			9.0									
柱 脚	ガセットPL	BPL - 2Ls150×150×12			9.0			6.0									
	アンカーボルト	ANCHOR B 4-M12			H.T.B 2-M16			4.T.B 2-M12(脚部ツナギ)									
	スチフナPL				9.0												



壁床リスト 1/25 , 1/50

壁 リスト

スラブ リスト

符号	EW20 W20 W20-1 W20A	EW30	W15 W15A	符号	厚さ	位置	短辺（主筋）方向		長辺（配力筋）方向		備考
							端部	中央	端部	中央	
断面				S1	300	上端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	
						下端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	
				S2	150	上端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
						下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
				CS1 CS2	300~150 150	上端筋	D13@150	D13@150	D10@200	D10@200	
						下端筋	D13@150	D13@150	D10@200	D10@200	
				S12	120	上端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
						下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
縦筋	D13@200ダブル	D16@200ダブル	D13@200シングル	S12A	120	上端筋	D13@150	D13@150	D13@200	D13@200	
横筋	D13@200ダブル	D16@200ダブル	D13@200シングル			下端筋	D13@150	D13@150	D13@200	D13@200	
巾止筋	D10@1000	D10@1000	-	S12B	150	上端筋	D13@150	D13@150	D13@200	D13@200	
開口部 縦筋	2x1-D13	2x1-D16	1x1-D16			下端筋	D13@150	D13@150	D13@200	D13@200	
開口部 横筋	2x1-D13	2x1-D16	1x1-D16	S12C	120	上端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	
開口部 斜筋	2x1-D13	2x1-D16	1x1-D16			下端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	
符号	凡例図			S15	150	上端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
断面						下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
				S15A	150	上端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	
						下端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200	
				S15B	150	上端筋	D13@150	D13@150	D13@200	D13@200	
						下端筋	D13@150	D13@150	D13@200	D13@200	
				S16	160	上端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
						下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	
				床 開口補強		外階段					
縦筋											
横筋											
巾止筋											
開口部 縦筋											
開口部 横筋											
開口部 斜筋											



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当

縮 尺
A1→1/25 A3→1/50
設計年月日 2023. 03. 31

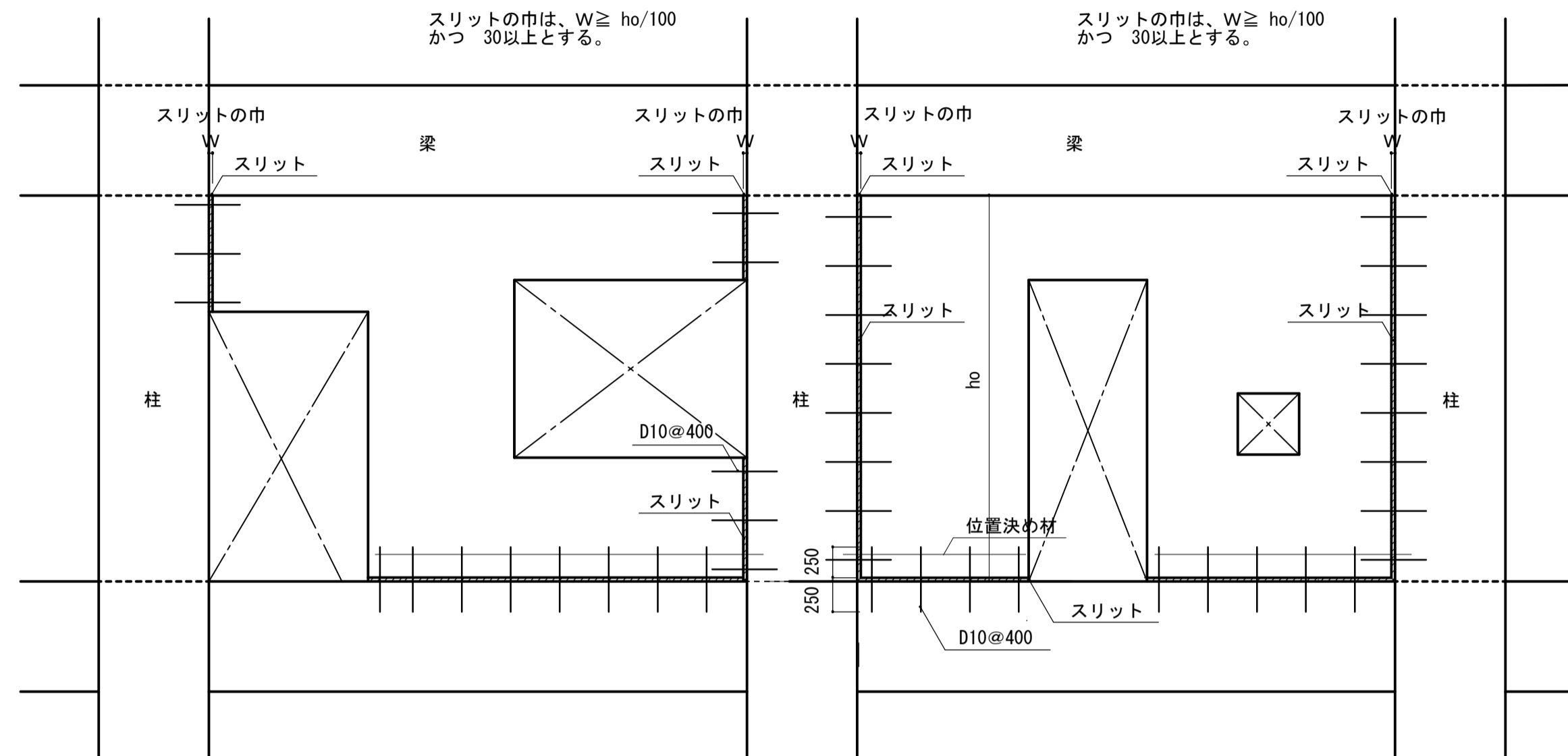
工事名称	遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事
図面名称	壁床リスト (1) (猛獣舎)

S-28
No.

## 壁リスト 2

壁スリット要領 S=1 : 25

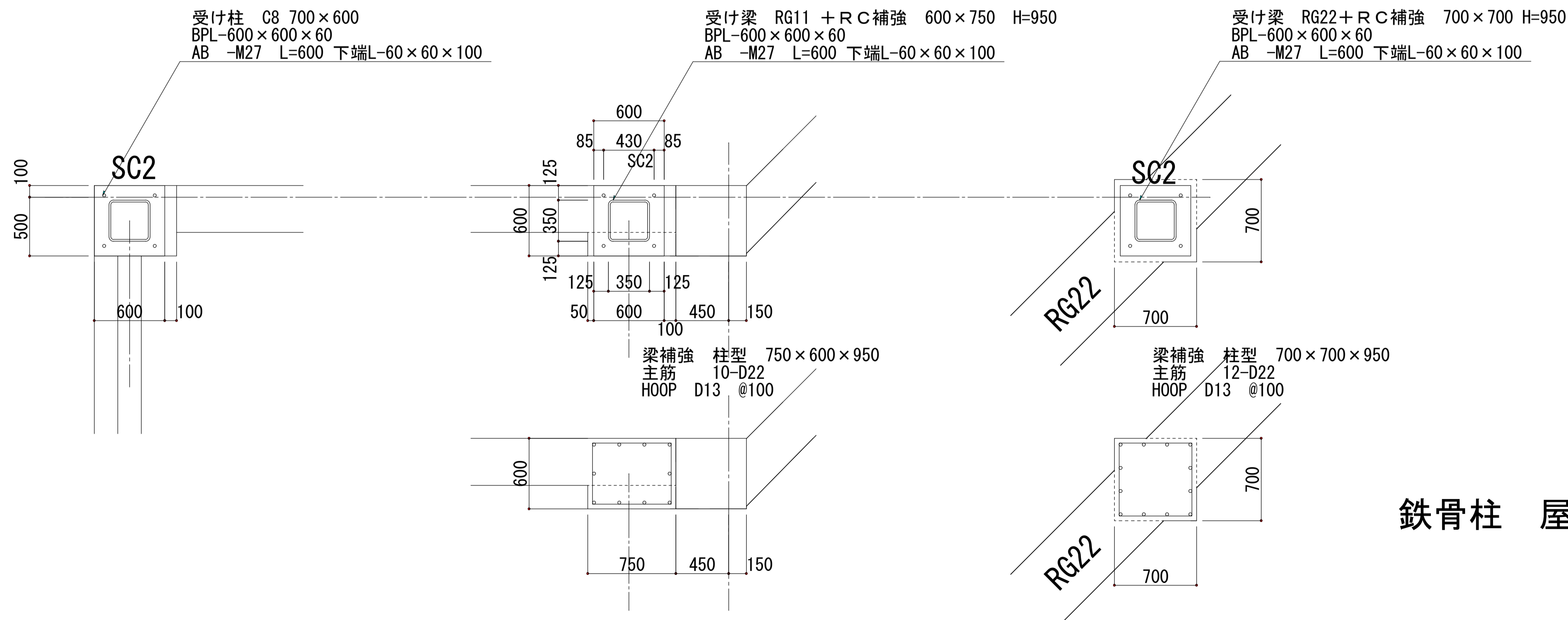
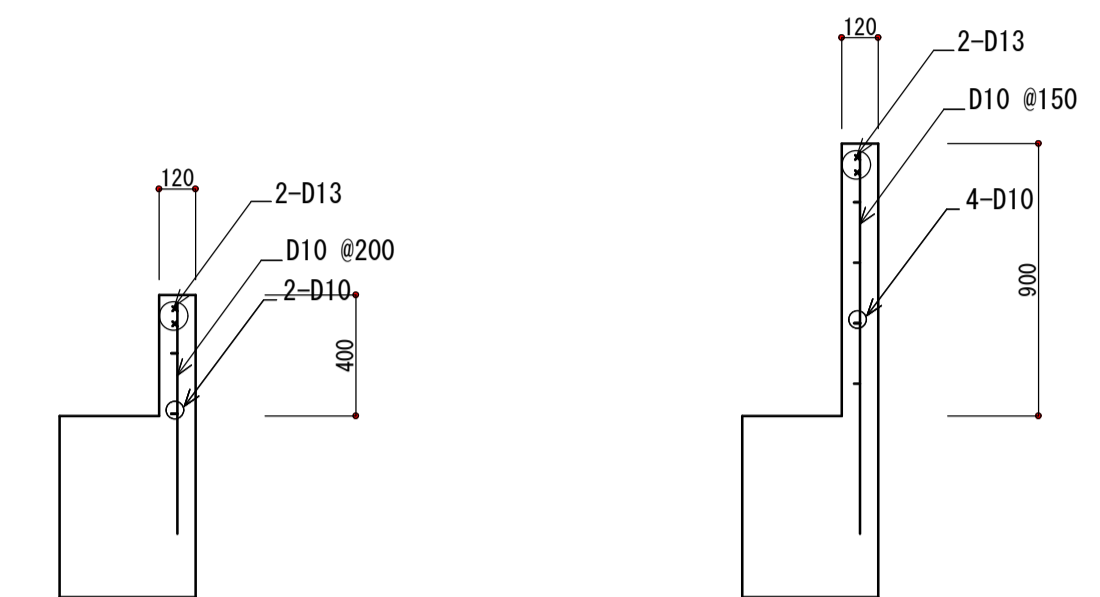
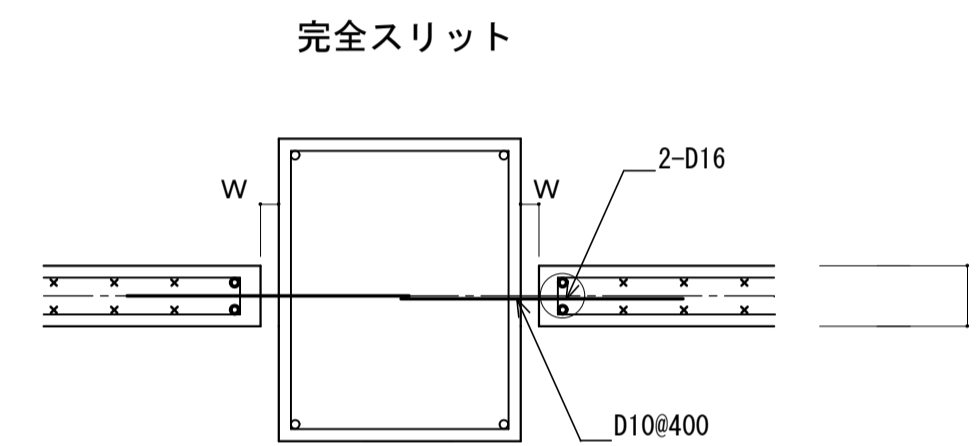
パラペット S=1 : 25



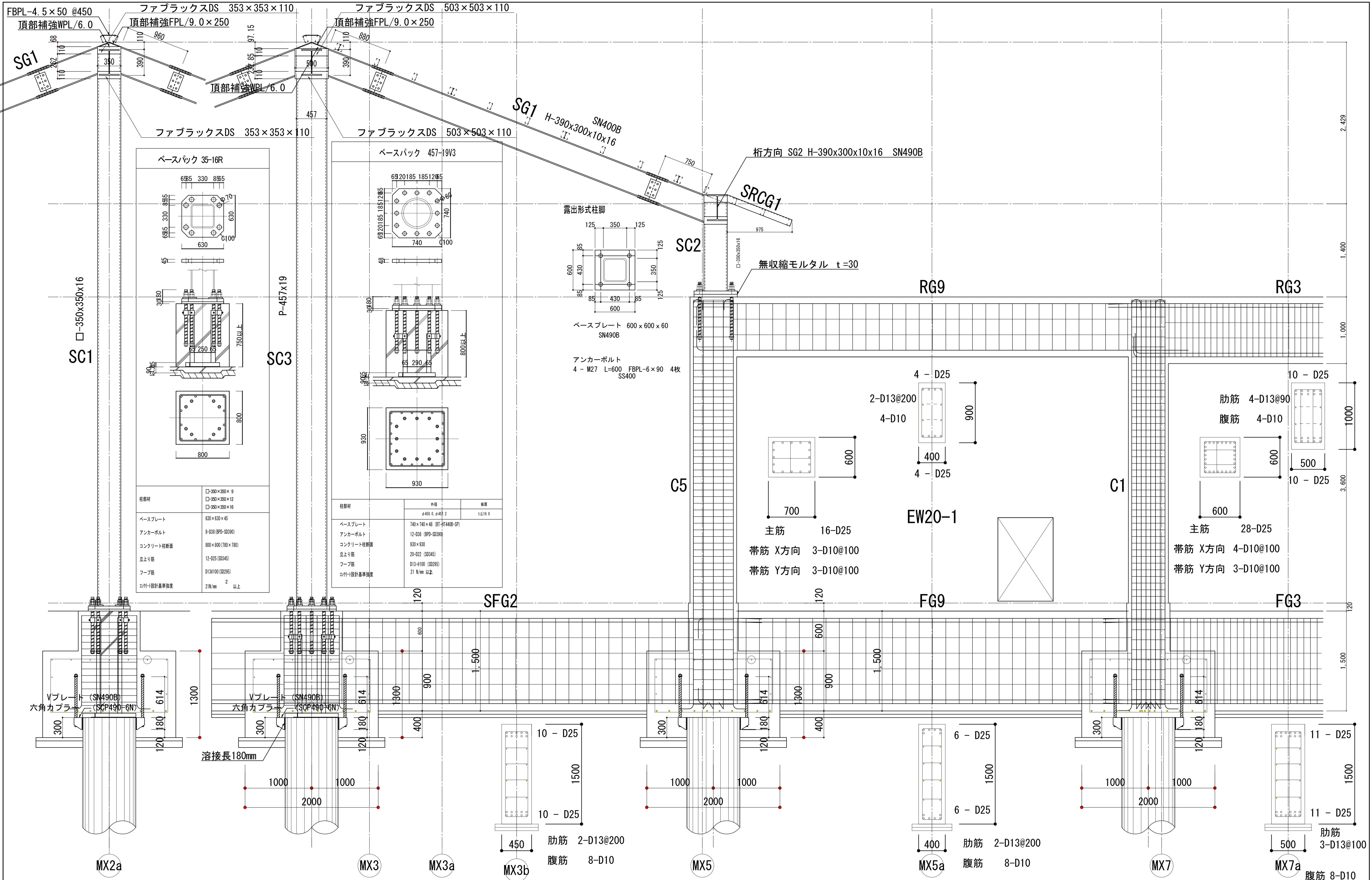
※ 本工事では縦 柱：壁スリットのみ

特記事項

1. 図はスリットの配置例を示している。  
スリットの位置は軸組図による。
2. スリット部分のアンカー筋は D10@400  
とする。
3. スリット部分の鉄筋等のかぶり厚さは30mm  
以上とする。



鉄骨柱 屋上部 露出形式柱脚受け補強






山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当

縮尺
A1→1/25 A3→1/50
設計年月日
2023. 03. 31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備(建築主体) 工事  
図面名称 構造詳細図 (猛獣舎)

No. S-30

構造設計特記仕様

適用は●印を記入する。

平成22年7月1日 発行 社団法人東京都建築士事務所協会 監修 東京都建築構造行政連絡会

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 遊亀公園付属動物園整備工事(猛獣舎 観覧スペース3)  
建築場所 甲府市太田町10-1地内  
(2) 工事種別 ☒新築 ☐増築 ☐増改築 ☐改築  
(3) 構造設計一級建築士の関与 ☐必要 ☐必要としない  
☐法第20条第一号(高さ60m超)  
☐法第20条第二号( ☐RC造高さ20m超 ☐S造4階以上 ☐木造高さ13m超 ☒その他 )  
注(3)構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書を参照して確認する事。  
(4) 構造種別  
☐木造(W) ☐補強コンクリートブロック造(CB) ☐鉄骨造(S) ※補助部材  
☒鉄筋コンクリート造(RC) ☐壁式鉄筋コンクリート造(WRC)  
☐鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) ☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)  
☐プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC) ☐  
(5) 階数 地下 ー 階 地上 1 階 塔屋 階  
(6) 主要用途 動物園 獣舎  
(7) 屋上附属物 ☐高梁水塔 kN ☐キューピクル kN ☐広告塔 ☐煙突  
(8) 特別な荷重  
☐エレベーター 9人乗(マシルームレス ロープ式・油圧式) ☐リフト kN ☐ホイスト kN  
☐倉庫積載用 kN/㎡ ☐受水槽 kN  
(9) 付帯工事 ☐門牌 ☐塙壁 ☐駐輪場 ☐機械式駐輪場 ☐  
(10) 増築計画 ☐有( ) ☒無  
(11) 構造計算ルート X方向 1 Y方向 1

2. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

- (1) コンクリート(レディーミクストコンクリートJIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308) (JASS5 2009適用)

適用箇所	種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> =N <sub>req</sub>	品質基準強度 F <sub>q</sub> =N <sub>req</sub>	スラブ (cm)	備考
捨てコンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18	18	18	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18	21~24	18	
基礎・地中梁・1階床	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	24	27~30	18	
1階柱・梁・床・壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量	24	27~30	18	比重
	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量				比重
押えコンクリート	<input type="checkbox"/> 普通、 <input type="checkbox"/> 軽量				比重
細骨材の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 砂 <input type="checkbox"/> 山砂 <input type="checkbox"/> 人工				
粗骨材の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 砂利 <input type="checkbox"/> 碎石 <input type="checkbox"/> 人工				
水の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 水道水 <input type="checkbox"/> 地下水 <input type="checkbox"/> 工業用水				
混和材料の種類(JIS )	<input type="checkbox"/> AE減水剤 <input type="checkbox"/> 高性能AE減水剤 <input type="checkbox"/> 躯体防水混和材ベトン				
呼び強度を保証する材料、養生	<input type="checkbox"/> 材料 ( <input type="checkbox"/> 28日 <input type="checkbox"/> 56日 <input type="checkbox"/> ) <input type="checkbox"/> 養生 ( <input checked="" type="checkbox"/> 現場封かん <input type="checkbox"/> 現場水中 <input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> )				

- ☐単位水量は185kg/m<sup>3</sup>以下、単位セメント量は270kg/m<sup>3</sup>以上とする。  
☒水セメント比は50%以下とする。  
(2) コンクリートブロック ( JIS A 5406 )  
☐A種 ☐B種 ☐C種 厚 100 120 150 190 使用箇所 ☐ ☐

	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋 (JIS G 3112)	<input checked="" type="checkbox"/> SD295A	D10~D16	ア・ス・壁・床・柱	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手 D16以下 <input type="checkbox"/> ガス圧接継手 D19以上
	<input checked="" type="checkbox"/> SD295B			<input type="checkbox"/> 溶接継手 <input type="checkbox"/> 機械式継手
	<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19~D25	大梁・小梁	( )
	<input type="checkbox"/> SD390	D27~D32		各継手の使用詳細については 本仕様書 (2) 鉄筋の項の鉄筋 継手等の ●にて表示すること。
高強度せん断補強筋	<input type="checkbox"/> 材質			
	<input type="checkbox"/> 大臣認定番号	MSRB-		
丸 鋼 (JIS G 3112)	<input checked="" type="checkbox"/> SR235			
溶接金鋼 (JIS G 3551)	<input checked="" type="checkbox"/>	66	床	

(4) 鉄骨 (詳細については、部材リストによる)	種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号
<input checked="" type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SN400 B	端	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS	
	<input checked="" type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490 <input checked="" type="checkbox"/> STK400	端	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS
	<input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235 <input type="checkbox"/> BCP325		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	大臣認定品
	<input type="checkbox"/> SM490 A <input type="checkbox"/> SN490 B <input type="checkbox"/> SN490 C		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS
<input type="checkbox"/> SSC400 <input type="checkbox"/> SN490C相当鋼種			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	JIS
			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	大臣認定品
溶接材料	<input type="checkbox"/> JIS Z			

- (5) ボルト  
☐高力ボルト  
☐F10T (JIS B1186) ☐S10T 認定番号( ) ☐F8T 認定番号( ) ( ☐M16 ☐M20 ☐M22 ☐M24 )  
☒ボルト (JIS B1186) M16 M ☒4.8(4T)  
☒アンカーボルト  
☒SS490 M24 L=450 mm ナット( ☐シングル ☒ダブル )  
☒SD390 D22 L= mm ナット( ☐シングル ☐ダブル )  
ナット( ☐シングル ☐ダブル )  
☐頭付スタッドボルト d= mm 使用箇所 ( )

(6) 屋根、床、壁	材種	型式	厚	その他	使用箇所	使用・工法
ALC (JIS A 5416)				厚	<input type="checkbox"/> 壁 <input type="checkbox"/> 床版	<input type="checkbox"/> スライド <input type="checkbox"/> ボルト止め
	折版		H= 88	厚 0.8	<input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ロックキング
	折版		H=	厚	<input type="checkbox"/> 屋根 <input type="checkbox"/>	
	折版		H=	厚	<input type="checkbox"/> 床版 <input type="checkbox"/>	
	特殊デッキプレート (JIS G 3352)	型式		厚	<input type="checkbox"/> 床版 <input type="checkbox"/>	
	キーストンプレート (JIS G 3352)	型式		厚	<input type="checkbox"/> 床版 <input type="checkbox"/>	
デッキプレート (JIS G 3352)	型式		厚	床版		

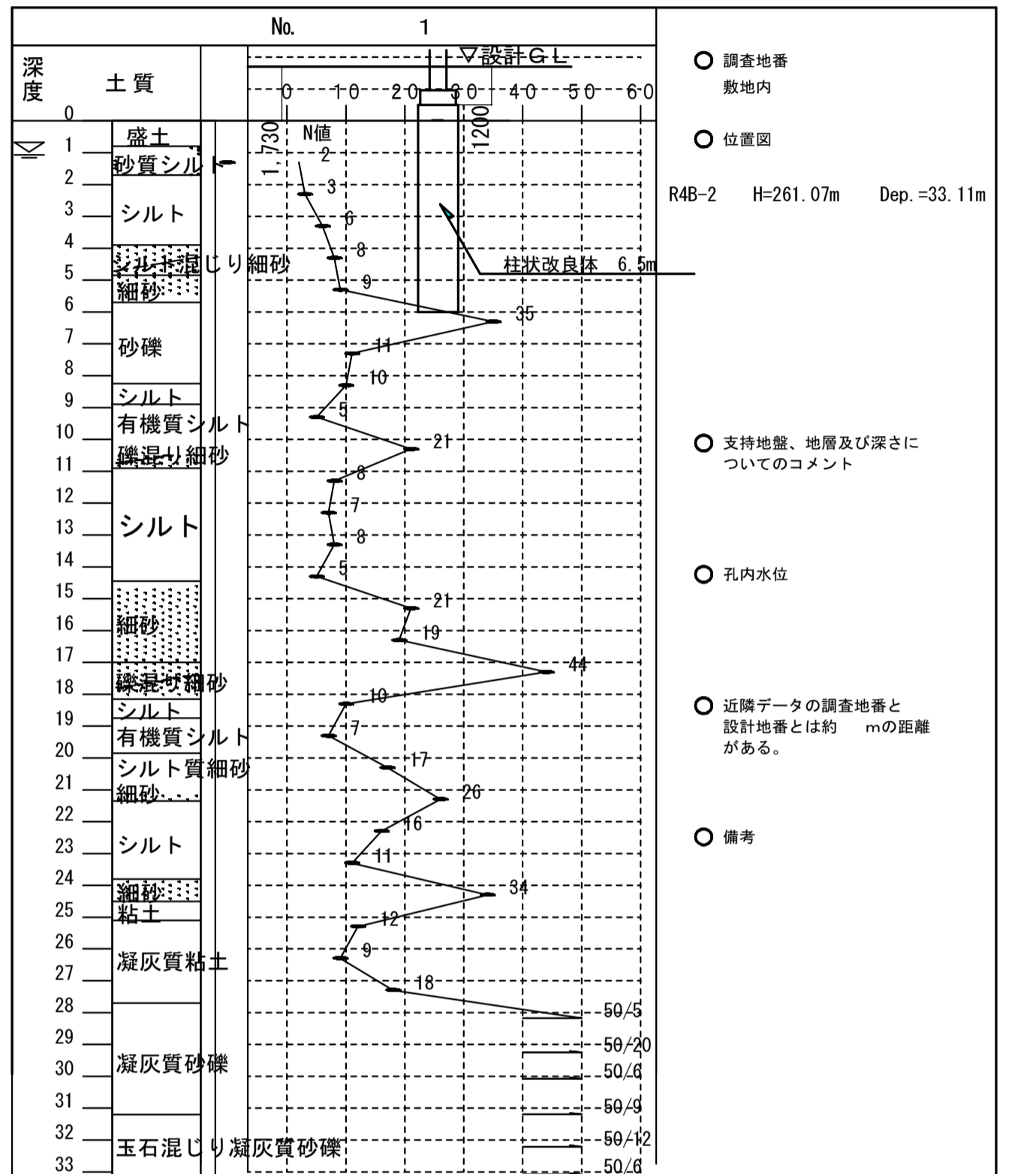
3. 地盤

(1) 地盤調査資料と調査計画

調査項目	資料有り	調査計画	資料有り	調査計画	資料有り	調査計画
ボーリング調査			静的貫入試験		標準貫入試験	<input checked="" type="checkbox"/>
水平地盤反力係数の測定	<input checked="" type="checkbox"/>		土質試験	<input checked="" type="checkbox"/>	物理探査	
試験層(支持層の確認)			平板載荷試験		液状化判定	<input checked="" type="checkbox"/>
スーデン式サウンディング			現場透水試験		PS検層	

注) 上表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○印を記入する。

(2) ボーリング標準貫入土、土質構成 (基礎、杭、地盤改良の位置を明記すること)



注) 地盤調査及び試験結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4. 地業工事

- (1) 直接基礎  
☐ベタ基礎 ☐布基礎 ☒独立基礎 試験層 ☐有 ☒無  
深さ: 支持層: 地盤改良下砂礫層 長期(短期)許容支持力度 200 kN/㎡ 載荷試験 ☐有 ☐無

- (2) 地盤改良  
☒柱状改良工法 ☐深層混合処理工法 ☐流動化処理工法 ☐エルマッドS工法  
深さ: GL-7.7m 長期許容支持力度 700kN/㎡ 載荷試験 ☐有 ☐無  
注) 「建築物のための改良地盤設計及び品質管理指針: 日本建築センター2002」を参考とする。

(3) 杭基礎	杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PRC <input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼 <input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭 <input type="checkbox"/> S杭 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 場所打ち コンクリート杭	PC ( <input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種 ) PHC ( <input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種 ) 鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> STK400	<input type="checkbox"/> 打込み(オーガー併用) <input type="checkbox"/> 埋込み(MRX工法)	
		コンクリート F <sub>c</sub> = 24 N <sub>req</sub> F <sub>q</sub> = N <sub>req</sub> スラブ セメント量 単位水量 鉄筋主筋: SD 345 Hoop: SD 345, 295	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 底底杭 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース <input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 深掘 <input type="checkbox"/> 機械掘	第 認定 年 月 日 号

杭仕様 ☐施工計画承認 ☐杭施工結果報告書  
試験杭 ( ☐無 ) ( ☐打込み ☐載荷 ☐孔壁測定 ) 本

杭径(mm)	設計支持力(k <sub>N</sub> )	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

- 本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度 (F<sub>c</sub>) が 36N/mm<sup>2</sup> 以下に適用し、鉄筋の材質はSD490以下に適用する。  
JASS5 は2009年度版を採用する。
- (1) コンクリート  
☒コンクリートはJIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) に適合するJIS認証工場製の製品とし、施工に際しては標準図に記載されている事項を除き、JASS5による。  
打込み、締固め方法、打継ぎの処理の方法は7節に準拠する。養生方法・その他は8節に準拠する。  
☒耐久設計基準強度 F<sub>d</sub> ☐短期 ☒標準 ☐長期 ☐超長期  
☒セメントは、JIS R 5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。  
☒調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。  
☒寒中・暑中・その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査・打込み・養生・管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。  
☒フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録および測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。  
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。  
☒構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法はJASS5 T-603によることとし、供試体は現場水中養生、又は現場打ち養生とし、採取は打ち込み区ごと・打ち込み日ごととする。  
また、打ち込み量が150m<sup>3</sup>を超える場合は150m<sup>3</sup>ごまたは、その増数ごとに一回を標準とする。  
一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。  
なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。  
☒ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて直置に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。  
ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または、同等以上の技能を有する者が従事すること。  
なお、打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。  
☒コンクリート打ち込み中及び打ち込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下らないようにする。  
☒乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。  
☒水セメント比は50%以下とする。

- (2) 鉄筋  
☒鉄筋はJIS G 3112の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除きコンクリートと同様に、JASS5による。  
☐高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるD種1適合品とする。  
☒鉄筋の加工寸法、形状・かぶり厚さ・鉄筋の継手位置・継手の重ね長さ・定着長さは、「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。  
☒鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径
	(1) 引張力最小部位	(2) (1) 以外の部位 (注)			
		A級	B級	C級	
重ね継手	<input checked="" type="checkbox"/> 40d <input type="checkbox"/> 35d <input type="checkbox"/> 1d				<input checked="" type="checkbox"/> D (16) 以下
圧接継手	<input type="checkbox"/> 告示1463号第2項各号				<input checked="" type="checkbox"/> D (19) 以上
溶接継手	<input type="checkbox"/> 告示1463号第3項各号	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> D ( ) 以上
機械式継手	<input type="checkbox"/> 告示1463号第4項各号	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/> D ( ) 以上

注) (1) 以外の部位に設ける場合は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋手協会、日本建築工事会等の設計・評定等を取扱会社の手続き等、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準 (建築物の構造関係技術基準解説書2007)」によって検討した部材の等級・仕様にすること。

☐ D19未満は、すべて重ね継手とする。  
☒ D19以上の場合は 社)日本建築業協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事)による。

継手部の検査方法：外観検査： ☐ 有 ☒ 無、 引張試験： ☐ 有 ☒ 無、 超音波探傷試験： ☐ 有 ☒ 無

- 注) (1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準(建築物の構造関係技術基準解説書2007)」によって検討した部材の条件・仕様によること。  
☒D19未満は、すべて重ね継手とする。  
☒継手部分の施工要領は「日本建築業協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事)による。  
継手部の検査方法: 外観検査: ☐有 ☐無、引張試験: ☐有 ☒無、超音波探傷試験: ☐有 ☐無  
☒柱の帯筋(Hoop)の加工方法は、☒H型(タガ型) ☐W型(溶接型) ☐S型(スパイラル型)とする。  
☐コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと  
試験・検査機関名 (都知事登録 号)  
代行業者名  
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者を言う。

(3) 型枠	種類	せき板	支柱
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント
		高炉セメント A種	高炉セメント A種
		シリカセメント A種	シリカセメント A種
			高炉セメント A種
コンクリートの圧縮強度	2	3	4
		5	6
		7	8
		9	10
コンクリートの圧縮強度	5.0N/㎡	設計基準強度の50%	
		85%	
		100%	

- 注) 1. 片持ばり・庇・スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。  
注) 2. 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。  
注) 3. 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。  
注) 4. 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受け板、角材または、これに代わるものを置く。  
注) 5. 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り替えて、盛りかえをしてはならない。  
注) 6. 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱(大梁の支柱を除く)の盛りかえを行わないこと。  
注) 7. 支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を与えないように行うこと。  
注) 8. 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。  
注) 9. コンクリートの圧縮強度による場合は、標準仕様書に定める構造計算書を行う。

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による  
☒日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」  
☐社)日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」  
☐鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い口のずれの検査・補強マニュアル」
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの  
☐製作工場 ☒製作要領書 ☒工作図 ☒施工計画書  
☐認定または登録工場(大臣認定 S H M R J グレード 都登録 T1 T2 T3 ランク)  
☒材料規格証明書\*、または試験成績書  
☒鋼材 ☒高力ボルト ☒特殊ボルト ☐頭付スタッド  
\*社)日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。  
☒社内検査表 ☐
- (3) 工事監理者が行う検査項目  
( ☐印以外の項目の検査結果については、工事管理者に報告すること )  
☐現状検査 ☐組立・開先検査 ☒製品検査 ☒建方検査 ☐
- (4) 接合部の溶接は下記によること  
☒平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロ  
☐鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱(建築構造設計指針第12章)  
☐日本建築学会「溶接工作規程、同解説I・II・III・IV・V・VI・VII・IX」  
☐日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」  
☐東京都アーク溶接工事管理規程(建築構造設計指針第12章)

(5) 接合部の検査

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者	
<input checked="" type="checkbox"/> 完全溶込み溶接部 (突合せ溶接)	外観検査	100%	100%	%	
	超音波探傷試験	100%	30%	%	
	内蔵検査(注) <input type="checkbox"/> 硬さ試験 <input type="checkbox"/> 示温塗料塗布		個	個	
	マクロ試験、その他				
<input type="checkbox"/>	外観検査				
第三者検査機関名 (都知事登録 号)					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

- 注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと  
注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

- ☒高力ボルトの検査(検査結果は後日工事管理者に報告すること)  
軸力導入試験 ☒要 ☐否 高力ボルトすべり係数試験 ☐要 ☒否  
☒一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。  
☒トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンチールが破断していることを確認する。  
☒高力ボルトは「JIS B 1186」の高力ボルトを標準とする。  
摩擦面の処理は黒皮などを産生外径2倍以上の範囲でショットブラスト・グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態で、すべり係数が0.45以上確保できるものを標準とし目視により検査を行う。  
ただし、ショットブラスト・グリットブラストによる処理で、表面あらさが50μmRz以上である場合は、赤さびは発生しない状態のままでもよい。  
☒高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。  
また、締付けは原則として2度締めとする。  
締付け後の検査は、各種付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

- (6) 防錆塗装  
☒防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆されていない部分とする。  
錆止めペイントは、☒JIS K5621 ☐JIS K5625 ☐を使用して、  
4つ重2回塗を標準とするが、実情に応じて決定すること。  
☒現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地処理は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。

- (7) 耐火被覆の材料  
☐

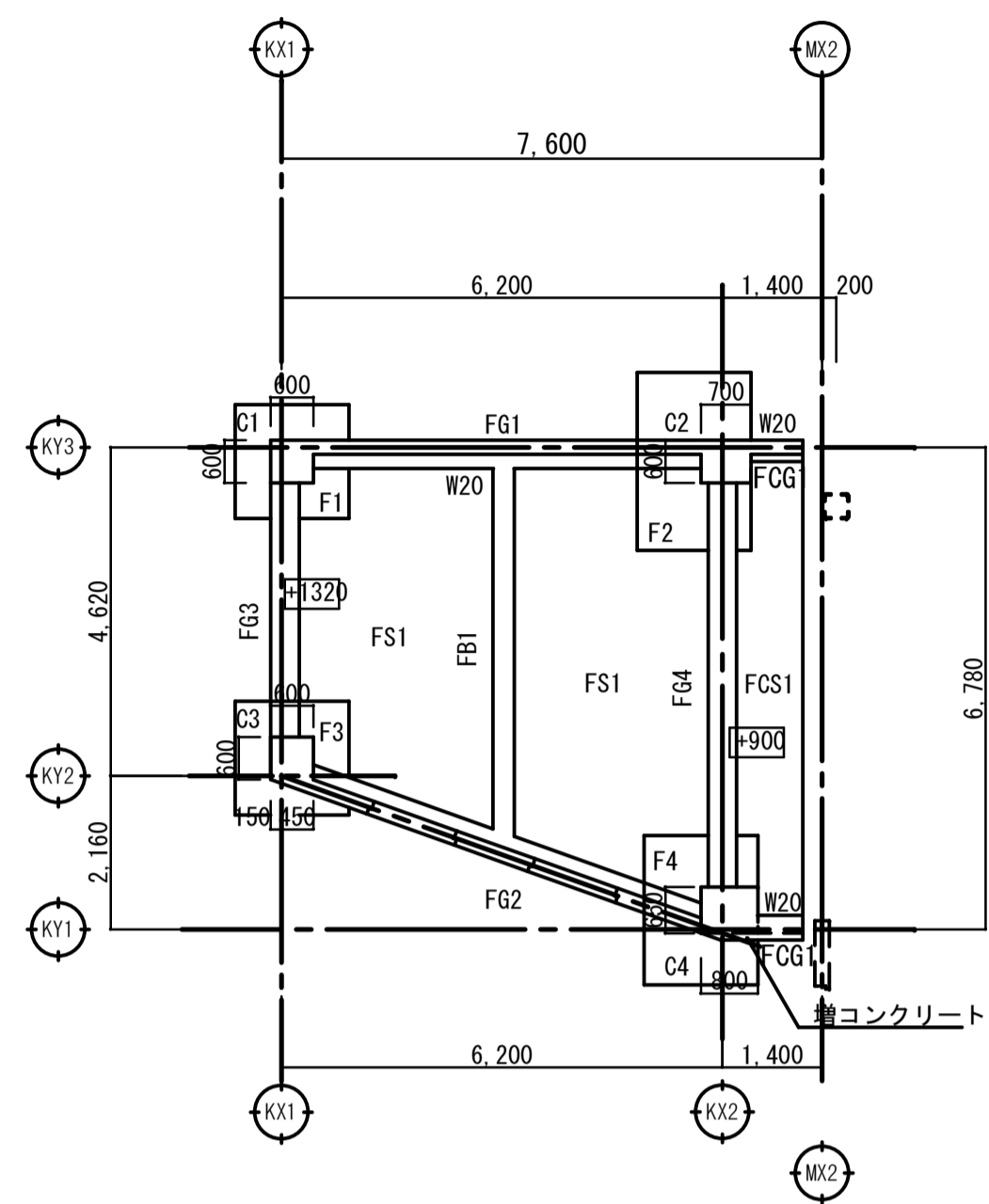
7. 設備関係

- ☒建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。  
☒建築設備の支持構造部及び配管金物には、錆止め等、防錆のための有効な措置を講じること。  
☒建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。  
☒煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5mm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。  
☒給湯配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して構造耐力上安全であること。  
☒エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。  
☒特記以外の架設方法は原則として設けない。  
☒床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。  
☒設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。  
☒給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の挙動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。  
☒満水時の水量が15.0kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成24年国土交通省告示第1447号第5に規定する構造方法によること。

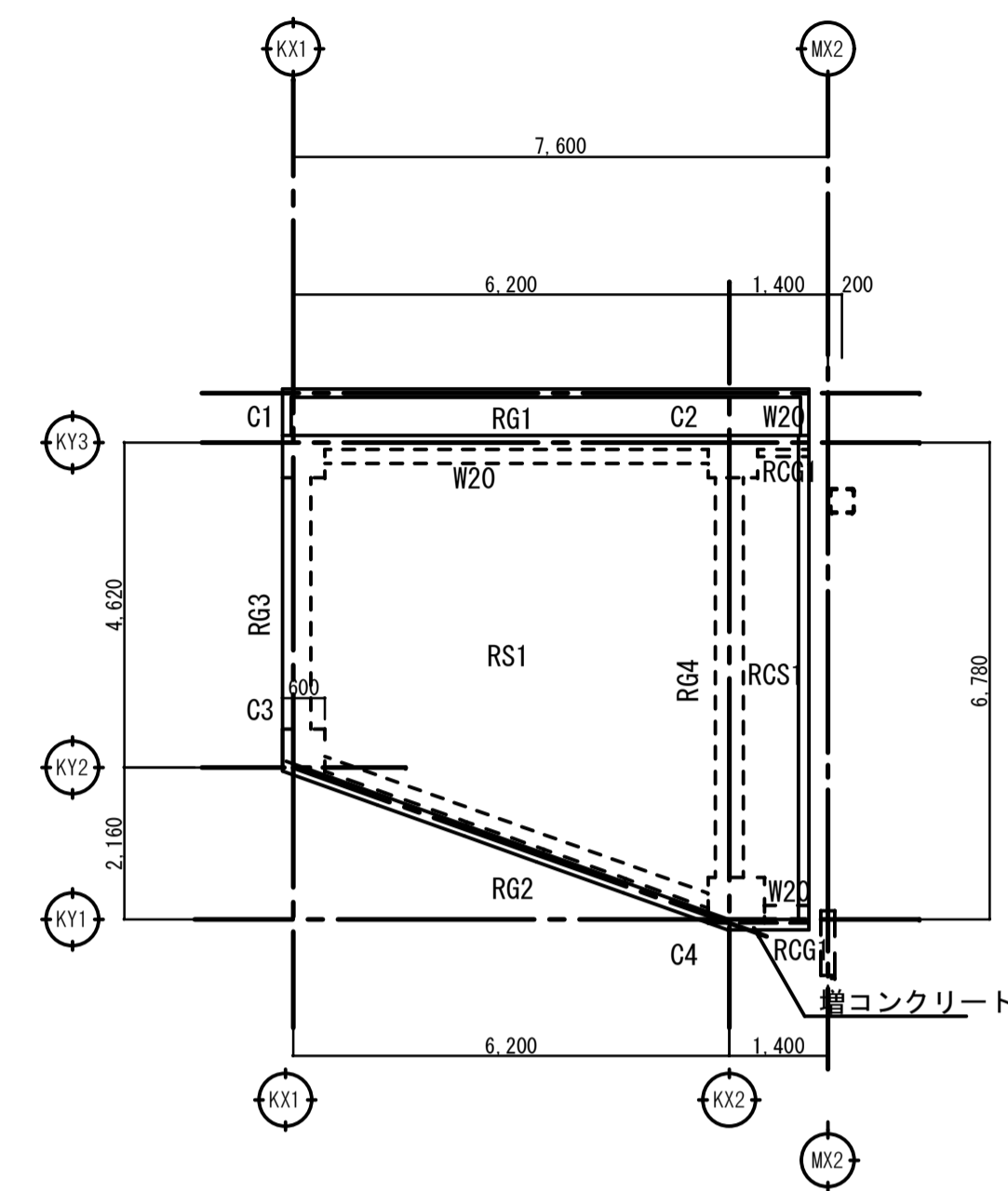
8. その他

- ☒諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。  
☒各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。  
☒必要に応じて記録写真を機り保管すること。

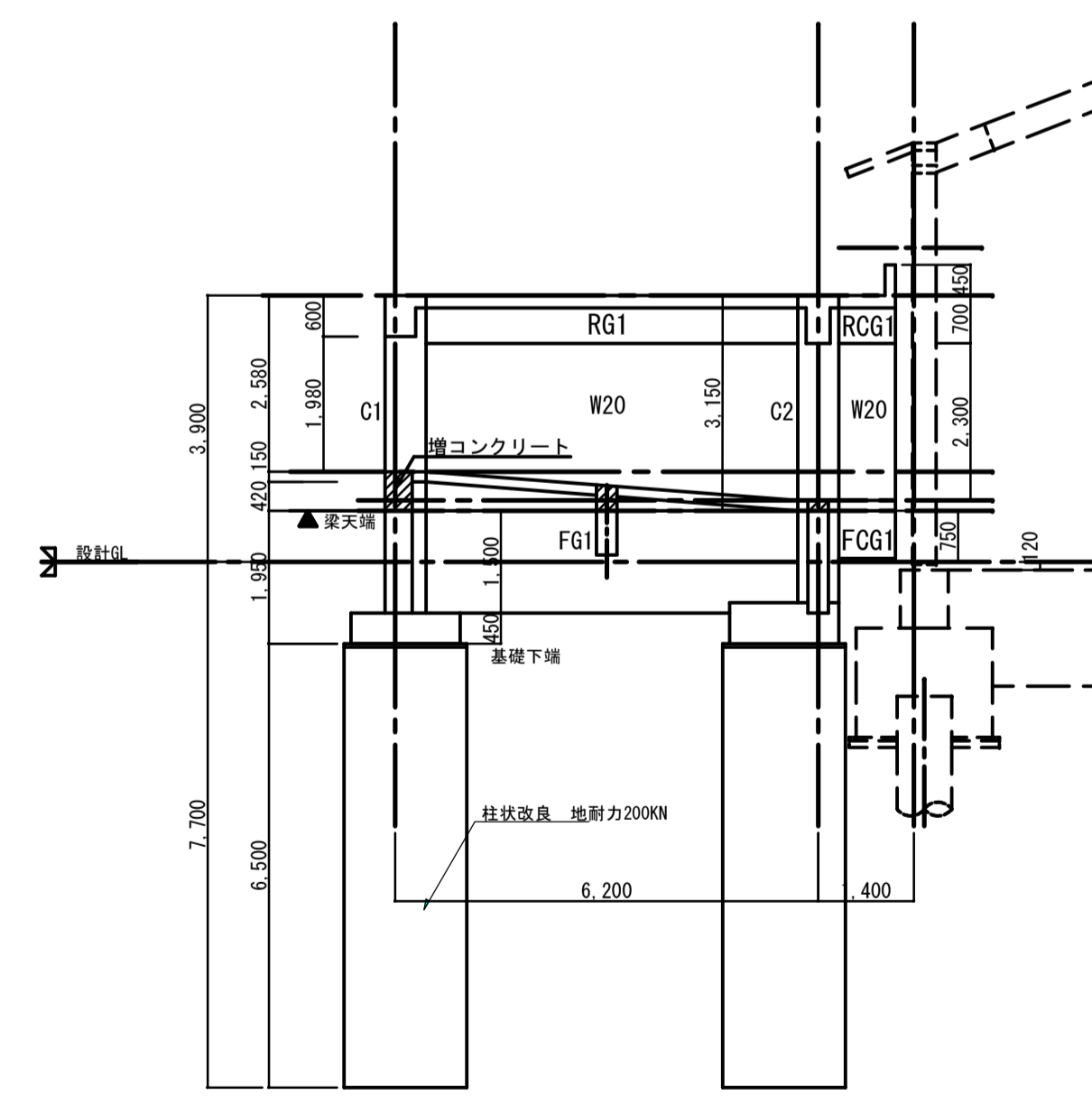




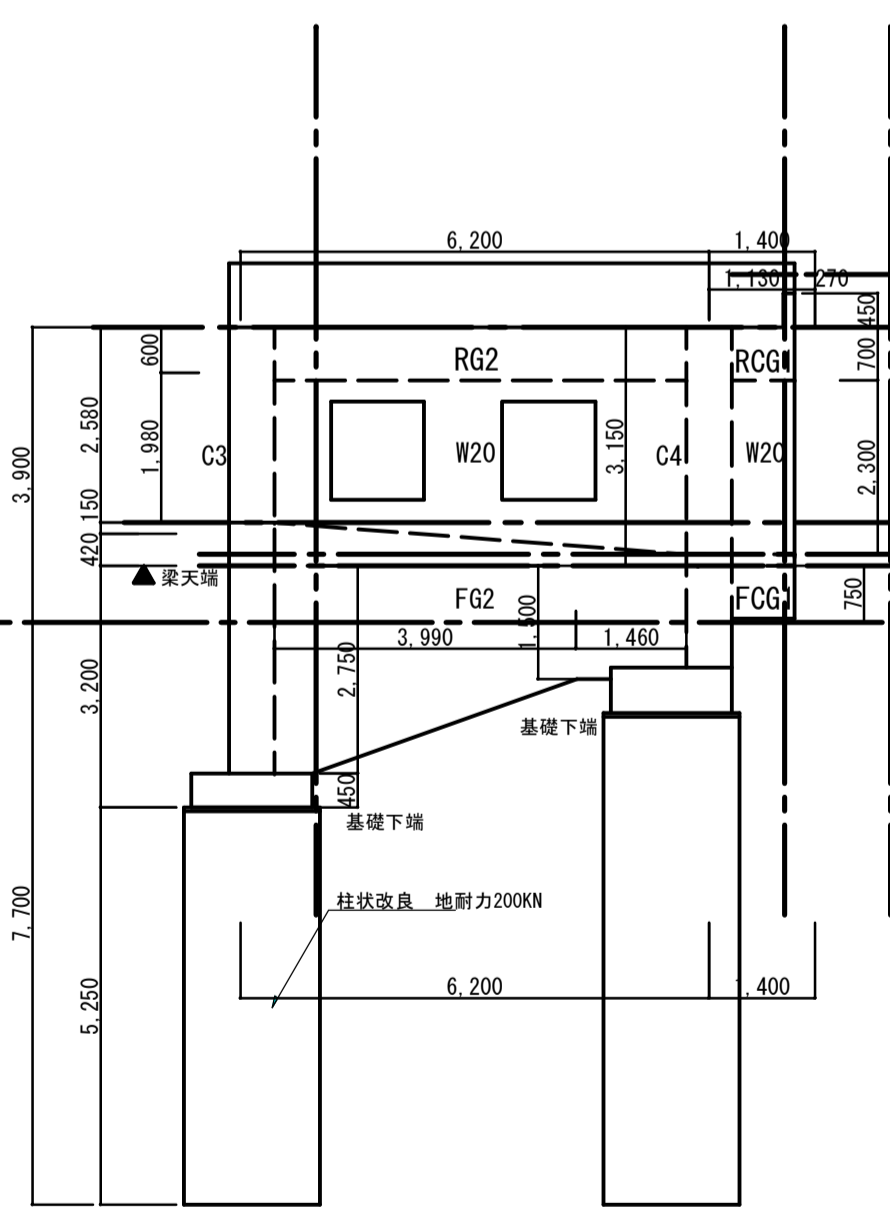
基礎伏図 S=1/100



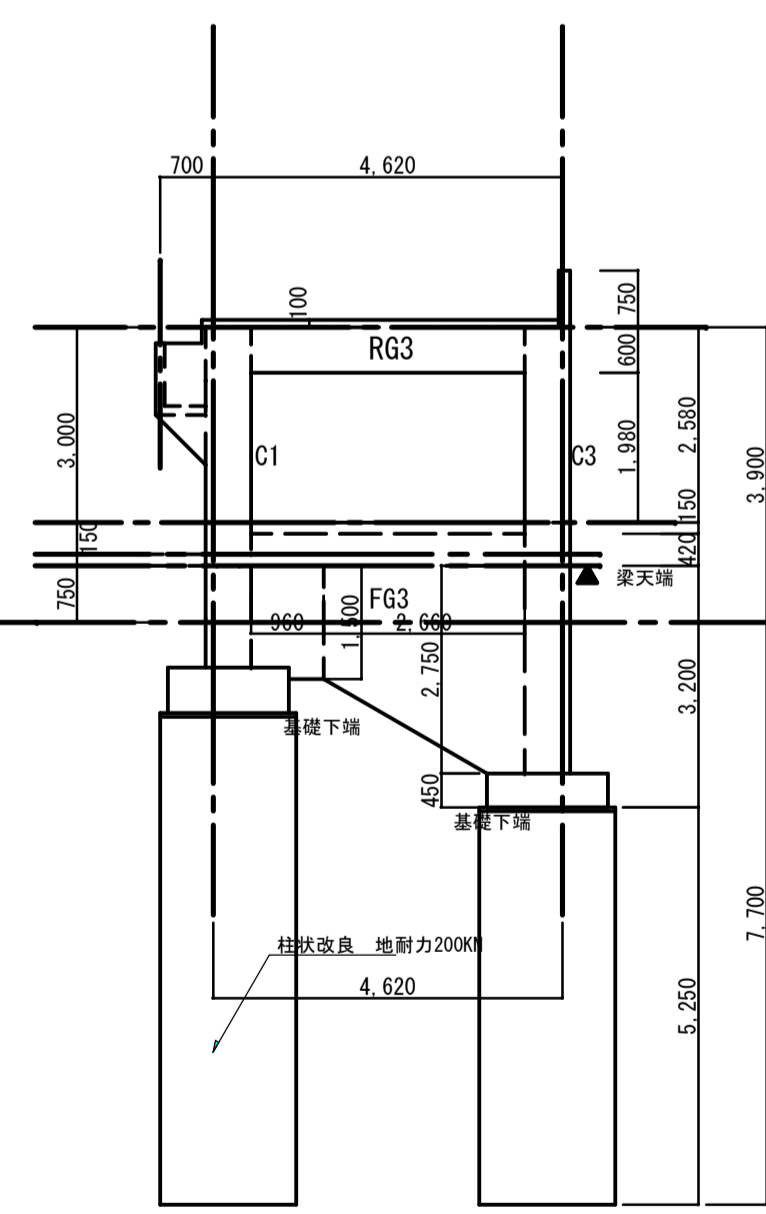
R階伏図 S=1/100



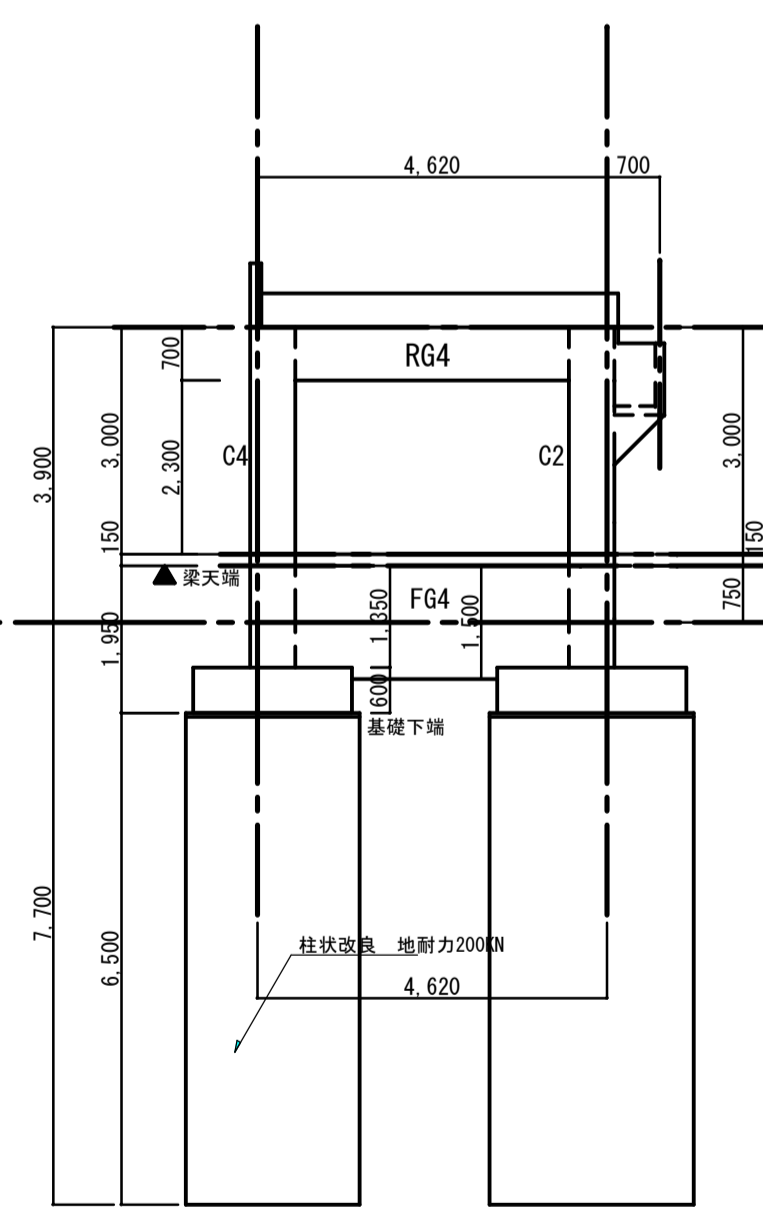
KY3 軸組図 S=1/100



KY1-KY2 軸組図 S=1/100



KY1 軸組図 S=1/100



KY3 軸組図 S=1/100

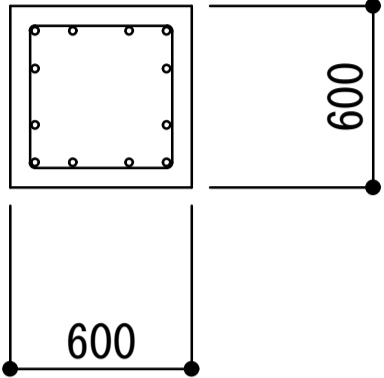
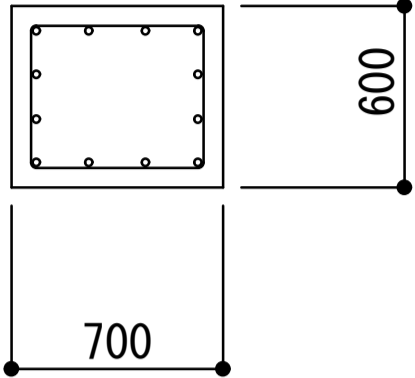
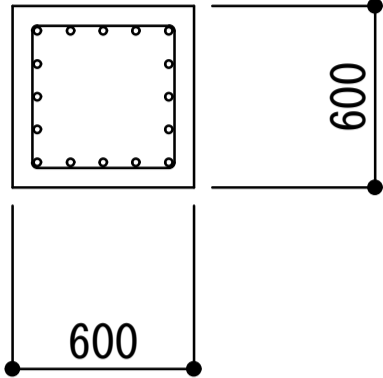
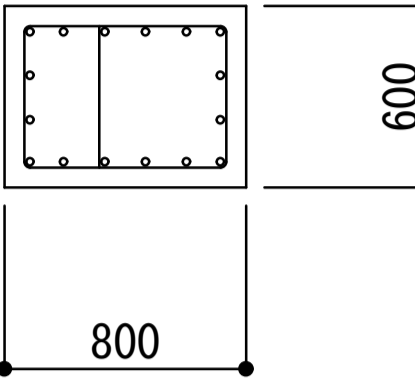
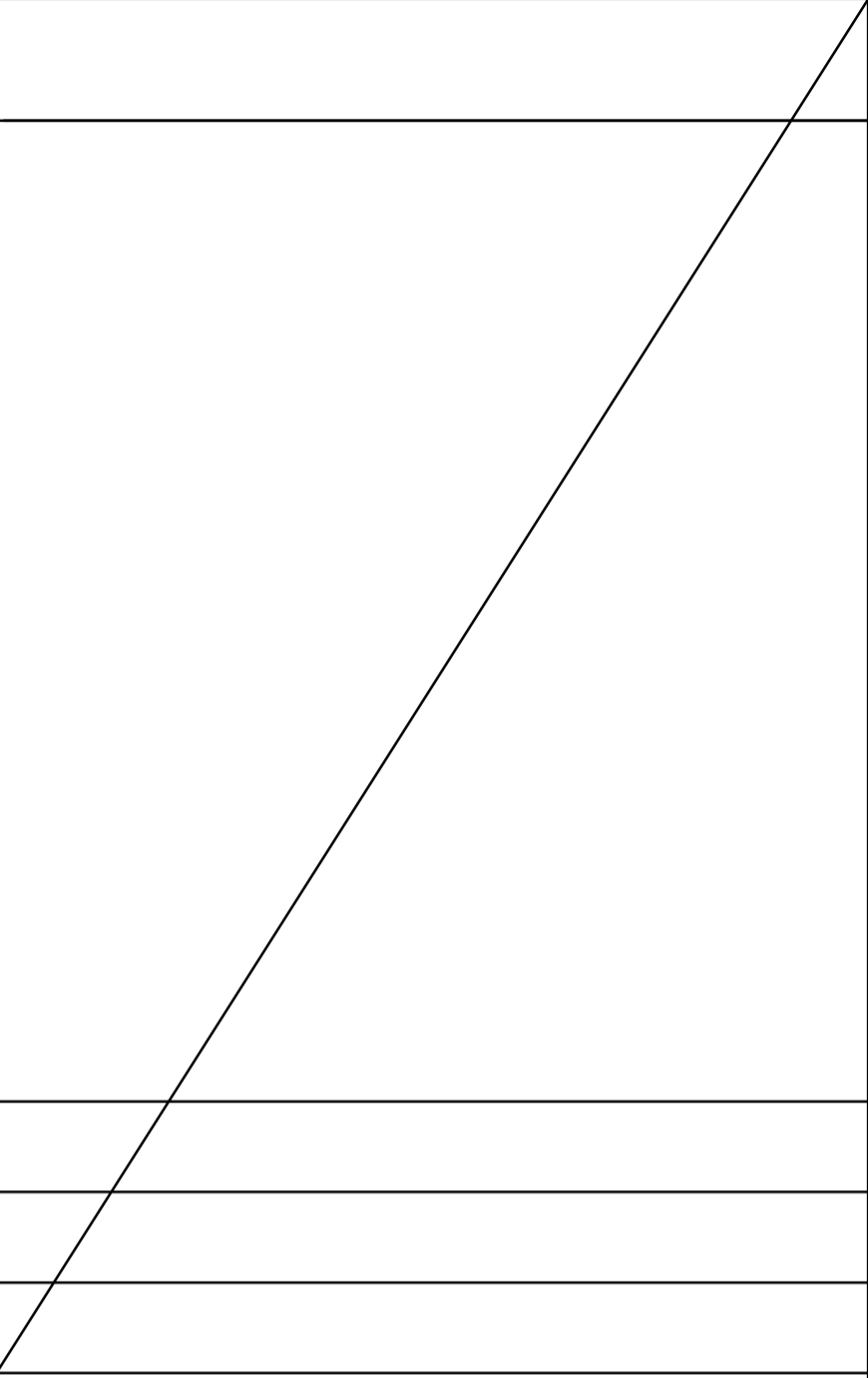


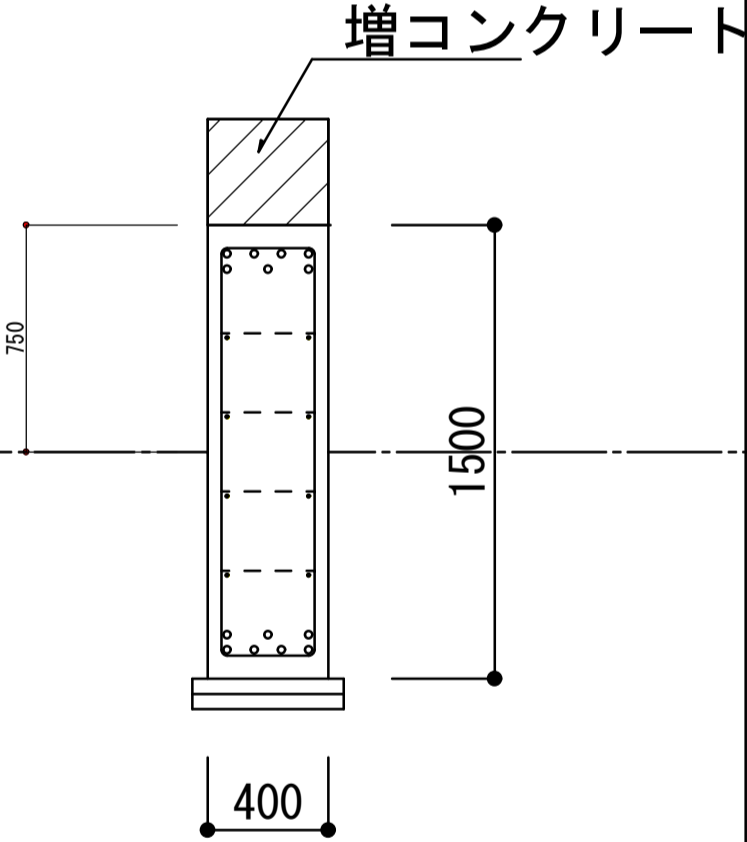
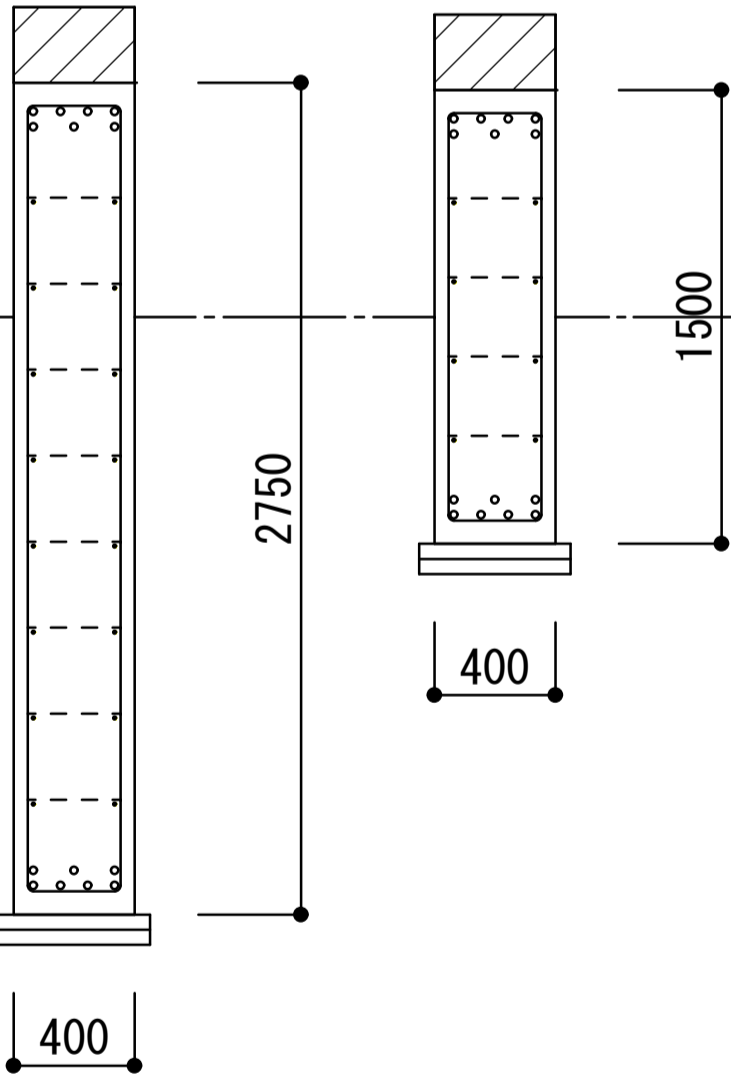
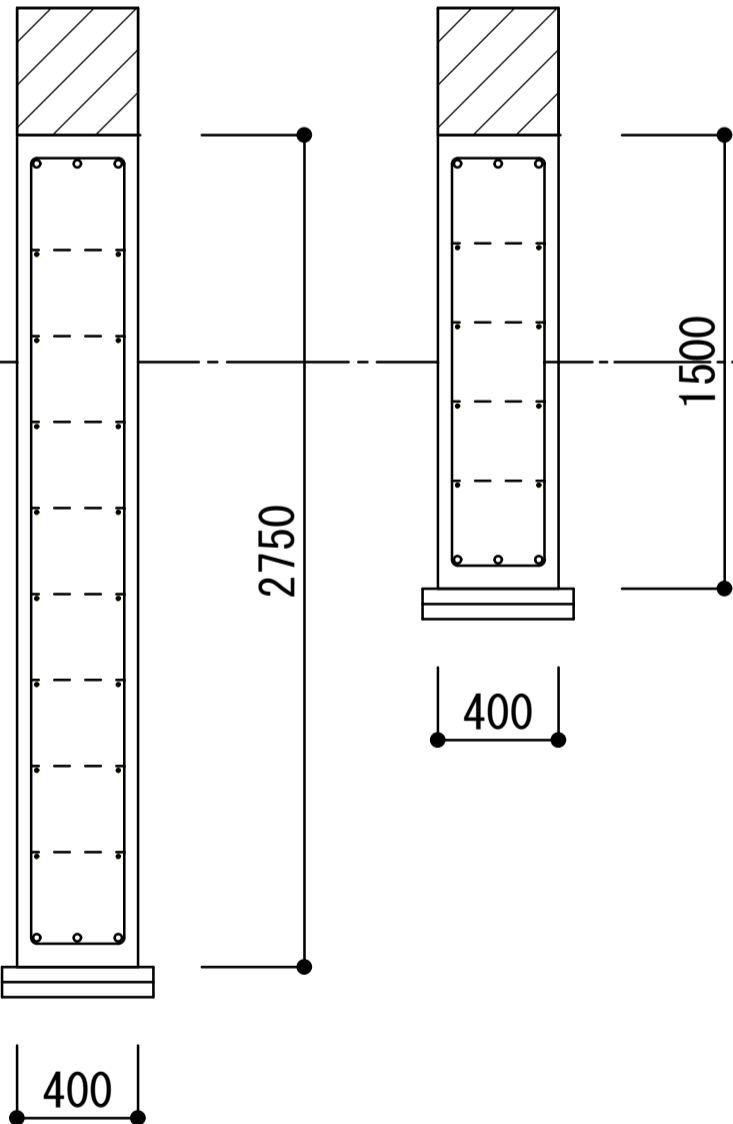
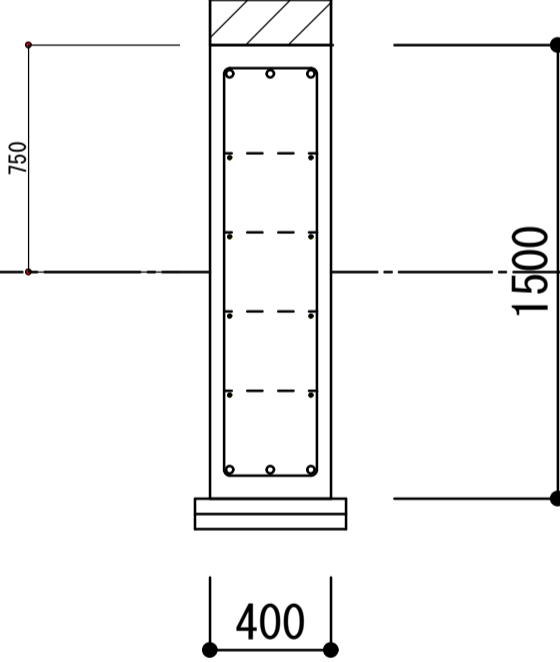
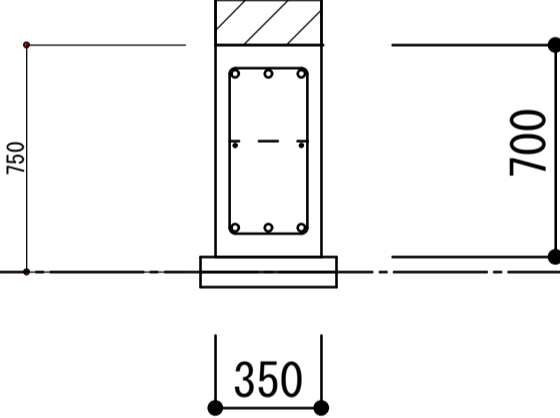
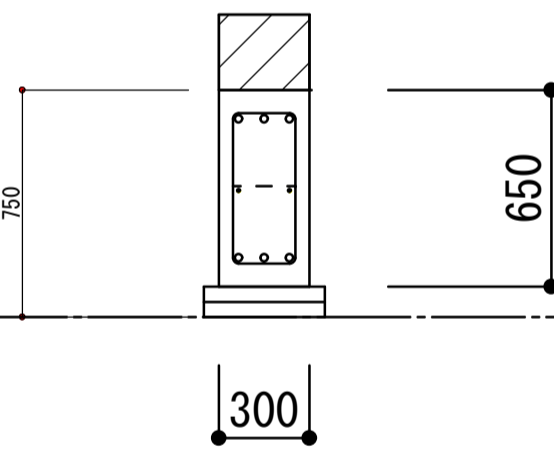

山梨建築設計監理事業協同組合

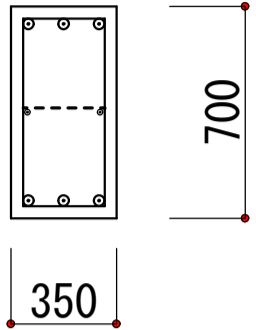
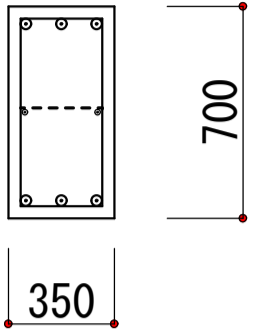
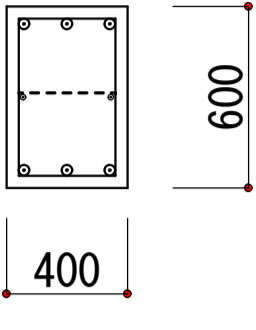
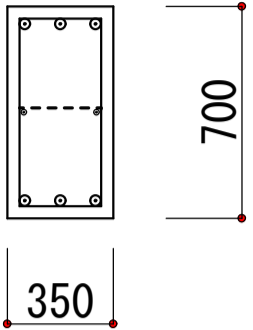
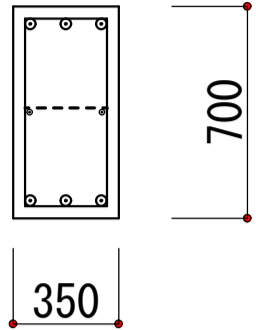
承認	設計	担当	縮 尺
			A1→1/100 A3→1/200
			設計年月日 2023. 03. 31


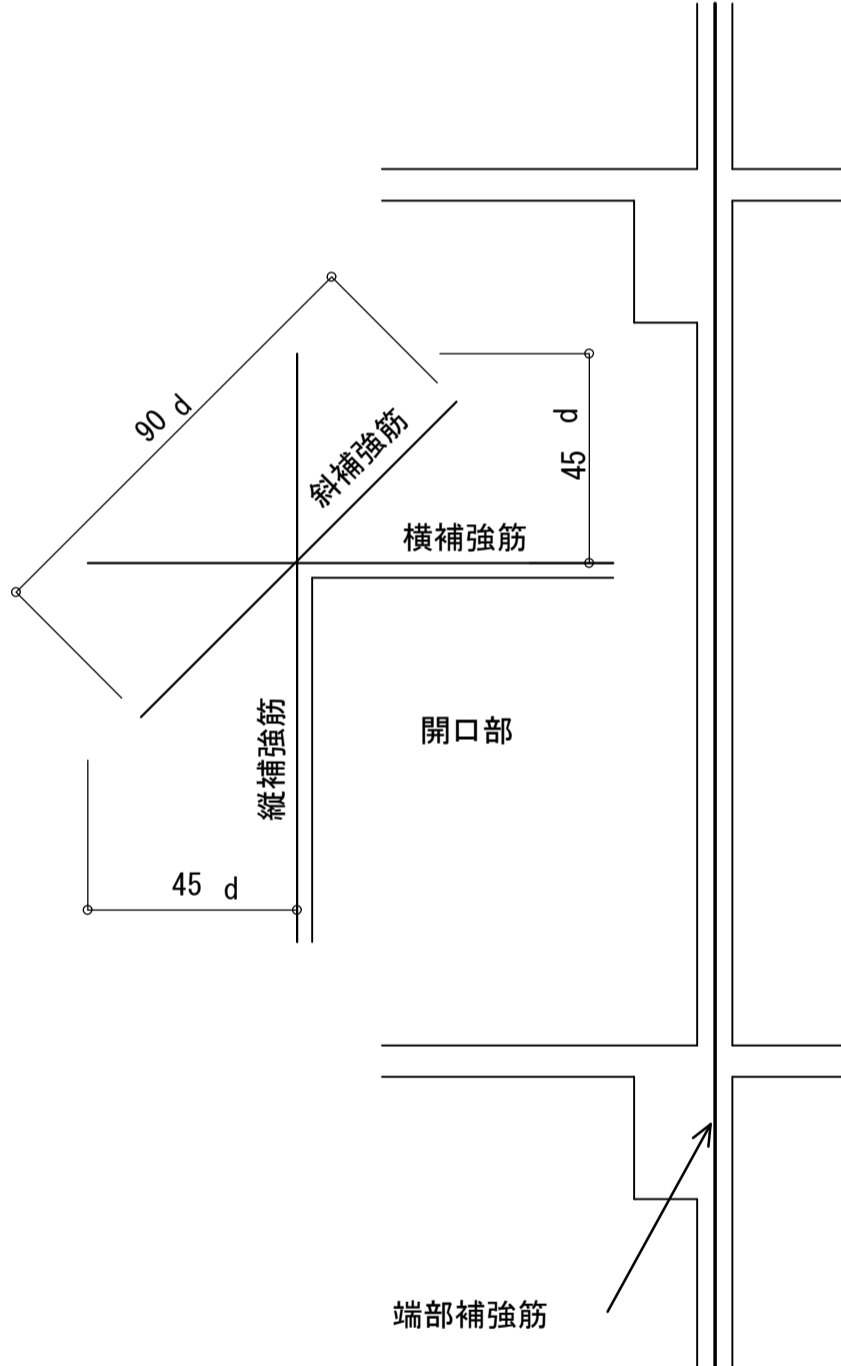
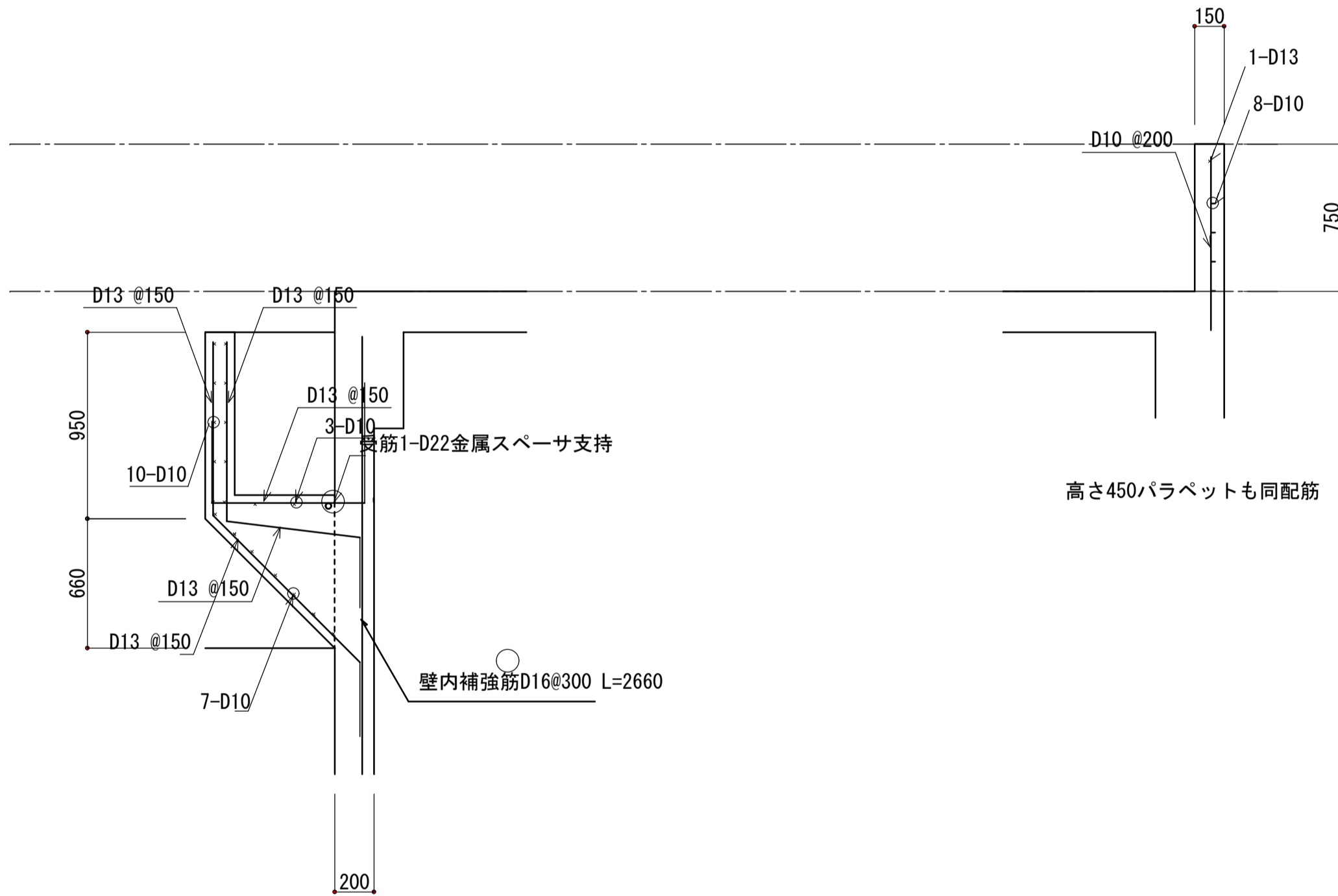
工事名称	遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事
図面名称	梁伏図・軸組図 (猛獣舎・観覧スペース 3)

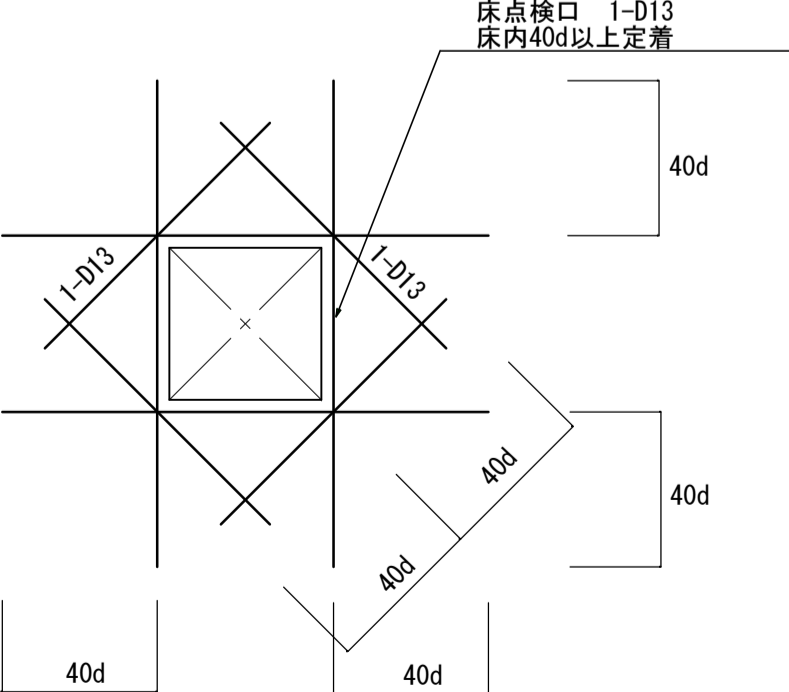
基礎リスト		1/25 , 1/50			
符 号		F 1	F 2	F 3	F 4
断面					
材料強度	使用材料	コンクリート Fc=24	異形鉄筋 SD345 (D19, D22)	SD295A (その他)	

R C柱リスト					
S=1/25 , 50		ダイヤ筋は施工上必要であれば @5 0 0 程度にいれる			
符 号	1 C 1	1 C 2	1 C 3	1 C 4	
1F					
主筋	12-D22	12-D22	16-D22	16-D22	
帯筋 X方向	2-D10@100	2-D10@100	2-D10@100	2-D10@100	
帯筋 Y方向	2-D10@100	2-D10@100	2-D10@100	3-D10@100	

基礎梁リスト						
符 号	FG1	FG2	FG3	FG4	FCG1	FB1
	全断面	左端      右端	左端      右端	全断面	全断面	全断面
						
上端主筋	7- D22	7- D22	3- D22	3- D22	3- D22	3- D22
下端主筋	7- D22	7- D22	3- D22	3- D22	3- D22	3- D22
肋筋	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200	2-D13@200
腹筋	8-D10	16-D10	16-D10	8-D10	2-D10	2-D10

梁リスト		S=1/25 , 50		腹筋用巾止筋は各段 1m以内に 1ヶ所とする		
符 号	RG 1	RG 2	RG 3	RG 4	RCG 1	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断 面						
上 端 筋	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22	
下 端 筋	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22	3 - D22	
スターラップ	2-D10 @ 200	2-D10 @ 200	2-D13 @ 200	2-D10 @ 200	2-D10 @ 200	
腹 筋	2 -D10	2 -D10	2 -D10	2 -D10	2 -D10	

壁リスト			S=1/50 , 25			植栽柵配筋図			パラベット配筋図		
記号		W 2 O	開口補強要領								
断面			<div><div>・壁巾止め筋は 1 mに 1 箇所 1－D 1 0 を設ける</div><div>・壁開口補強筋は直列としてもよい</div><div>・左図断面は鉛直断面を示す</div></div> 								
縦筋		D10 @200ダブル									
横筋		D10 @200ダブル									
開口補強	縦補強筋	2－D13									
	横補強筋	2－D13									
	斜補強筋	2－D13									
端部補強筋		2－D16									

床版 リスト												床 開口補強	
	階	記号	版厚		短辺方向	長辺方向	記号	版厚		短辺方向	長辺方向		
	R階	S 1	210	上筋	D13 @ 150	D13 @ 150	CS 1	150	上筋	D13 @ 150	D10 @ 200		
				下筋	D13 @ 150	D13 @ 150			下筋	D13 @ 150	D10 @ 200		
	1階	S 1	150	上筋	D10 @ 200	D10 @ 200	CS 1	150	上筋	D13 @ 150	D10 @ 200		
				下筋	D10 @ 200	D10 @ 200			下筋	D13 @ 150	D10 @ 200		

特 記 \_\_\_\_\_  
事 項 \_\_\_\_\_



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮 尺	工事名称	遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事
			A1→1/25 A3→1/50	図面名称	梁・その他構造材リスト(観覧スペース3)
			設計年月日 2023. 03. 31		

No. S-35

スリーエスG-cube工法特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、セメントスラリーを用いたスラリー系機械攪拌式深層混合処理工法による地盤改良地業である。  
この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、現地盤をコラム状に固化する地盤改良を行うものである。

2. 一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（平成14年11月30日 財団法人 日本建築センター、以下指針という）による。

3. 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度（改良長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。但し、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。
- (2) コラム設計基準強度はFc=900kN/㎡とする
- (3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。
- (4) セメントスラリーを用いた機械攪拌式深層混合処理工法のスリーエスG工法協会に所属する会員とする。
- (5) 工法の選定は、（財）日本建築総合試験所において下記の性能証明を有する工法を選定する。

①変動係数25%が砂質土、粘性土、ローム地盤で採用できること。

②小規模建築物に対する品質管理が規定されていること。

③材齢7日強度で合否判定が可能であると認定されていること。
- (6) 品質及び施工管理は、スリーエスG工法品質・施工管理マニュアルに基づいて行うものとする。

4. 施工計画

工事に先立ち、施工計画書を監査員に提出する。施工計画書は次の事項を明記する。

- (1) 地盤概要
- (2) 工事内容（コラム径・コラム長・空掘り長・コラム数・設計基準強度）
- (3) 工事期間及び工程
- (4) 工事要領（使用固化材・配合・攪拌翼の昇降速度・吐出力等）
- (5) 施工機器及び仮設設備と配置
- (6) 配合管理・施工管理・品質管理の方法
- (7) 建築技術性能証明書
- (8) その他、必要事項

5. 施工機械

- (1) 攪拌翼はセメントスラリーと原位置土を確実に攪拌混合するための共回り現象を防止する攪拌装置を装備すること
- (2) 攪拌翼は上下にセメントスラリー吐出口を設け、掘削時に下吐出口から引上げ時に上吐出口からセメントスラリーを吐出可能な吐出切替構造であること
- (3) 所定の施工管理項目の計測及び記録ができる管理装置を用いること
- (4) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したものでリーダー付及び自走式タイプであること
- (5) ミキシングプラントは所定吐出力を十分供給できる能力を有していること

6. 配合試験

- (1) 本工事に先立ち現場から試料土を採取して、所定の室内配合試験を実施し、所要の強度が得られるよう配合条件を決定する。

試験名	室内配合試験
試料箇所数	1箇所

7. 配合管理

- (1) セメントスラリーに使用する固化材は、セメント及び、セメント系固化材とする。
- (2) 配合強度

配合強度  $X_f$  は設計基準強度Fcの1.7倍に設定する。

$$X_f = F_c \times 1.7$$

$X_f$  : 配合強度 (kN/㎡)

$F_c$  : 設計基準強度 (kN/㎡)

- (3) 配合量（固化材量とW/C）

室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。

$$X_{128} = X_f / \alpha_f$$

$X_{128}$  : 室内配合強度 (28日強度) (kN/㎡)

$X_f$  : 配合強度 (kN/㎡)

$\alpha_f$  : 現場／室内強度比（強度比0.65；実績より）

$$X_{17} = (X_f / \alpha_f) / \sigma_7$$

$X_{17}$  : 室内配合強度 (7日強度) (kN/㎡)

$X_f$  : 配合強度 (kN/㎡)

$\alpha_f$  : 現場／室内強度比（強度比0.65；実績より）

$\sigma_7$  : 材齢28日／材齢7日強度比

室内配合試験 (3日強度： $X_{13}$ ) により決定する場合は、 $X_{17}$  を材齢7日／材齢3日強度比で割った配合強度とする。

暫定配合量350 (kg/m<sup>3</sup>)、W/C＝70% 【最終的には配合試験により決定する。】

8. 品質検査

- (1) 設計対象層及び調査箇所数。

① 設計対象層は最弱層とし、砂質土、粘性土、ロームの土質区分では（シルト）とする。

② 設計対象層（最弱層）の深度は、GL-(3.40 ～ 4.40m) 付近とする。

表 1. 調査箇所数

項 目	採取部位	採取箇所数	備 考
小規模建築物における品質検査	頭部モールドコア	1箇所	材齢 7日
	深部モールドコア	1箇所	材齢 7日

注）深部モールドコアにおいて、 $X_{i7} < F_c$  の場合は、材齢28日強度を確認する。  
頭部モールドコアの抜き取り数は、改良体100本に1箇所以上とする。

- (2) メーターサンブラーによる品質管理

設計対象層に対しメーターサンブラーにてサンプリングを行う。

改良部の連続性、土塊混入状況、及び不良率の確認をフェノール試験、指圧試験により行う。

ただし、現場状況等によりメーターサンブラーによるサンプリングが困難な場合は、深部モールドコアを1箇所追加し、計2箇所  
でサンプリングすることによりメーターサンブラーの代用を行う。

高温養生（60℃）による材齢1日圧縮試験を行う。

これらにより、健全な品質を確認しモールドコア試験を実施する。

- (3) 合否の判定（小規模建築物における品質検査）

- ① 抜き取り 1 箇所に対して 3 個の供試体を採取する。
- ② 合否の判定はn個（コアの個数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。

$$X_i \geq F_c$$

$X_i$  : 検査対象層より採取した個々のコアの一軸圧縮強さ（材齢7日）（ $1 \leq i \leq n$ ）（kN/㎡）、  
（もし $X_{i7} < F_c$ の場合は、 $X_{i28} \geq F_c$ を確認する。）

$F_c$  : 設計基準強度 (kN/㎡)

n : コアの抜き取り個数

i : 個々の供試体

9. 工事報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。

- ① コラム伏図及び番号
- ② コラムの施工日
- ③ コラムの径及び改良長
- ④ 掘削深度
- ⑤ 固化材の配合と使用量
- ⑥ モールドコア圧縮強度試験結果



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮 尺
			A1→N/S A3→N/S
			設計年月日 2023. 03. 31

工事名称 遊亀公園附属動物園整備(建築主体)工事

図面名称 スリーエスG-cube工法特記仕様書(観覧スペース3)

S-36  
No.